

令和7年度 福井県 子育て意識調査

1. 調査目的

福井県の結婚や出生行動の現状を理解する。また、現在行っている少子化・子育て支援施策に対する住民の方の評価を調査することで、政策評価を行う。詳細な調査を行うことにより、福井県が抱えている少子化の現状を詳細に知り、今後の政策ニーズを考察し、現在の政策の見直しや施策提言に繋げる。

2. 調査設計

- (1) 調査対象：令和7年11月1日現在、20～40代の男女
- (2) 対象人数：福井県在住 4,400人（有効回答数 1,917人）
- (3) 選定方法：市町村別人口を考慮した上で、住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法：対象者に郵送により依頼文を配布し、対象者は依頼文記載のQRコードからオンラインで回答。回答期間中に督促を一回実施
- (5) 調査時期：2025年12月13日～2026年1月5日

3. 分析担当者

山口慎太郎（東京大学 大学院経済学研究科 教授）

茂木良平（ボンペウ・ファブラ大学 政治社会科学学部 研究員）

調査結果の概要

本調査の結果から、福井県における子育て環境は、高い行政満足度と持ち家率に支えられた安定感がある一方で、理想と現実の「性別役割分担のギャップ」および「将来的な経済不安」が、理想の子供数や追加の出産を阻む大きな要因となっていることが浮き彫りになった。

(1) 昨年度との比較

- ・ 子育て環境への満足度：居住地域の行政支援に対し「満足・まあまあ満足」と答えた層は、前年度の約42%から本年度は約48%へと緩やかな上昇が見られたが、全体としては昨年度と同様高い水準で推移している。個別施策についても同様で、比較的高い評価を得られている。
- ・ 依然として課題とされる施策の認知度：県のブランドイメージでもある「ふく育県」という言葉の意味を知っている人は全体で約2割と低い。また、県独自の14施策のうち、県民の半数以上が認知している施策は男女ともに4つと少ないまま変化が見られない。施策評価は高いものの認知度が低く、本来期待できる政策効果が十分に顕在化していない可能性が考えられる。
- ・ 理想の子供数と障壁：理想の子供数は兩年とも「2人」が最多であり、次いで「3人」となっている。理想こども数を実現できない、また追加の子供を望まない理由として、家事育児配分、労働環境、そして経済的理由である点も昨年から変化していない。家事・育児分担の理想は「5:5」とする世帯が過半数（約55%）なのに対し、実現できているのは回答者の14%で、8割は女性が多く負担しているという家庭内のジェンダーギャップは依然として大きい。また、2割の男性は週末労働を平均的にしており、4割は法定労働時間以上平均的に働いている現状も変化が見られない。

- ・ 育休取得割合と期間：調査時より 4 年以内に第一子を出産された男性に限定して見ると、育休を取得していない割合は 2024 年度の 58%から 2025 年度は 49%へと低下しており、取得自体は一定程度進んでいる。一方で、取得期間の内訳を見ると、「2 週間未満」での取得が 11%から 16%へと増加するなど、短期間での取得が中心となっている。育休取得が「しやすくなった」というよりも、「最低限取得する」形での利用が広がっている可能性があり、十分な期間の取得には依然としてハードルが存在することがうかがえる。
- ・ 希望育休取得期間とのギャップ：調査時より 4 年以内に第一子を出産した男性に限定して育休取得意向を見ると、年次による大きな変化は見られず、「2 週間～3 か月未満」や「3 か月～1 年未満」を希望する割合は兩年ともに安定している。一方で、実際の取得期間では「2 週間未満」での取得が増加しており、希望する期間よりも短期間での取得にとどまっているケースが多い。これらの結果から、育休取得に対する意欲は維持されているものの、職場環境の制約により、希望どおりの期間を取得できていない可能性が考えられる。

(2) 福井県の子育て環境への評価と認知度

福井県が掲げる「ふく育県」の理念や施策に対し、県民は概ね肯定的な評価を下している。

- ・ 高い満足度と定着した施策：居住地域の行政による子育て支援に対し、「満足」「まあまあ満足」と答えた割合は約半数にのぼる。特に「こども医療費の無料化」については、認知度が 9 割を超え、評価も非常に高くなっている。
- ・ 認知度の課題：「ふく育県」という言葉を聞いたことがある人は 8 割を超えるものの、その具体的な意味まで理解している層は 25%に留まる。また、「ふく育さん（家事育

児応援サポーター）」や「ふく育タクシー」などの個別施策は、半数前後が「初めて知った」と回答しており、施策の浸透に課題がある。

(3) 家庭内ジェンダーギャップの構造的課題

家事・育児の分担において、意識面では平等化が進んでいるものの、実態が伴わない状況が見て取れる。

- ・ 理想と現実の乖離：家事・育児分担について、55%の世帯が「夫5：妻5」の分担を理想としている。しかし現実には、夫の分担が1～3割に留まる世帯が過半数（約6割）を占めており、依然として女性側に負担が偏っている。
- ・ 女性の不満と決定プロセスの不在：この分担状況に対し、男性の満足度が約8割と高いのに対し、女性は45%が「不満がある」と回答している。また、分担方法について「特に話し合わず自然に決まった」とする世帯が5割を超えており、明確なコミュニケーションの欠如が女性側の不満を潜在化させている可能性がある。
- ・ 労働環境の影響：理想の分担を実現するために必要なこととして、男女共に「労働環境の整備（テレワークや時差出勤など）」を筆頭に挙げている。2割の男性は週末労働を平均的にしており、4割は法定労働時間以上平均的に働いていることから、質問項目に挙げられているテレワークなどの追加的な労働環境の整備だけでなく、日常の超過労働を是正することが求められていると考えられる。

(4) 多子世帯化を阻む壁と教育費への懸念

理想とする子供の数（2人～3人）と、実際の予定には大きな隔りがある。

- ・追加出産の抑制要因：今後3年以内に子供を持つことを「考えていない」層が55%に達している。その最大の理由は「経済的余裕の不足（68%）」であり、肉体的・精神的負担を大きく上回る懸念事項となっている。
- ・大学進学と支援の効果：こどもの進学先として「県内大学」を選ぶ可能性については、授業料支援があることで約8割の人が「高まる」と回答している。特に「全額支援（約50万円以上）」を希望する声が半数を超えており、高等教育における経済的負担の軽減が、多子世帯化や県内定着への鍵を握っている。

（5）住環境と通勤の利便性（福井の特色）

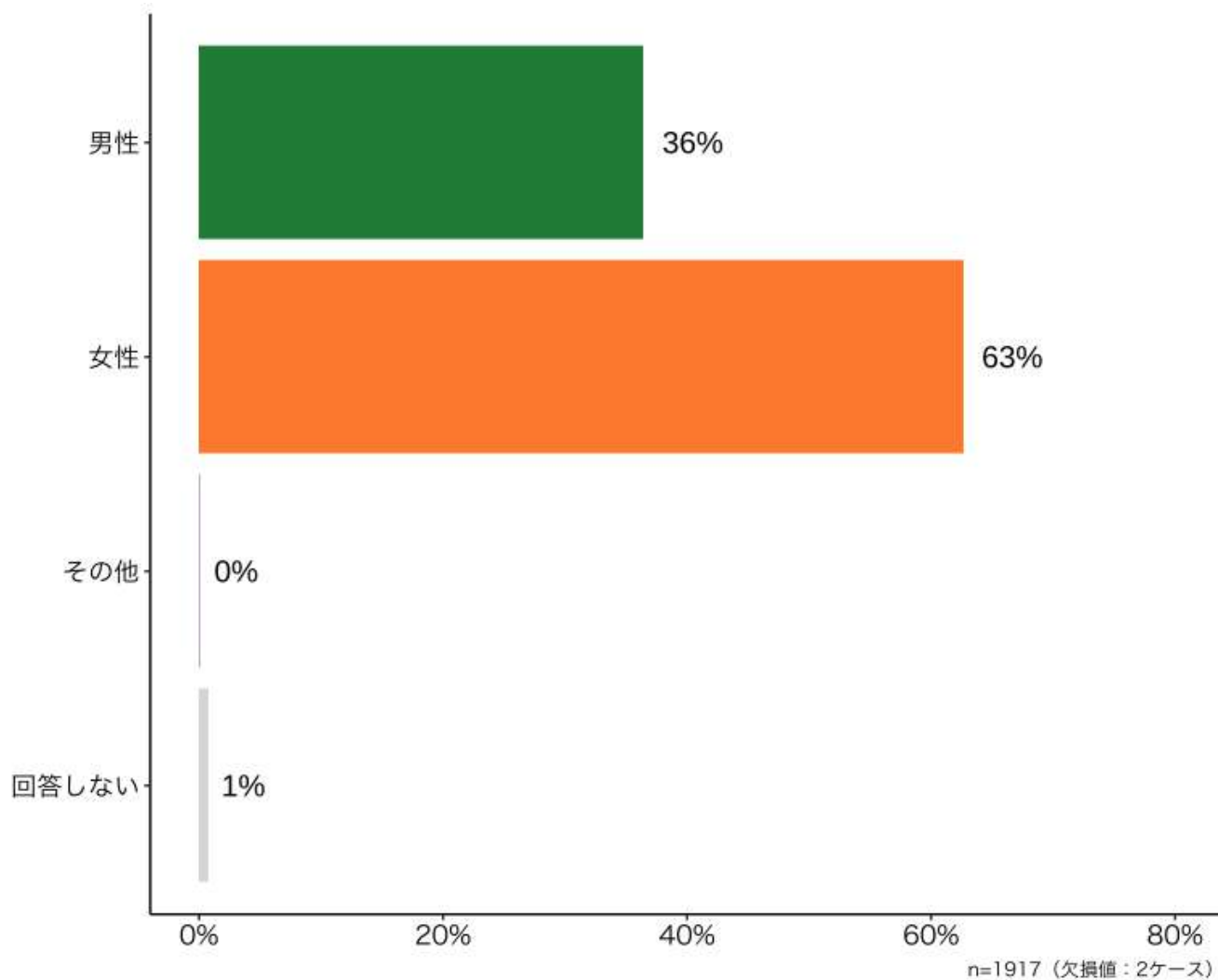
福井県ならではの強みとして、安定した住環境が確認された。

- ・高い持ち家率と近居率：回答者の89%が戸建てに住んでおり、約4割が3世代同居または近居という環境にある。
- ・短い通勤時間：通勤時間が30分以内の層が約8割を占めており、職住近接の環境が整っている。この良好な住環境・通勤環境を、いかに家事・育児への時間創出（特に男性）に繋げられるかが、今後の鍵となるだろう。

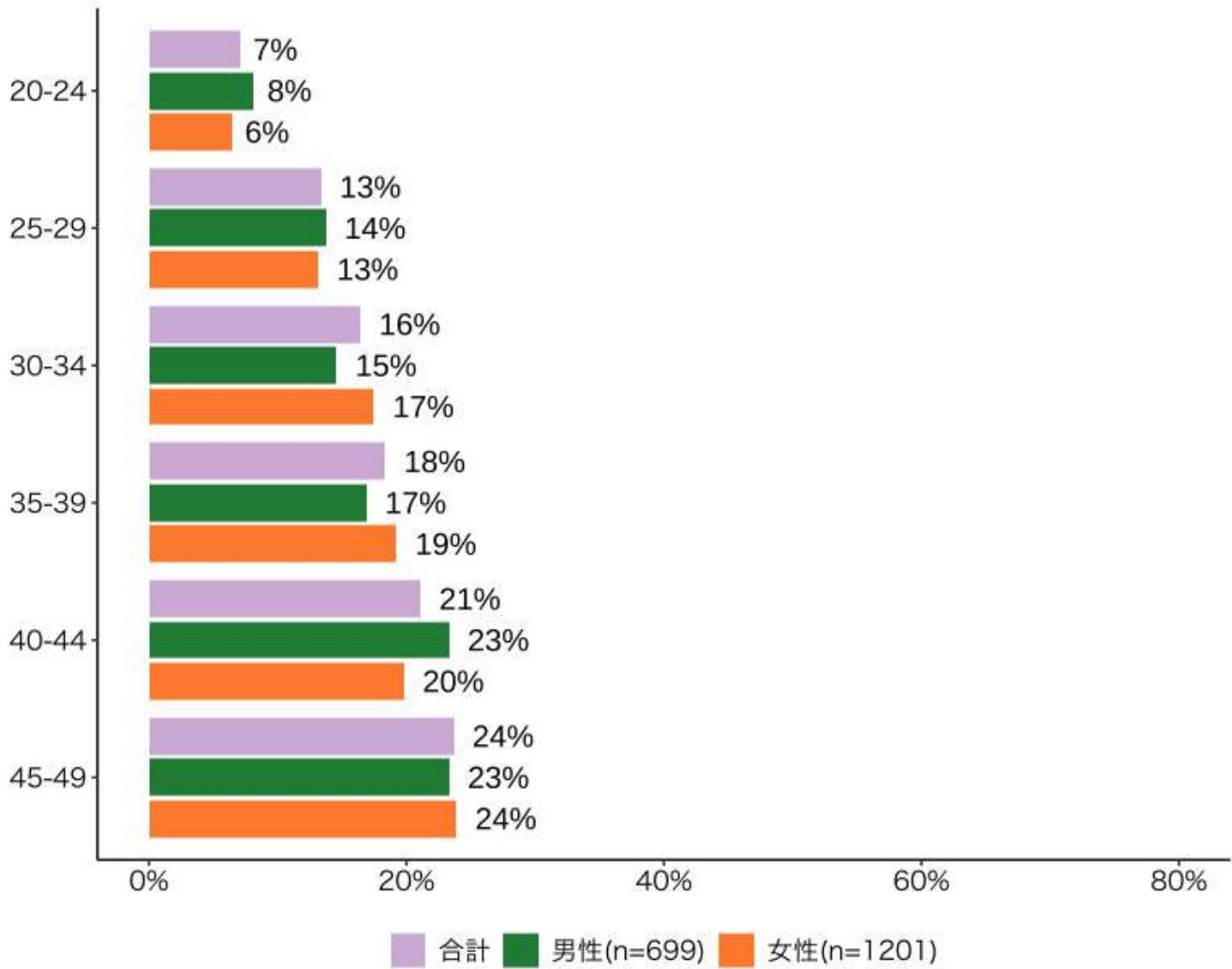
調査結果

1. 回答者の属性に関すること

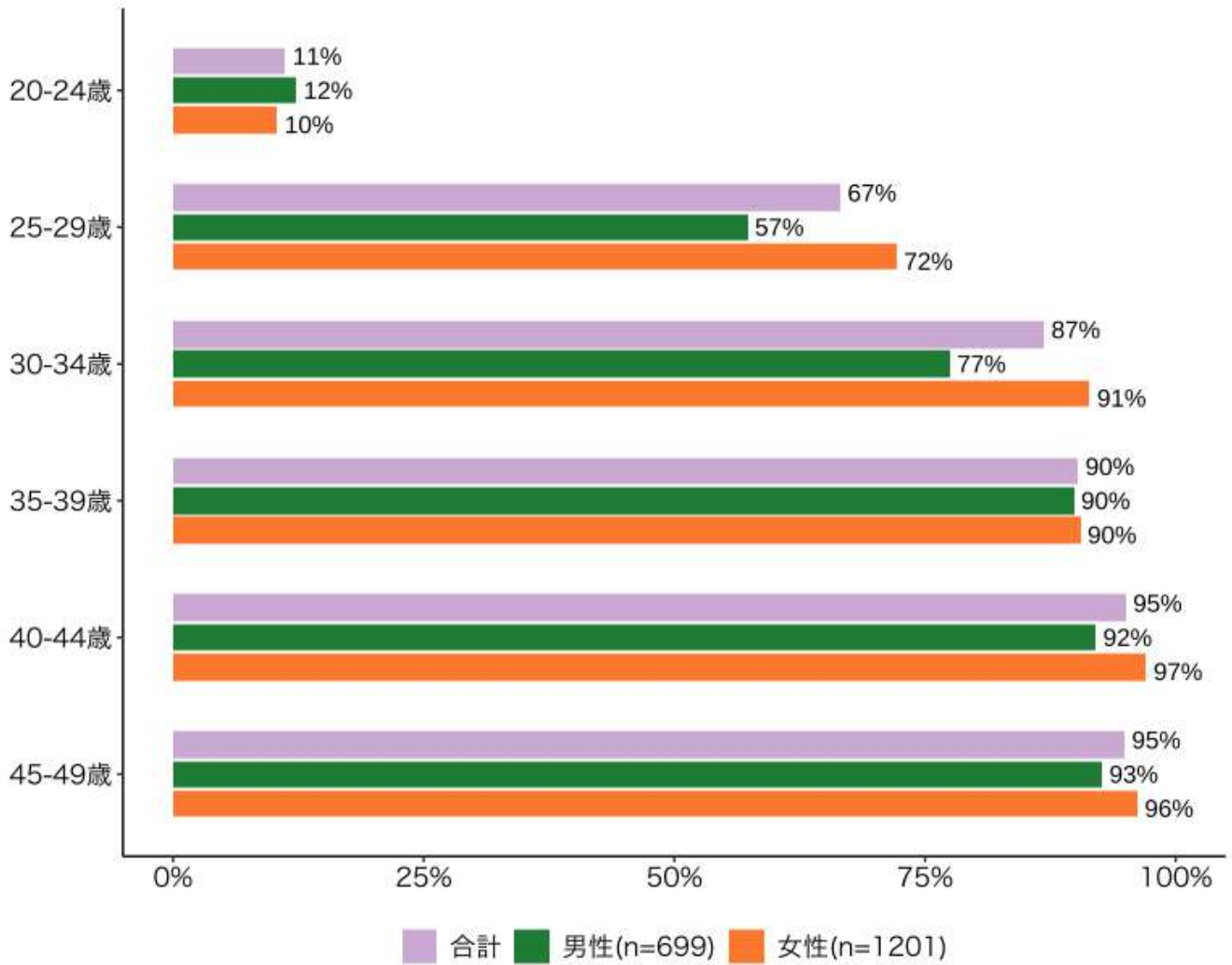
問1 性別【全員回答、必須】



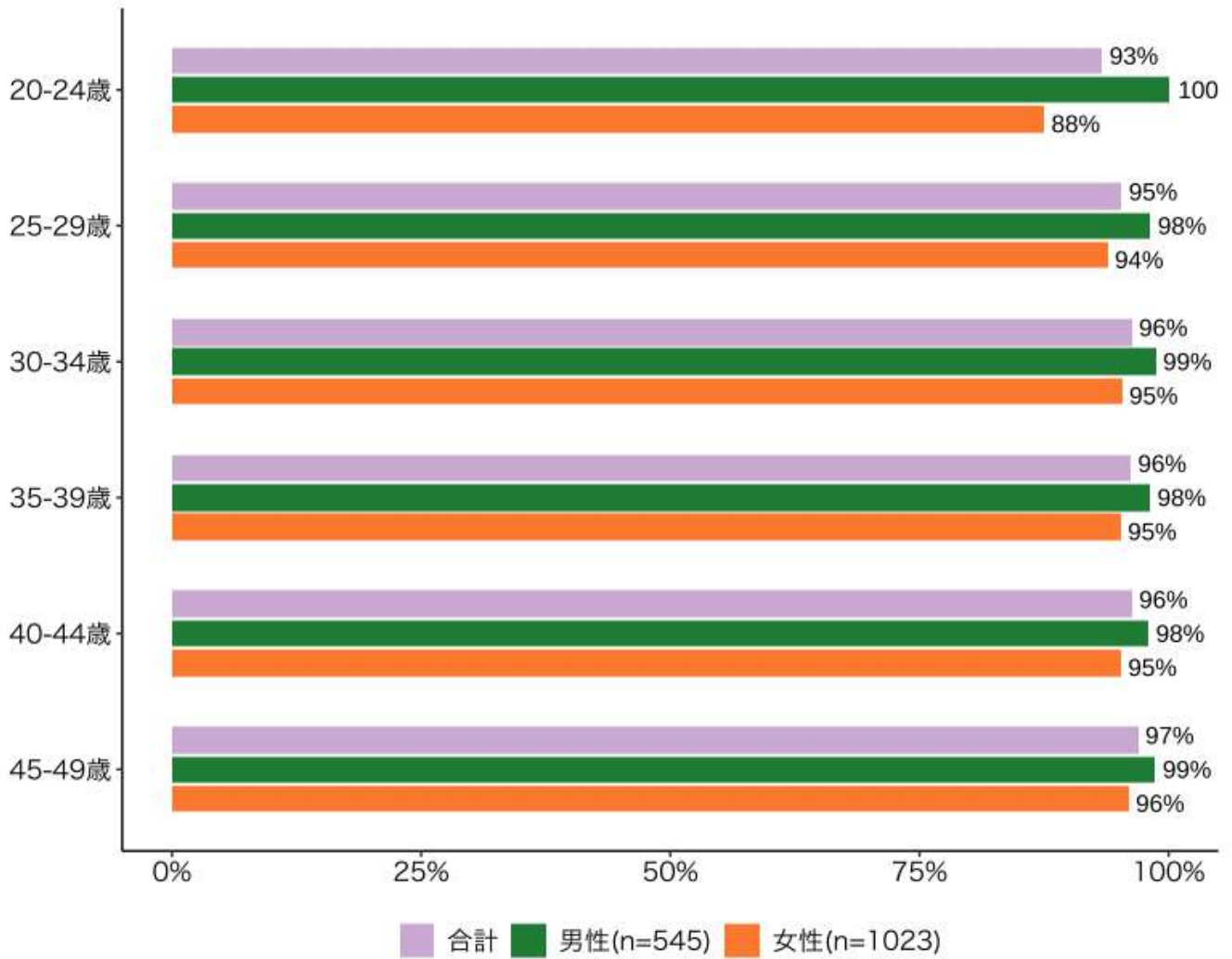
問2 年齢【全員回答、必須】



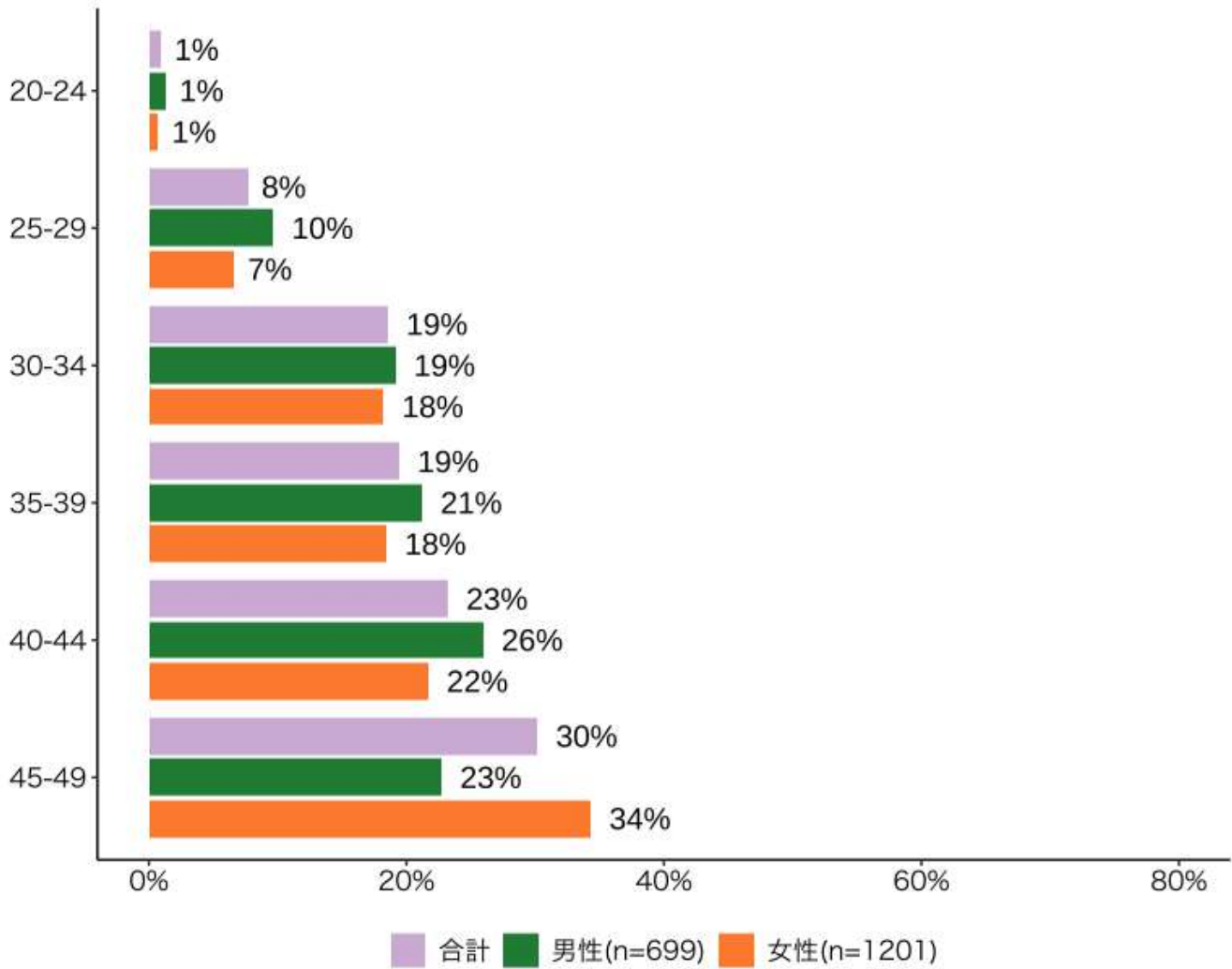
問4 結婚の有無【全員回答、必須】



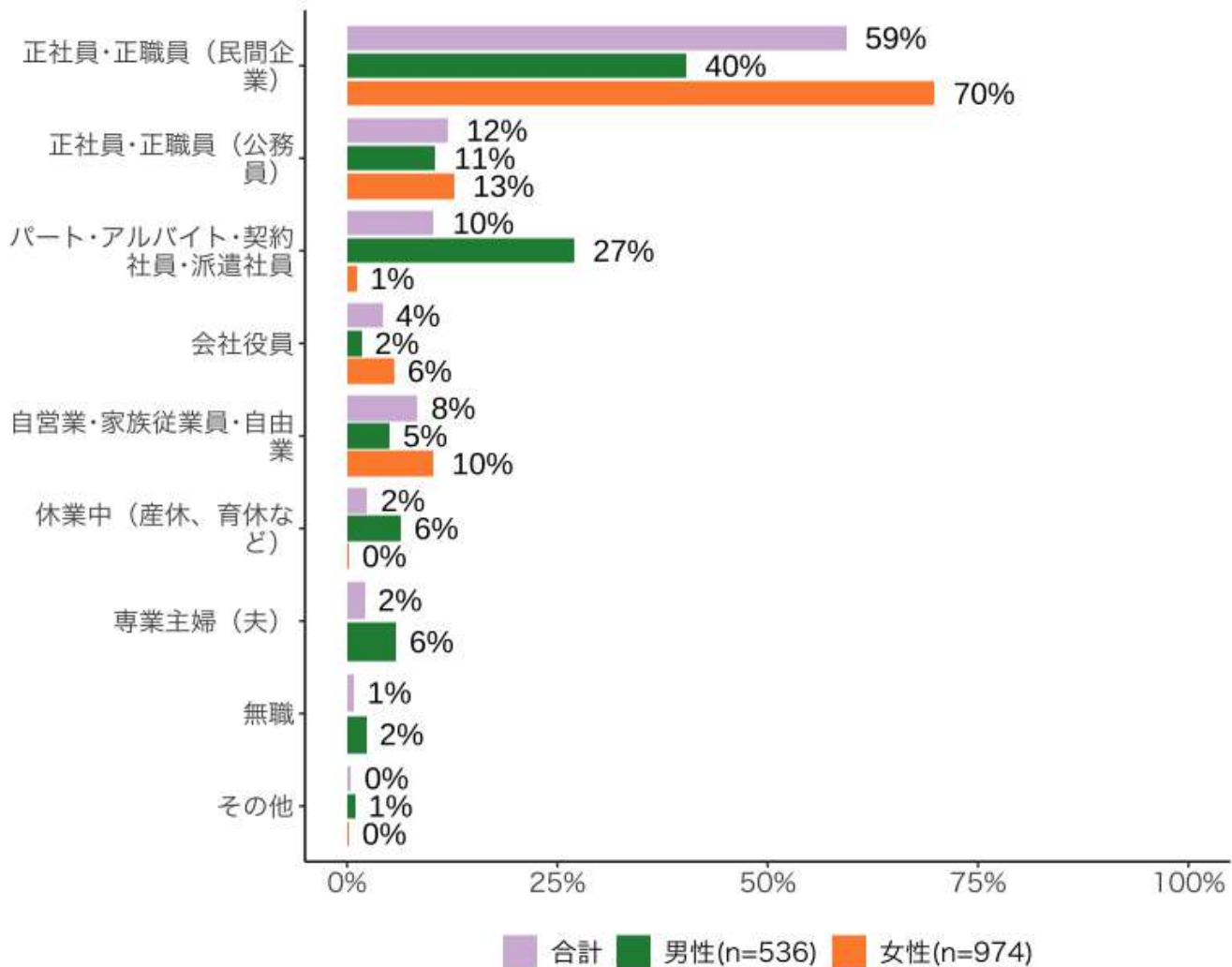
問5 現在、配偶者がいますか【問4で①と回答した方のみ】



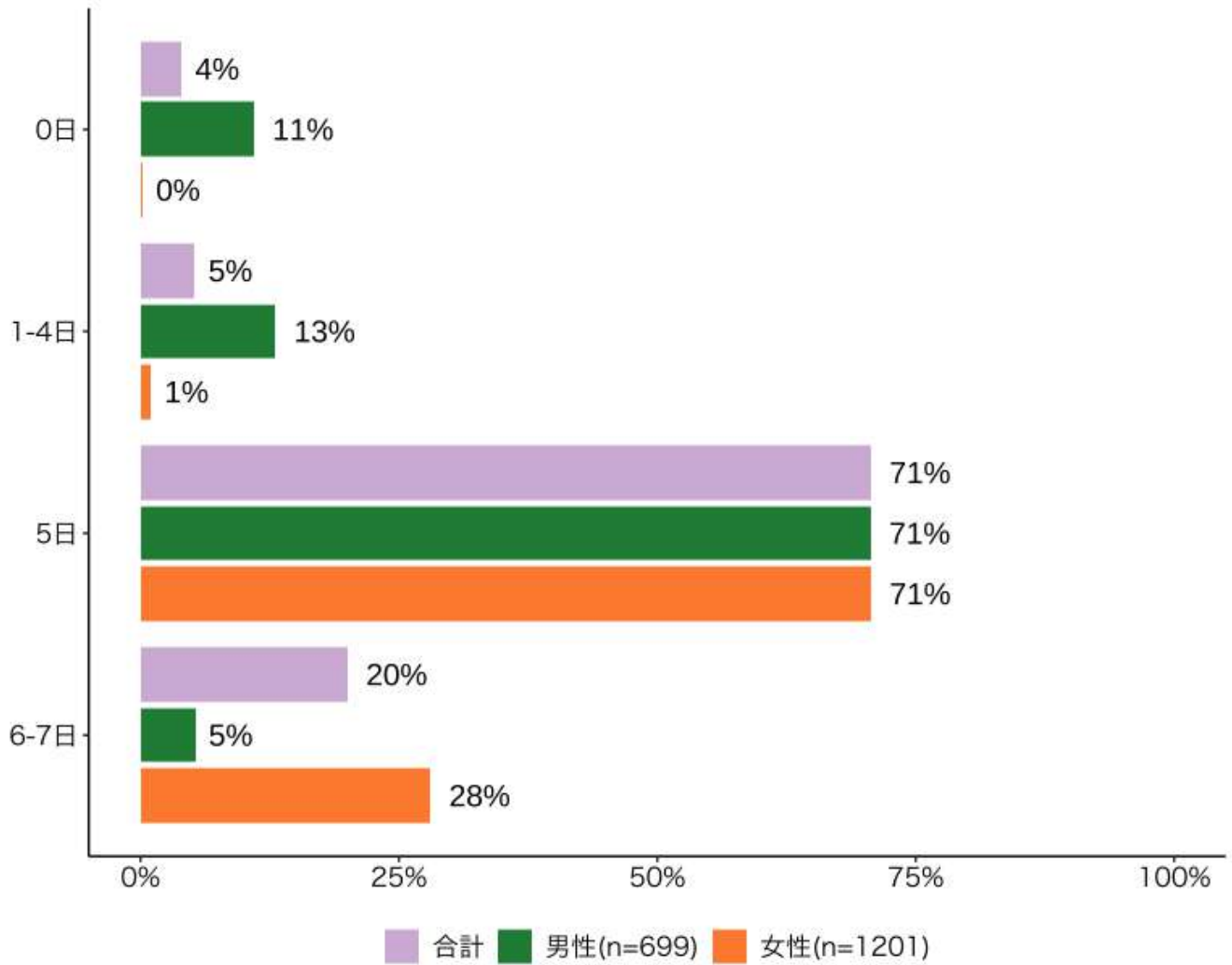
問6 配偶者の年齢【問5で①と回答した方のみ】



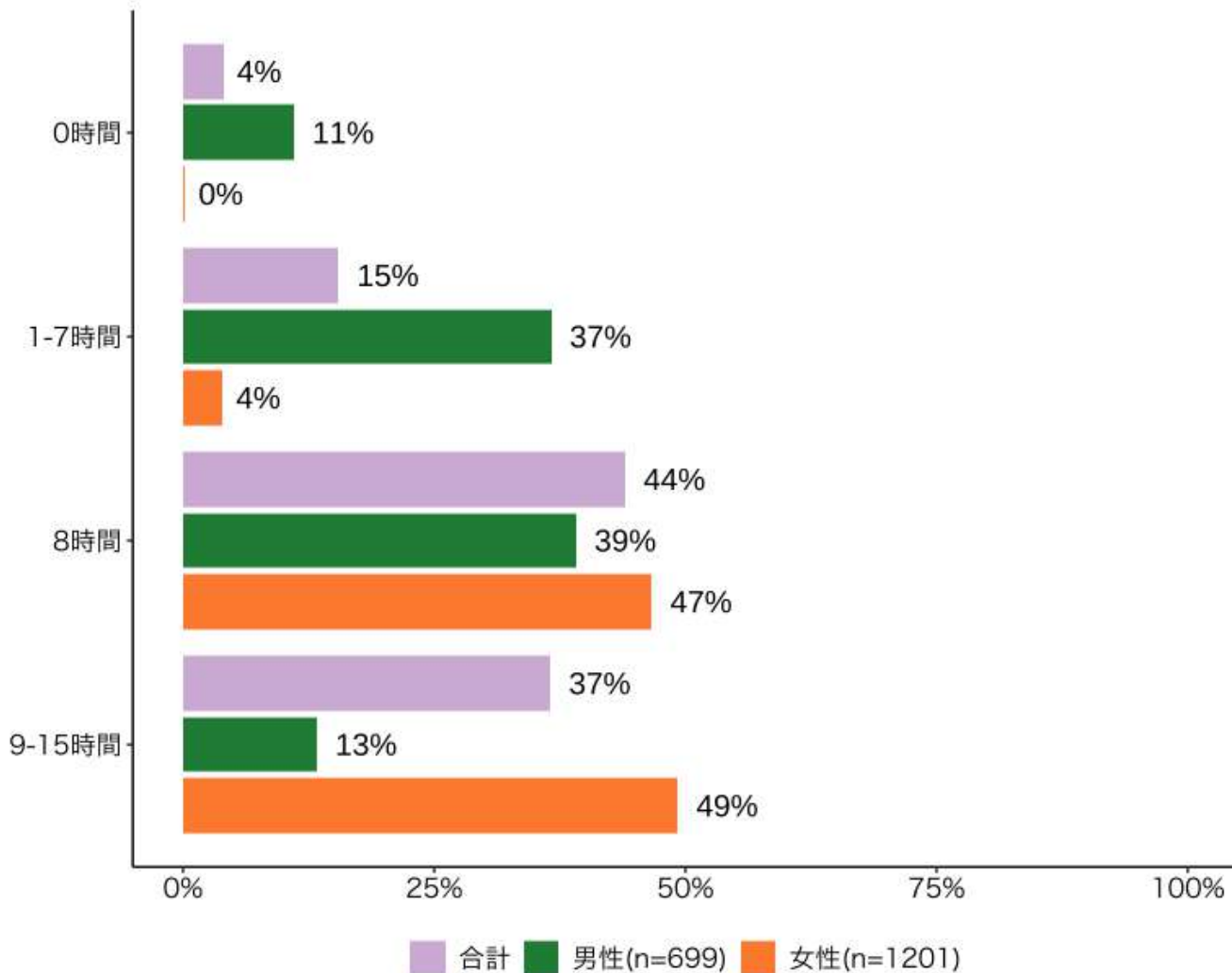
問7 配偶者の就労形態【問5で①と回答した方のみ】



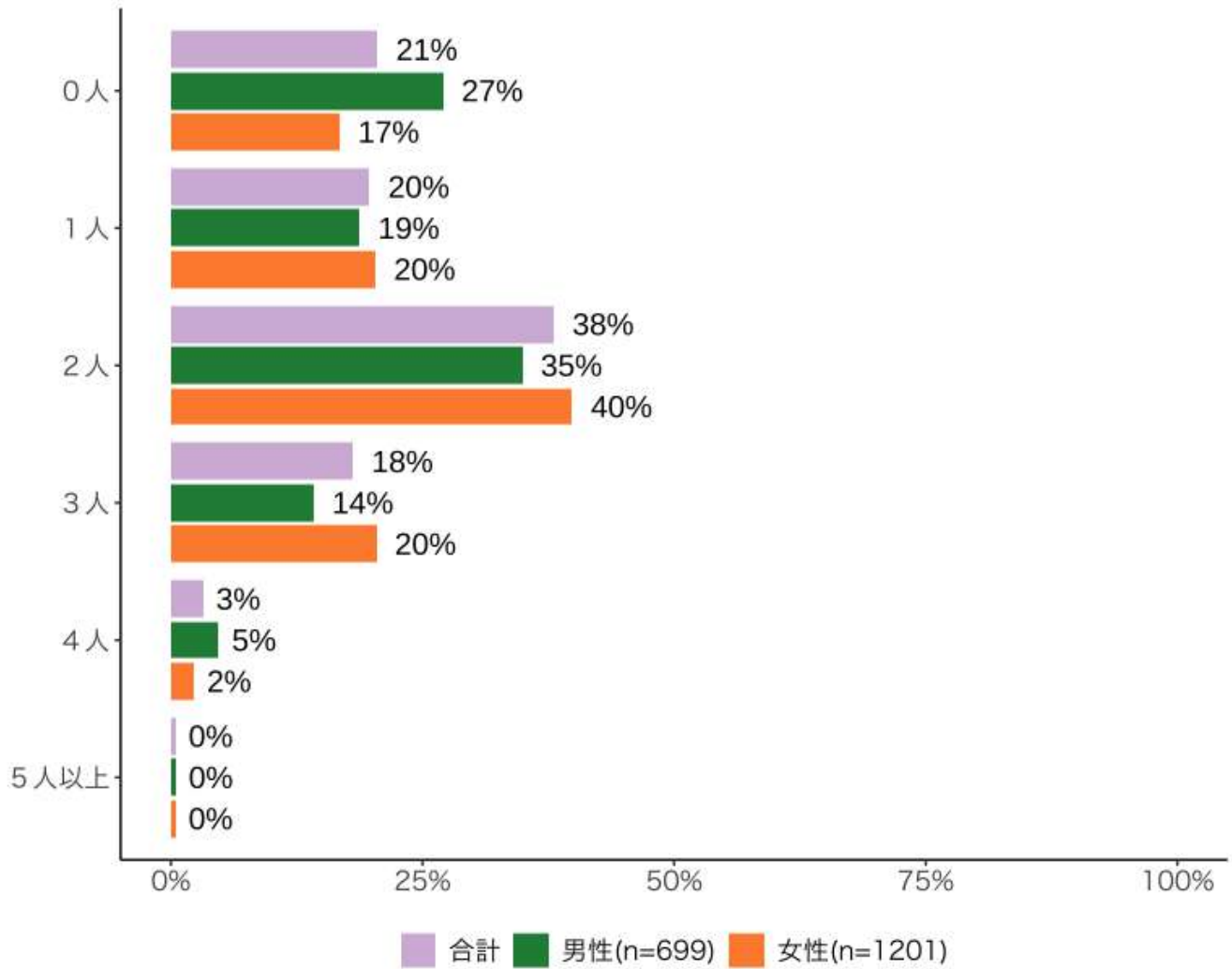
問8 配偶者の1週間の平均的な労働日数【問5で①と回答した方のみ】



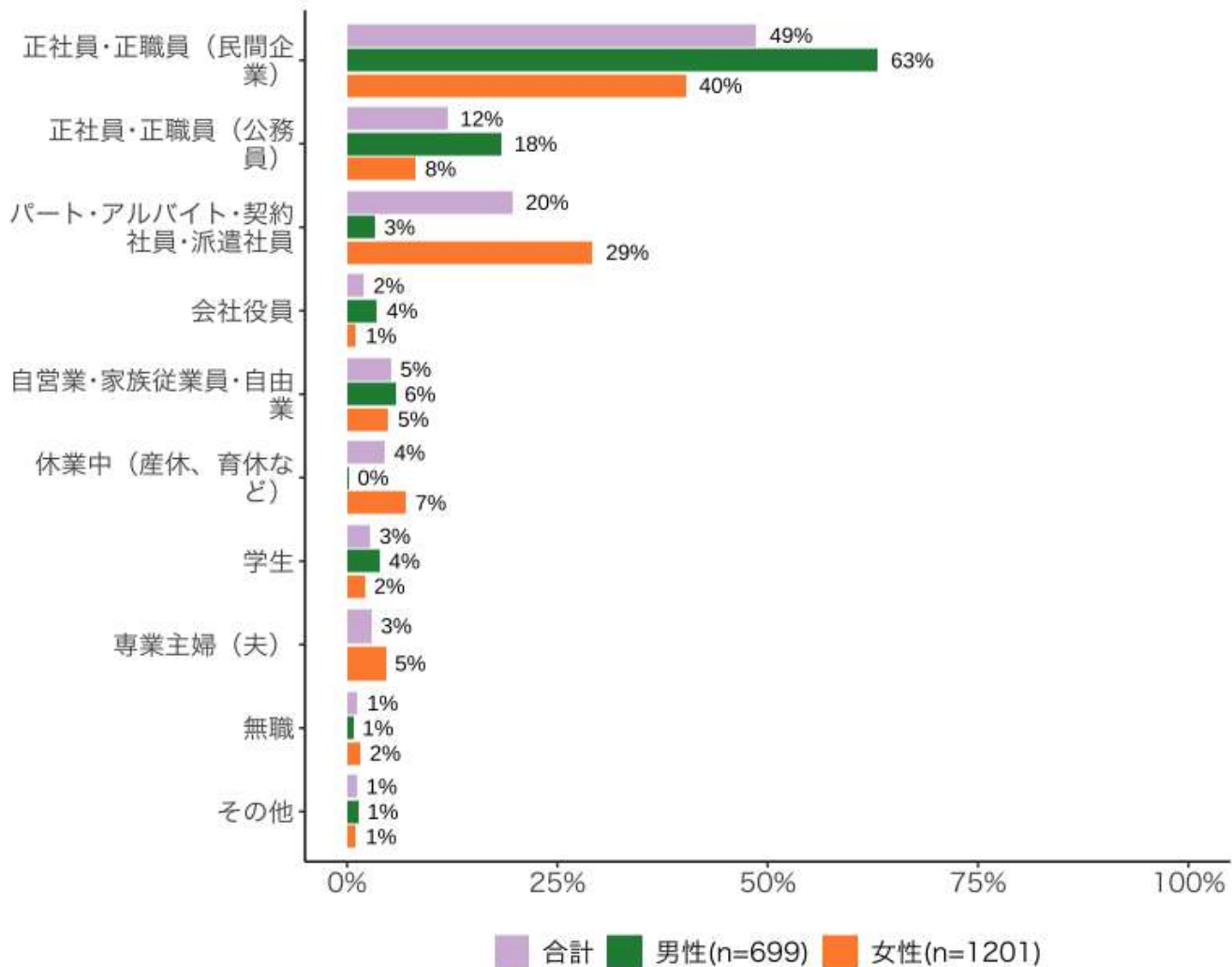
問9 配偶者の1日の平均的な労働時間【問5で①と回答した方のみ】



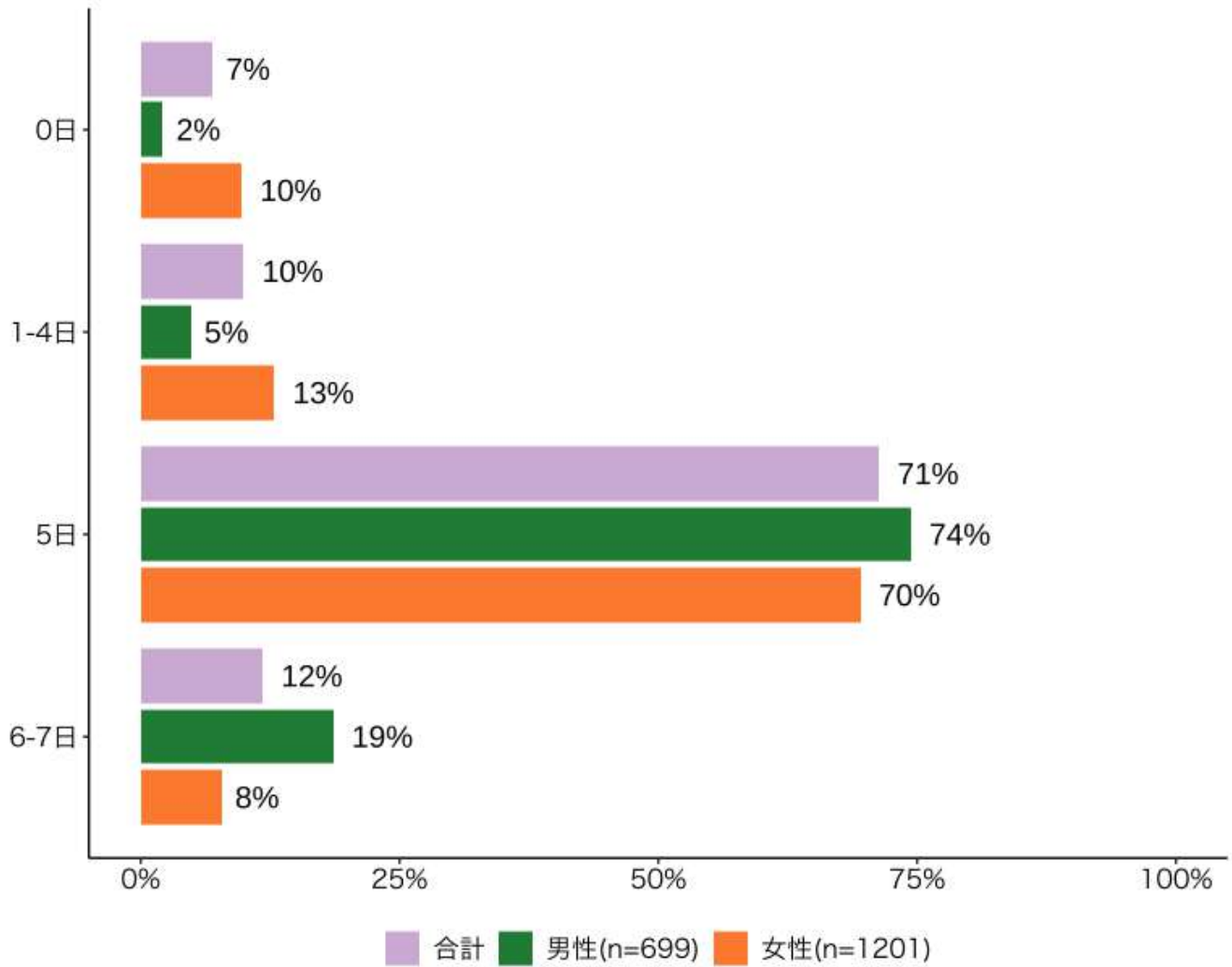
問 10 現在のこどもの数【全員回答、必須】



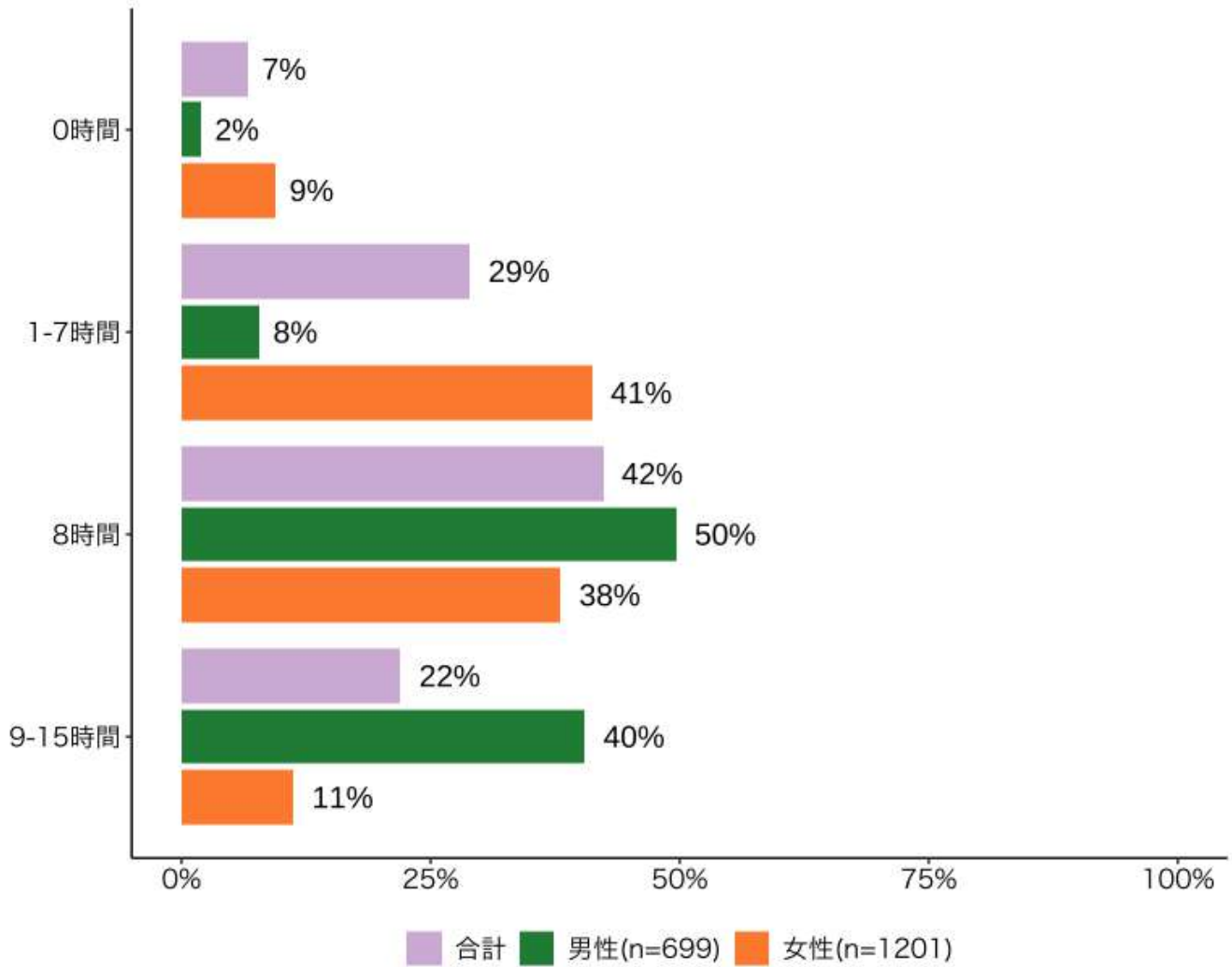
問 11 (回答者ご本人の) 就労形態 (あてはまるものを1つ選択) 【全員回答、必須】



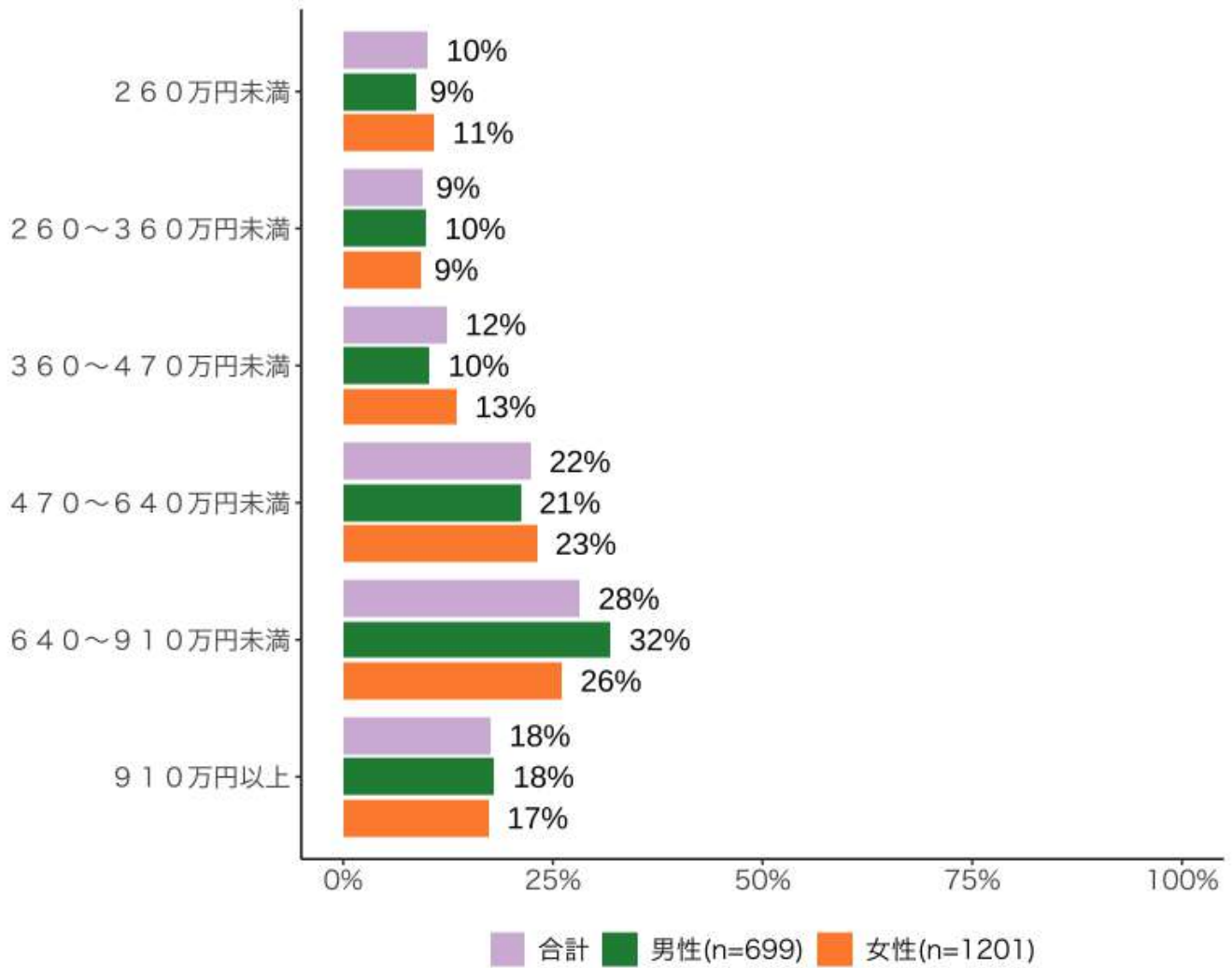
問 12 1 週間の平均的な労働日数【問 5 で①と回答した方のみ】



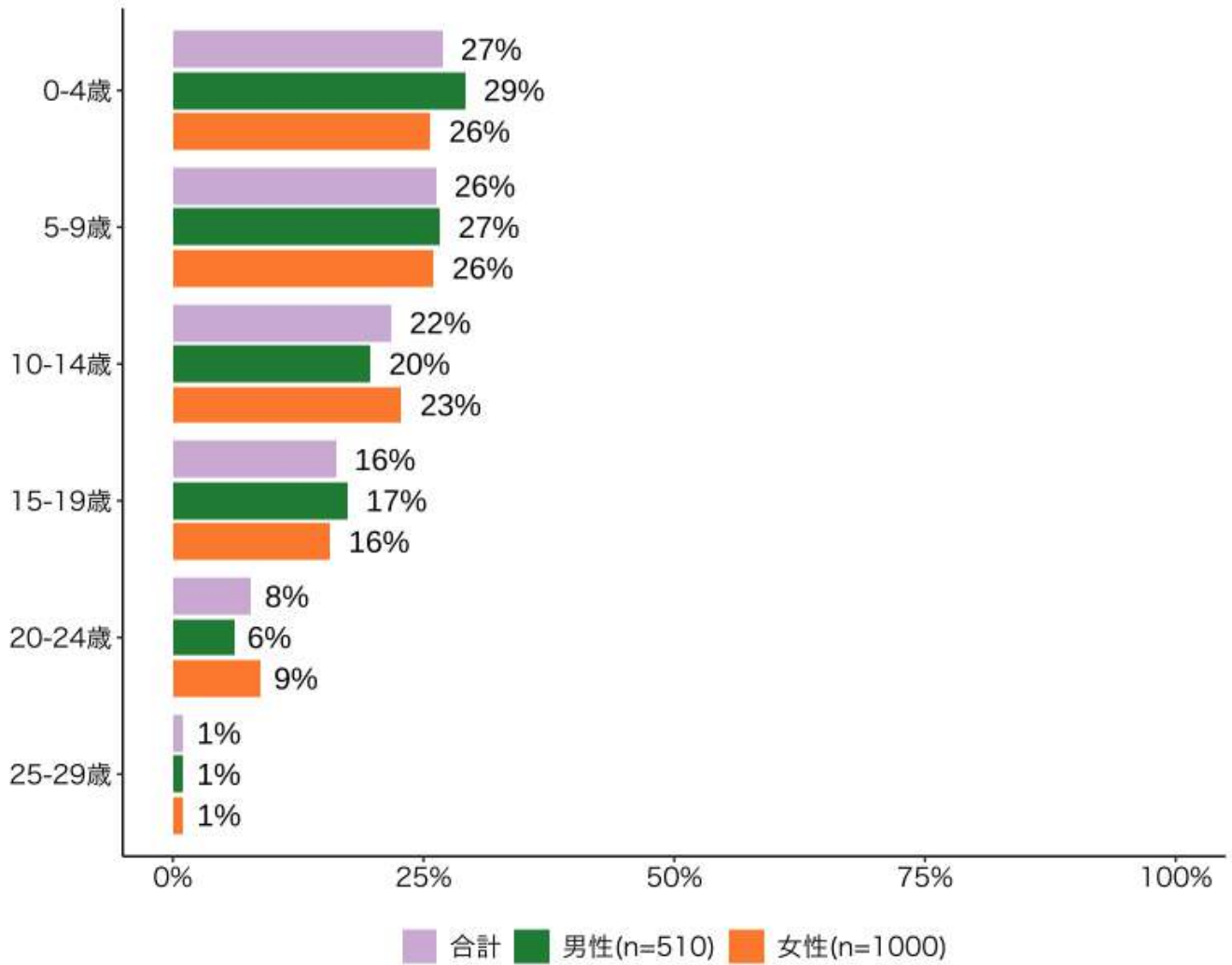
問 13 1日の平均的な労働時間【問5で①と回答した方のみ】



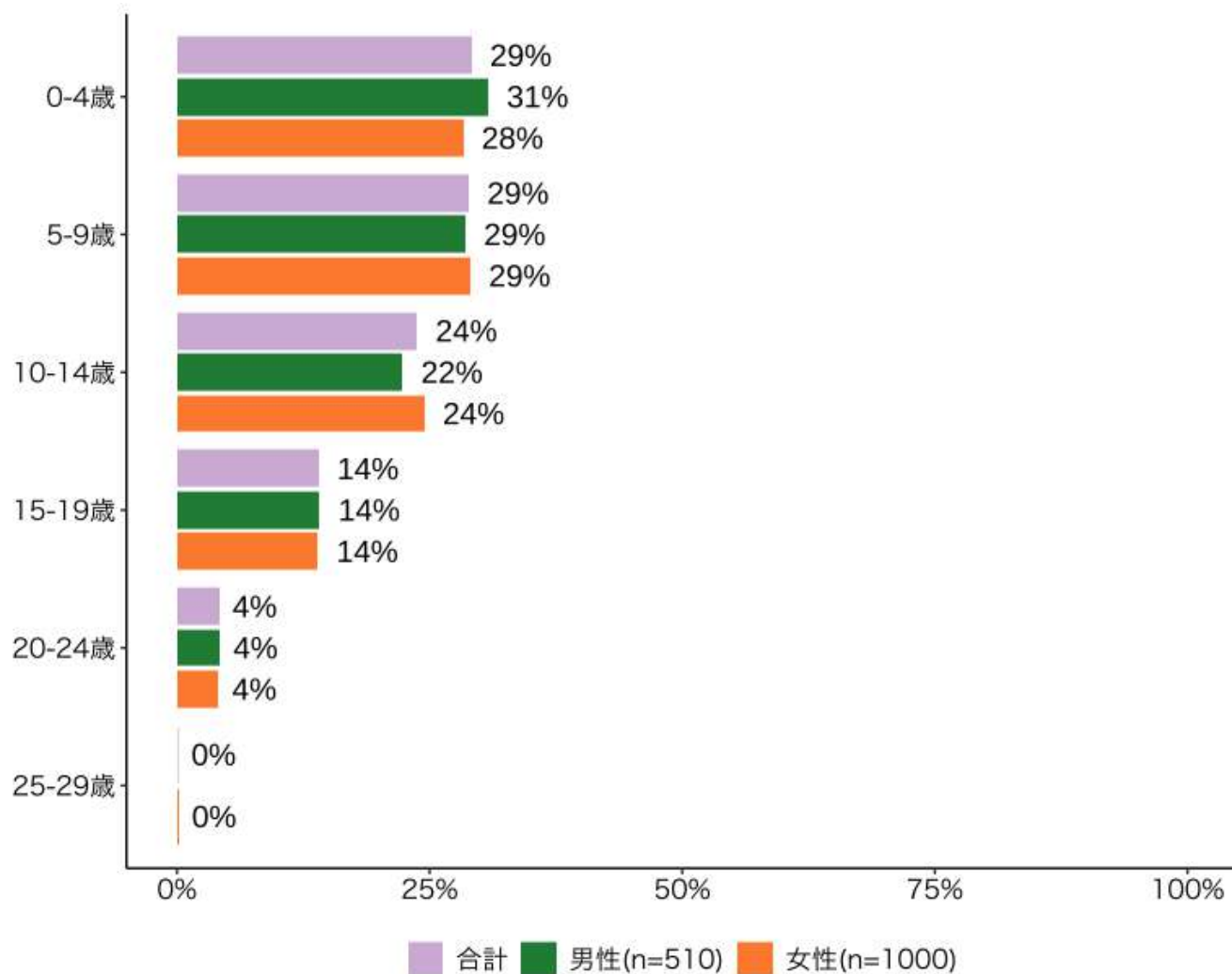
問 14 ご自身と配偶者を合わせた昨年1年間の年収、配偶者がいない場合はご自身だけの年収【全員回答、必須】



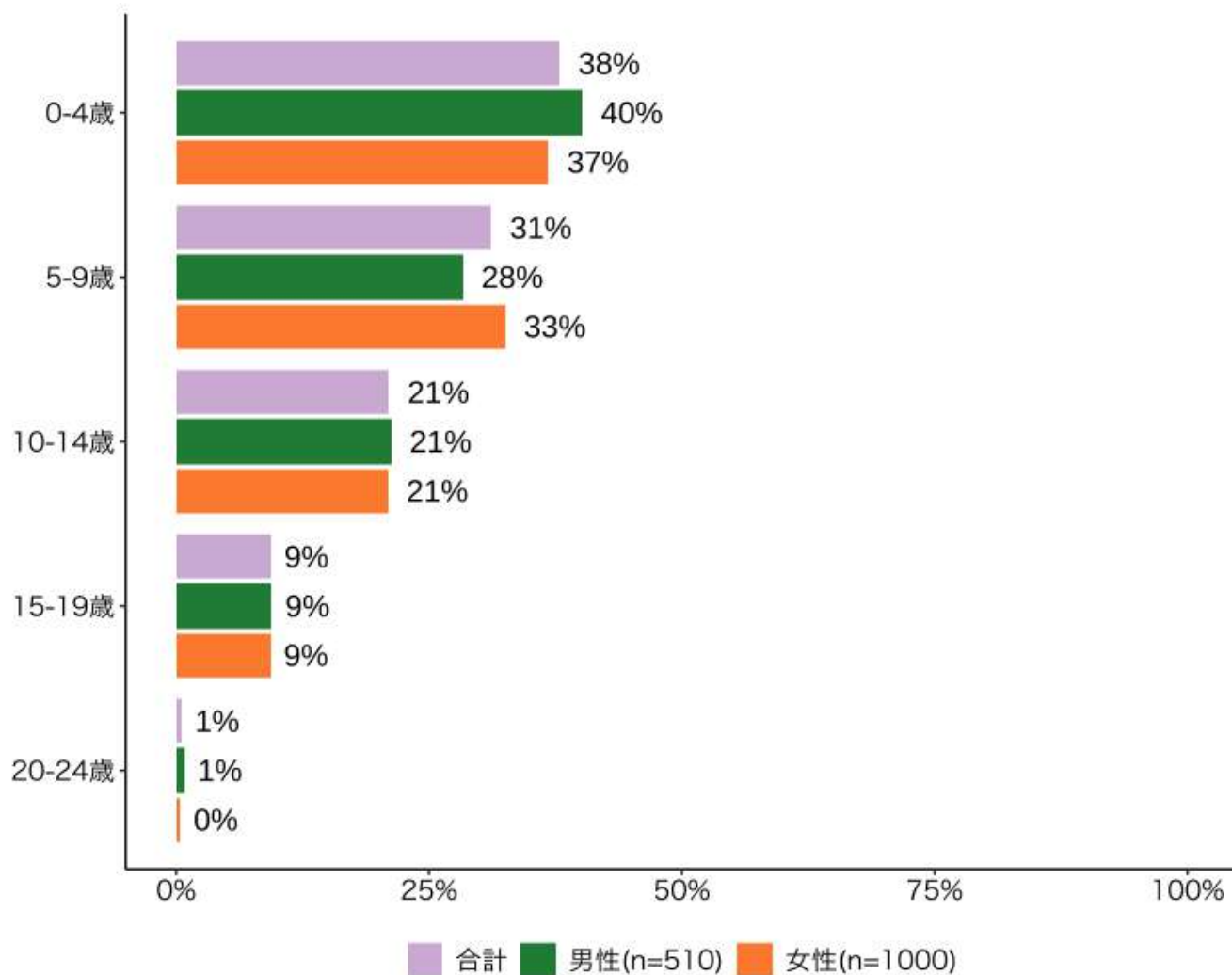
問 15 第一子の年齢【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



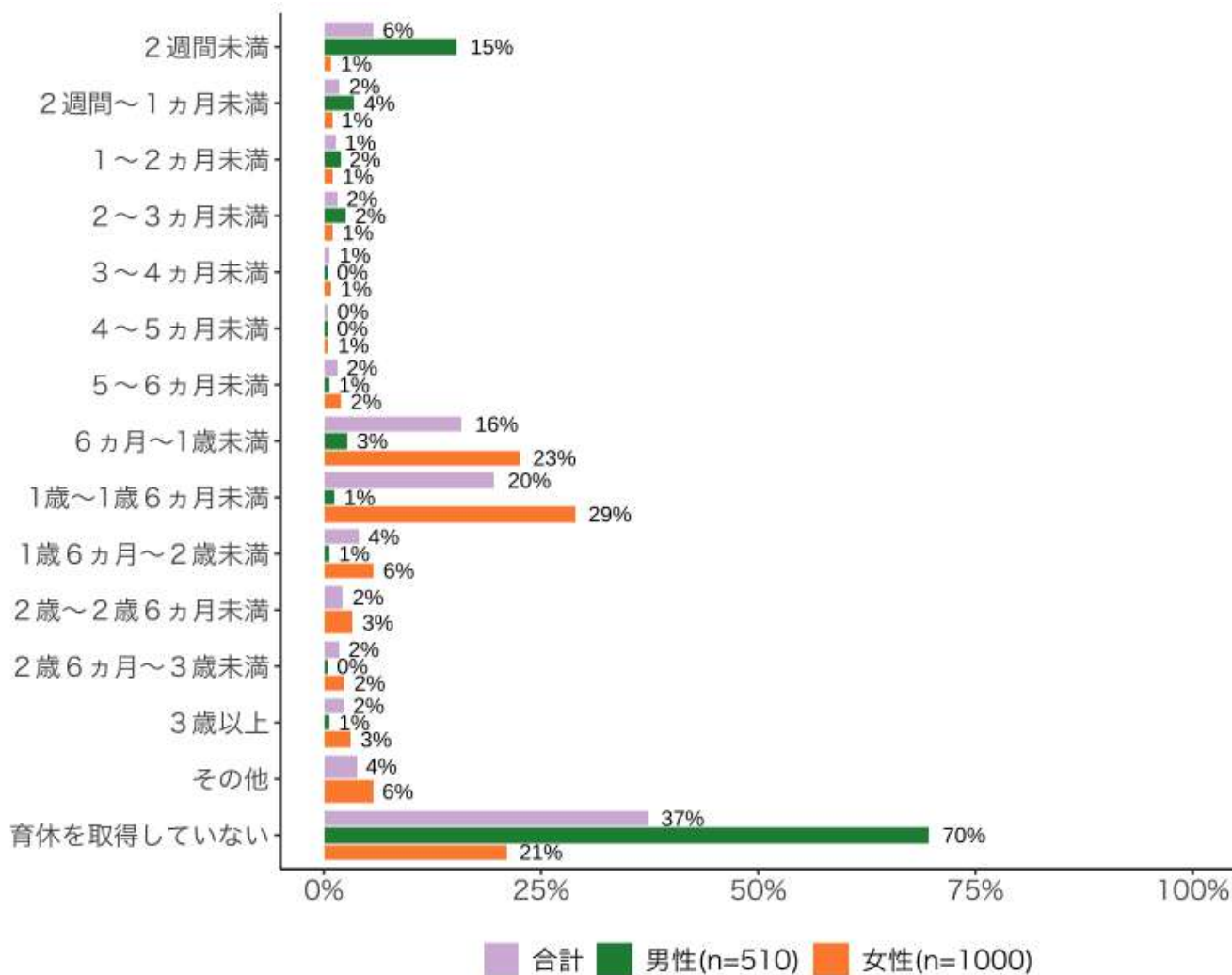
第二子の年齢【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



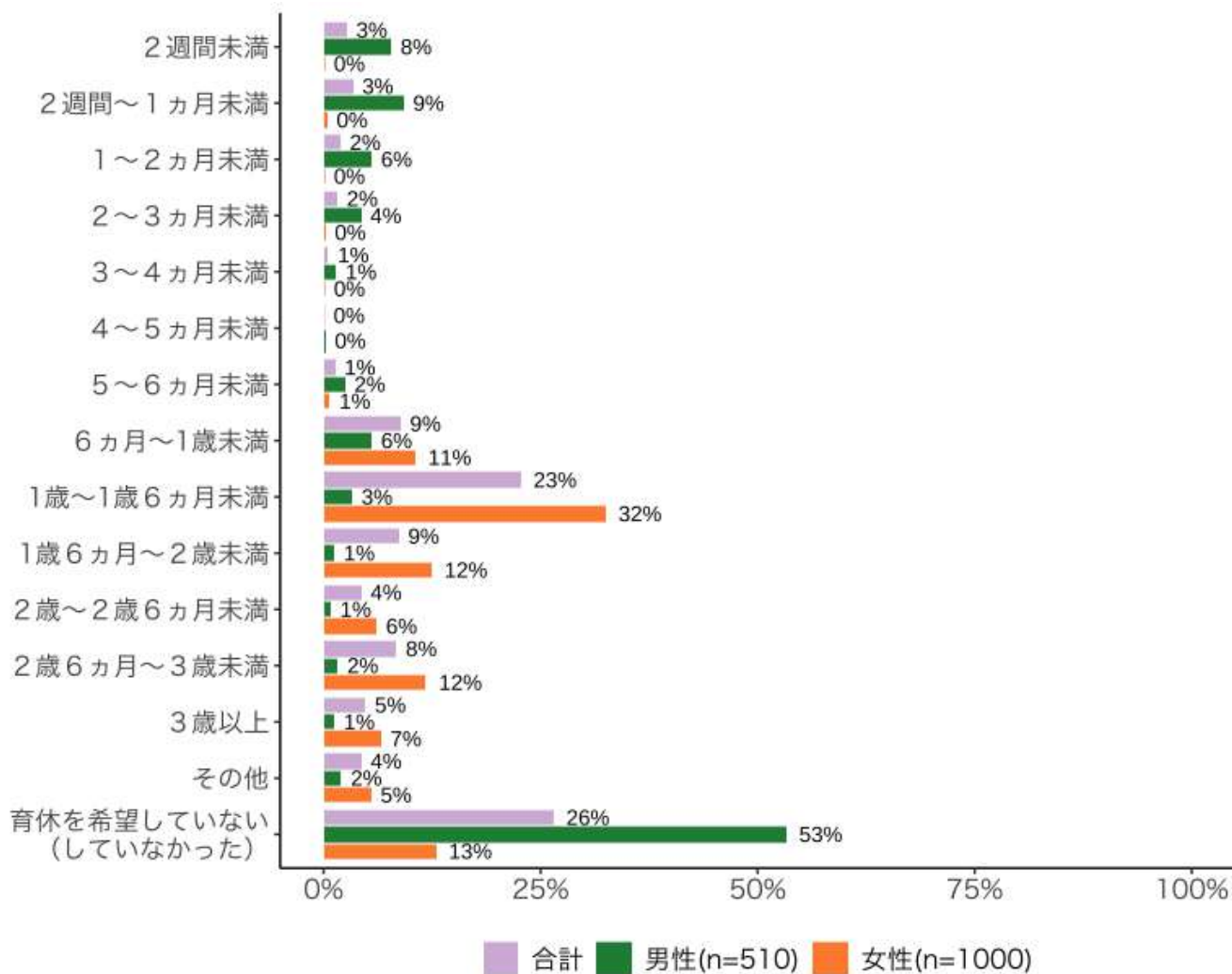
第三子の年齢【問10で①～⑤と回答した方のみ】



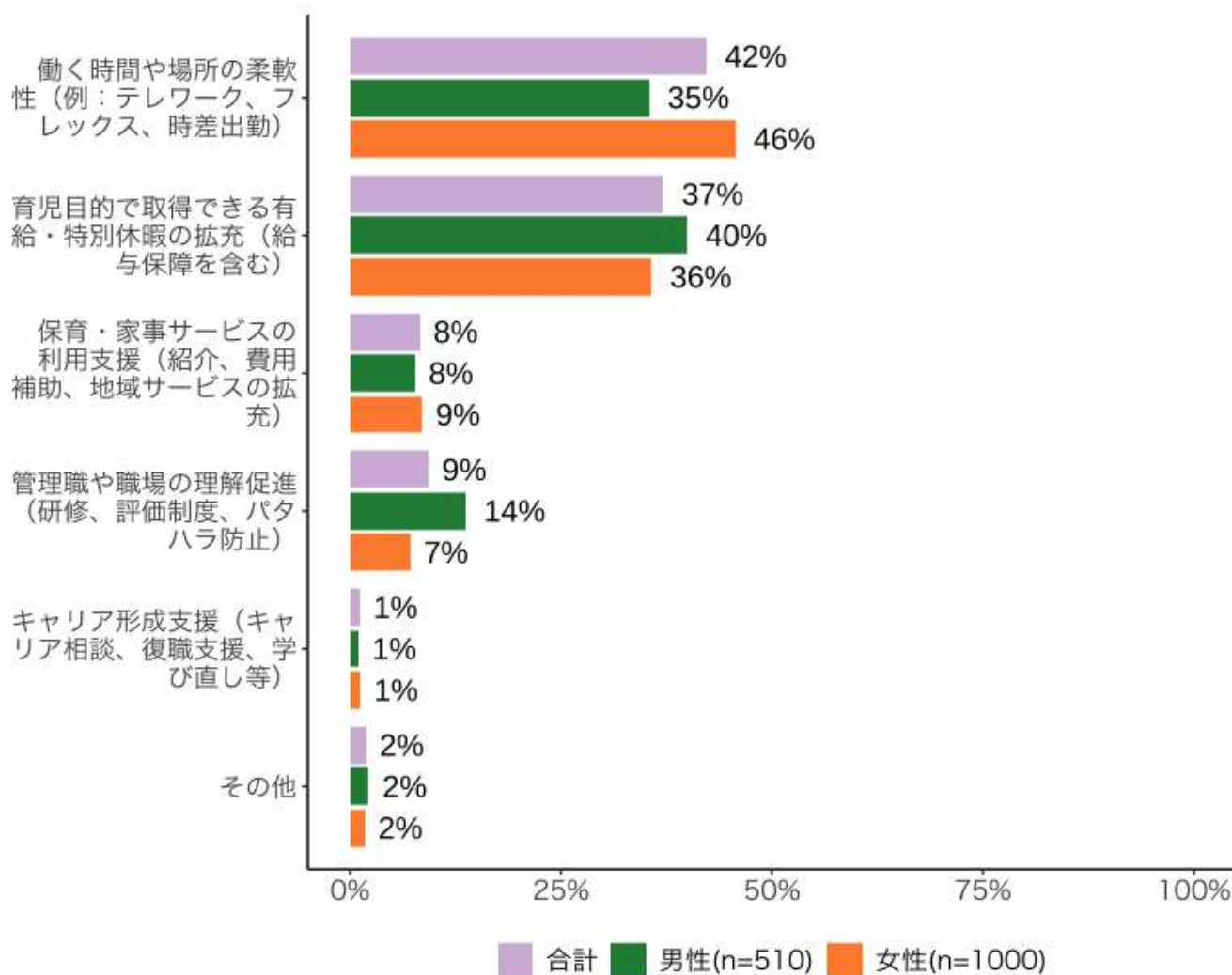
問16 あなたは、お子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）【問10で①～⑤と回答した方のみ】



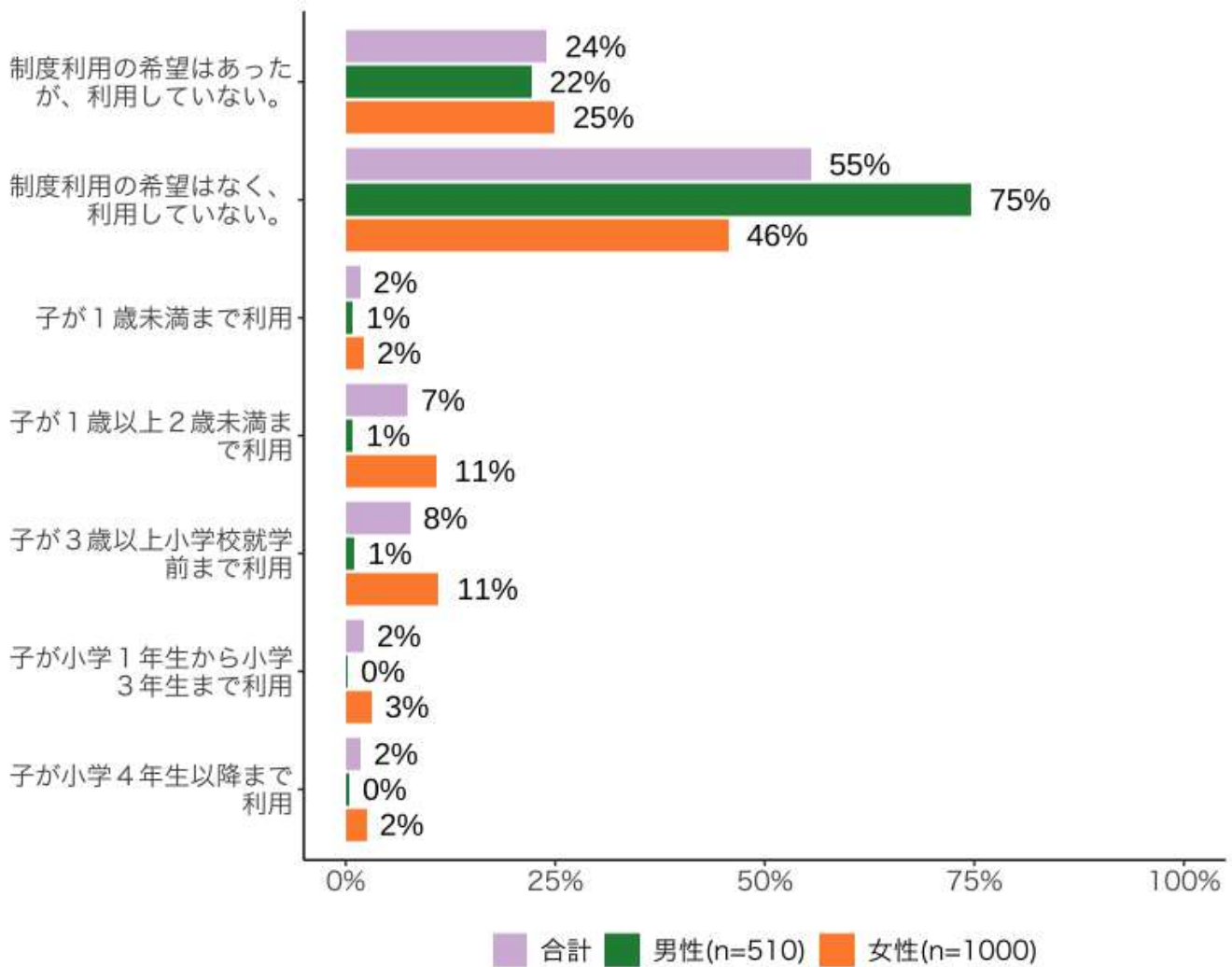
問17 あなたは、お子さんが何歳まで育児休業を取得したいと希望していました（希望しています）か。【問10で①～⑤と回答した方のみ】



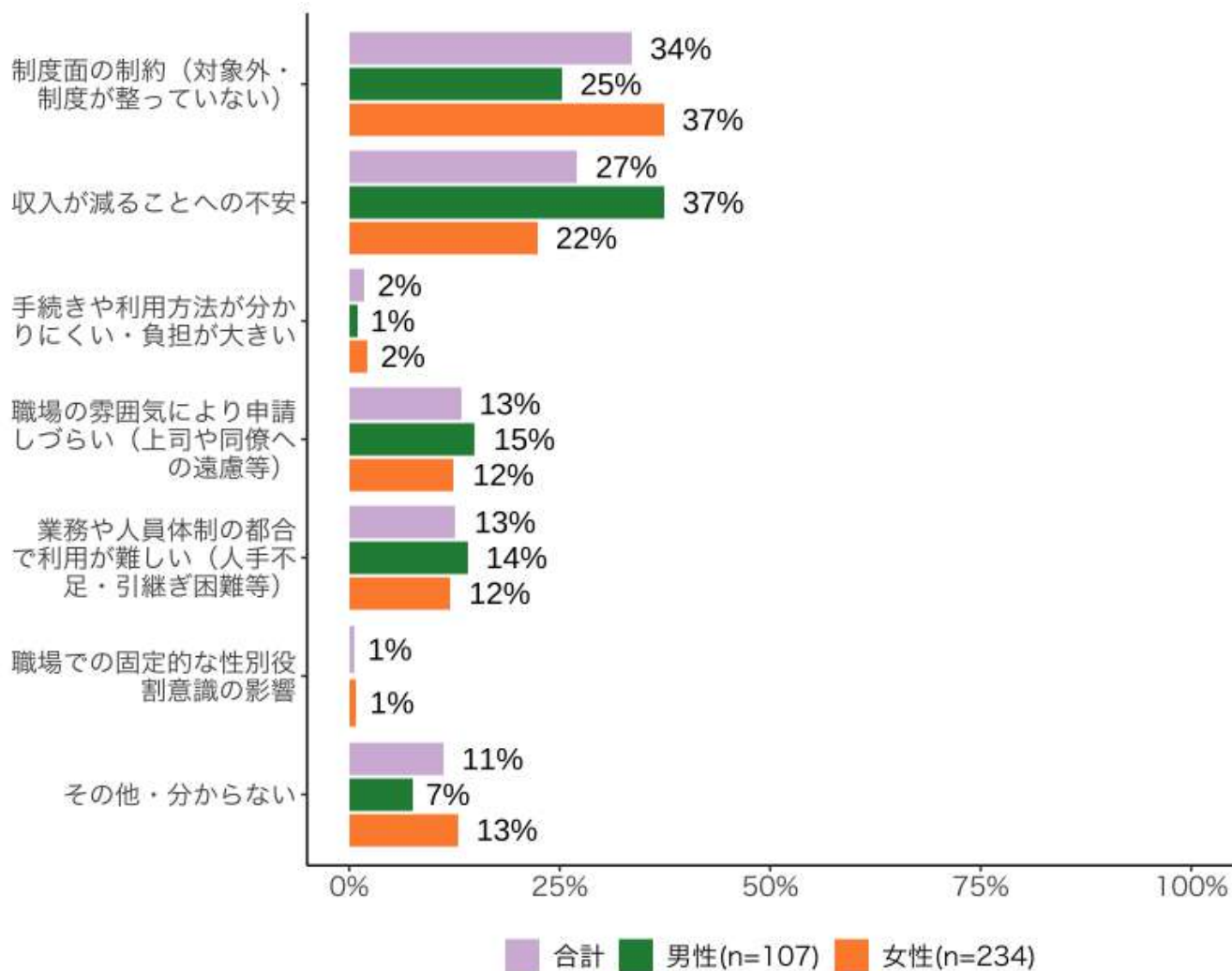
問 18 家事育児に参加しやすい労働環境の整備に必要なと思う制度【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



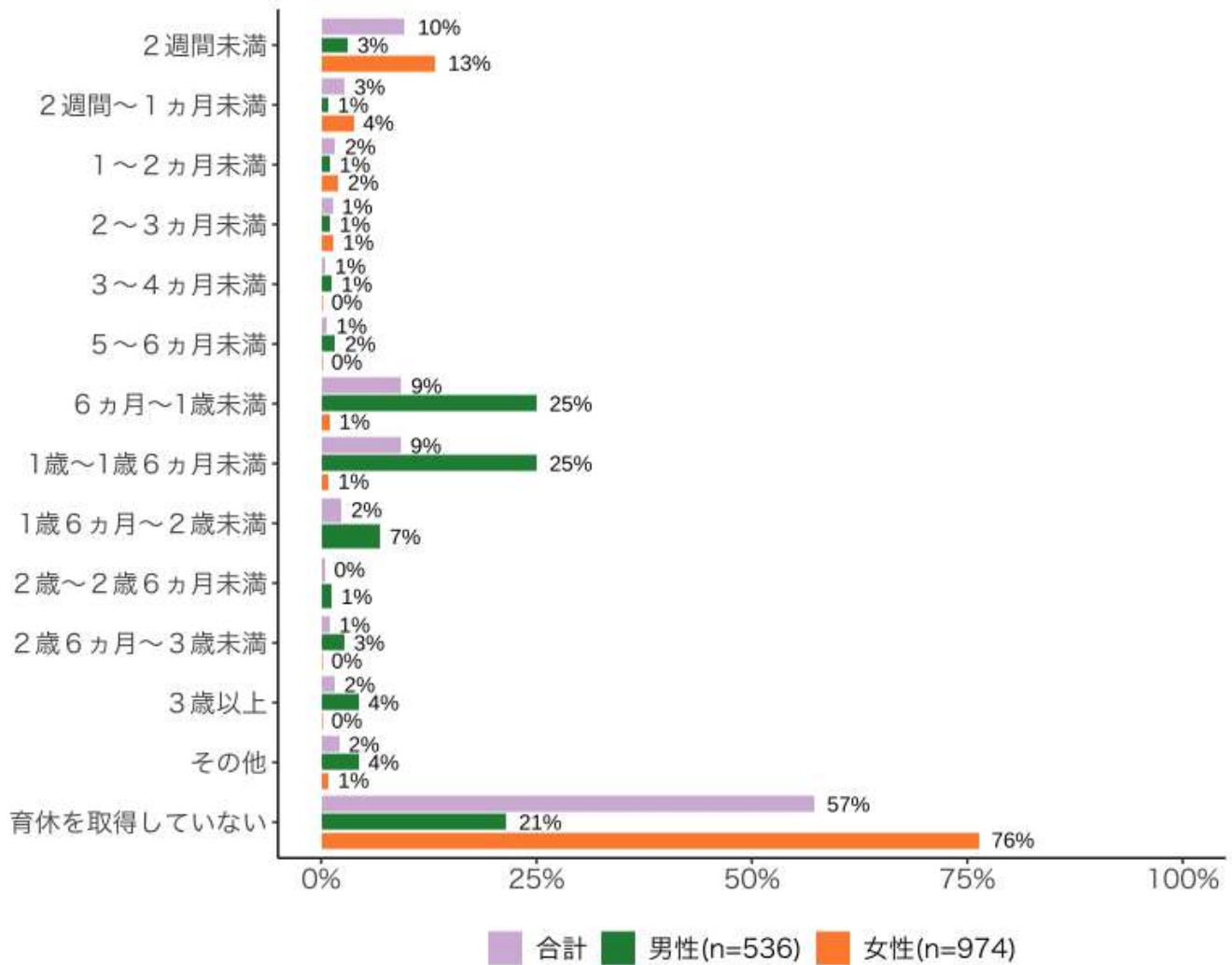
問 19 あなたは、育児短時間勤務制度を利用したことがありますか。【問 10 で①～⑤と回答した方のみ】



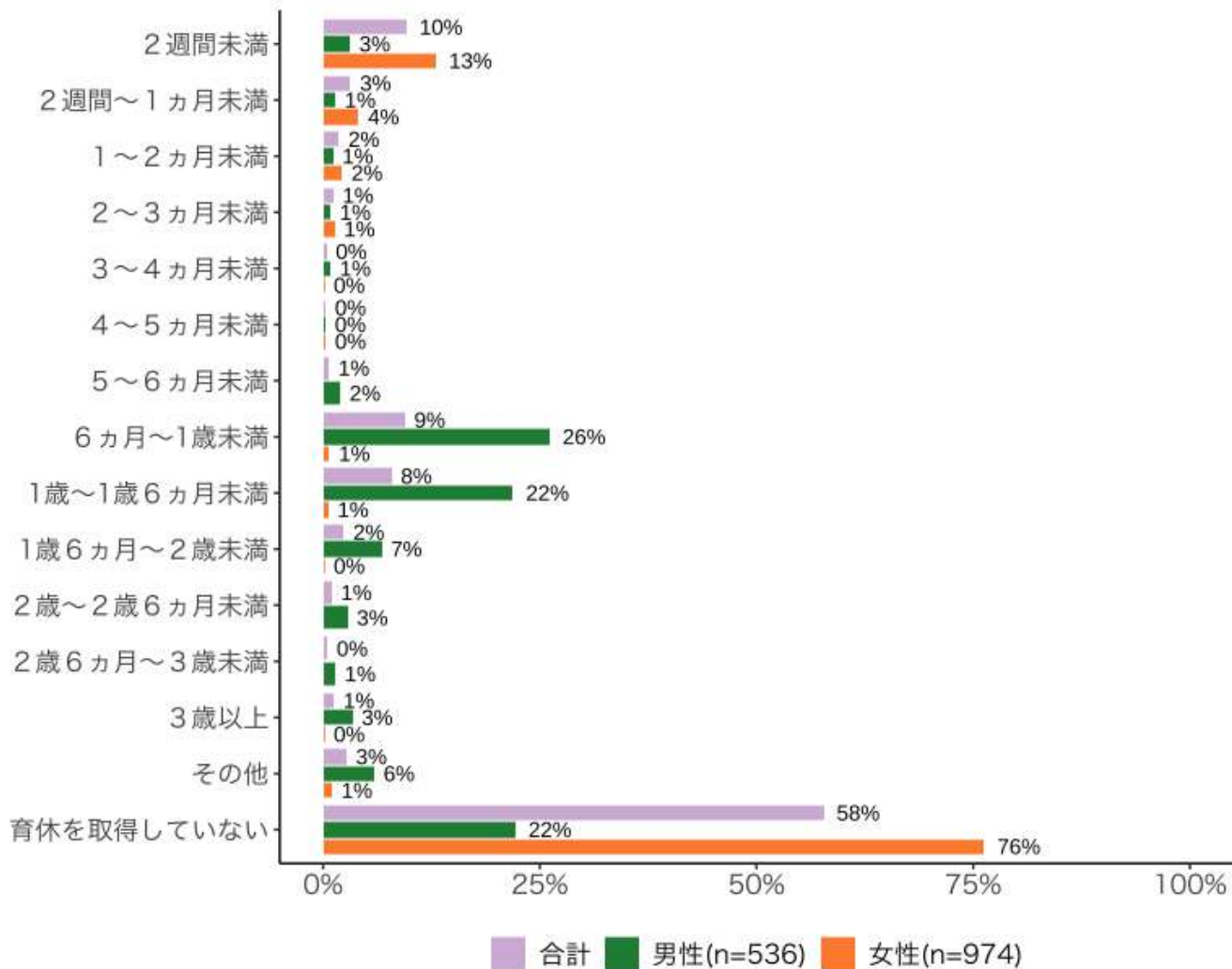
問 20 育児短時間勤務制度を利用できない（できなかった）理由はなんですか。【問 19 で①と回答した方のみ】



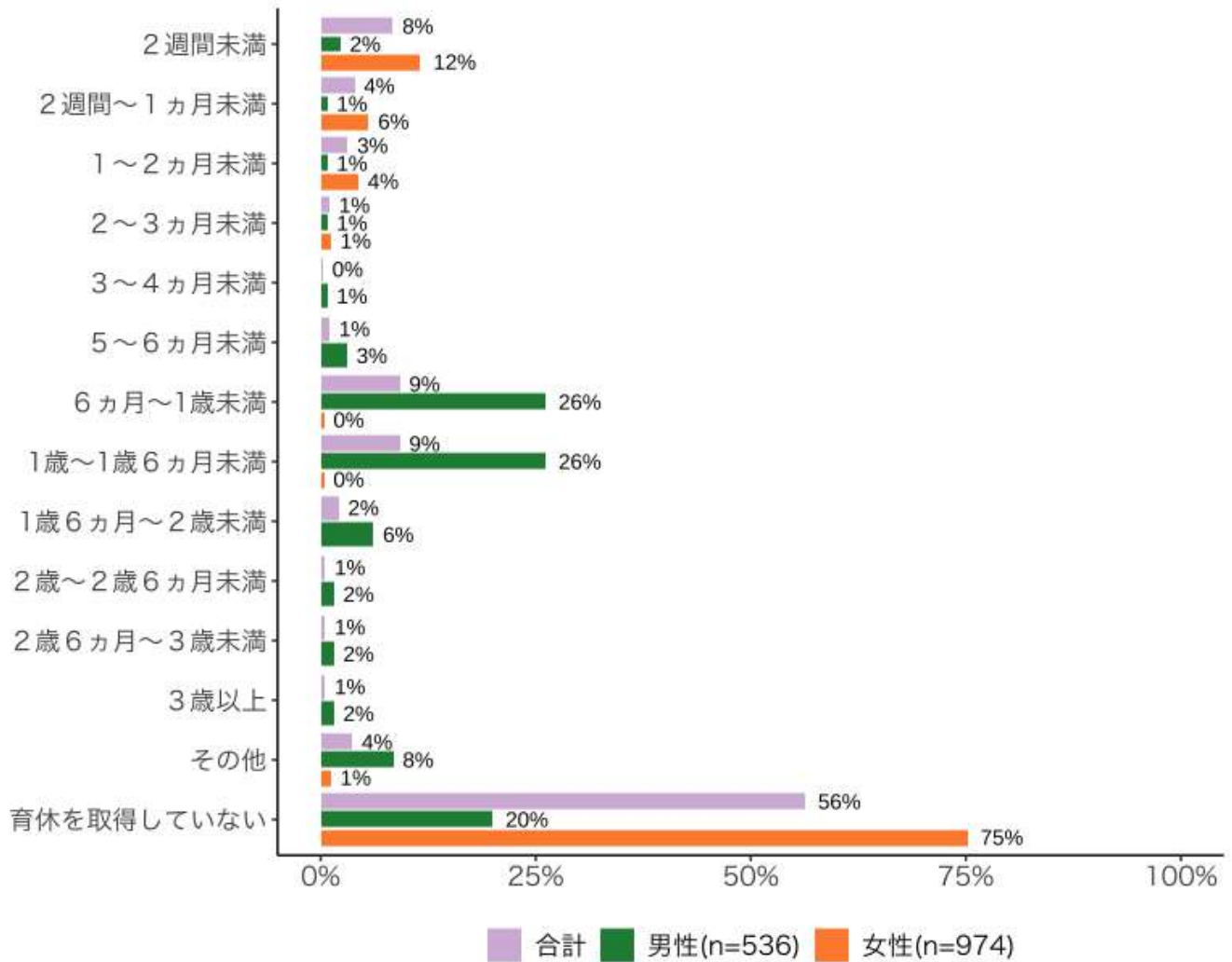
問 21 こどもを出産した際、あなたの配偶者は何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）1人目【問5で①と回答した方のみ】



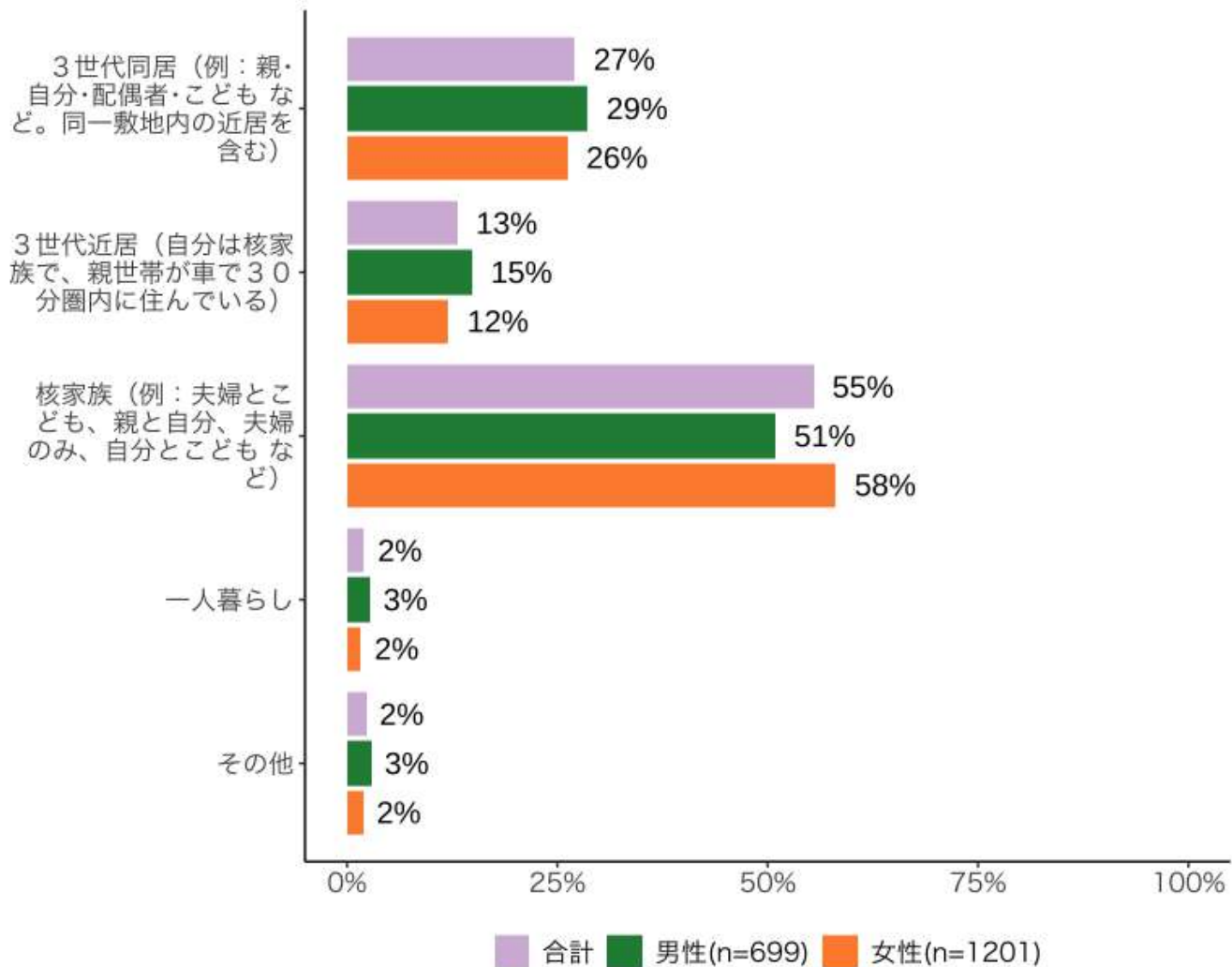
2 人目 【問 5 で①と回答した方のみ】



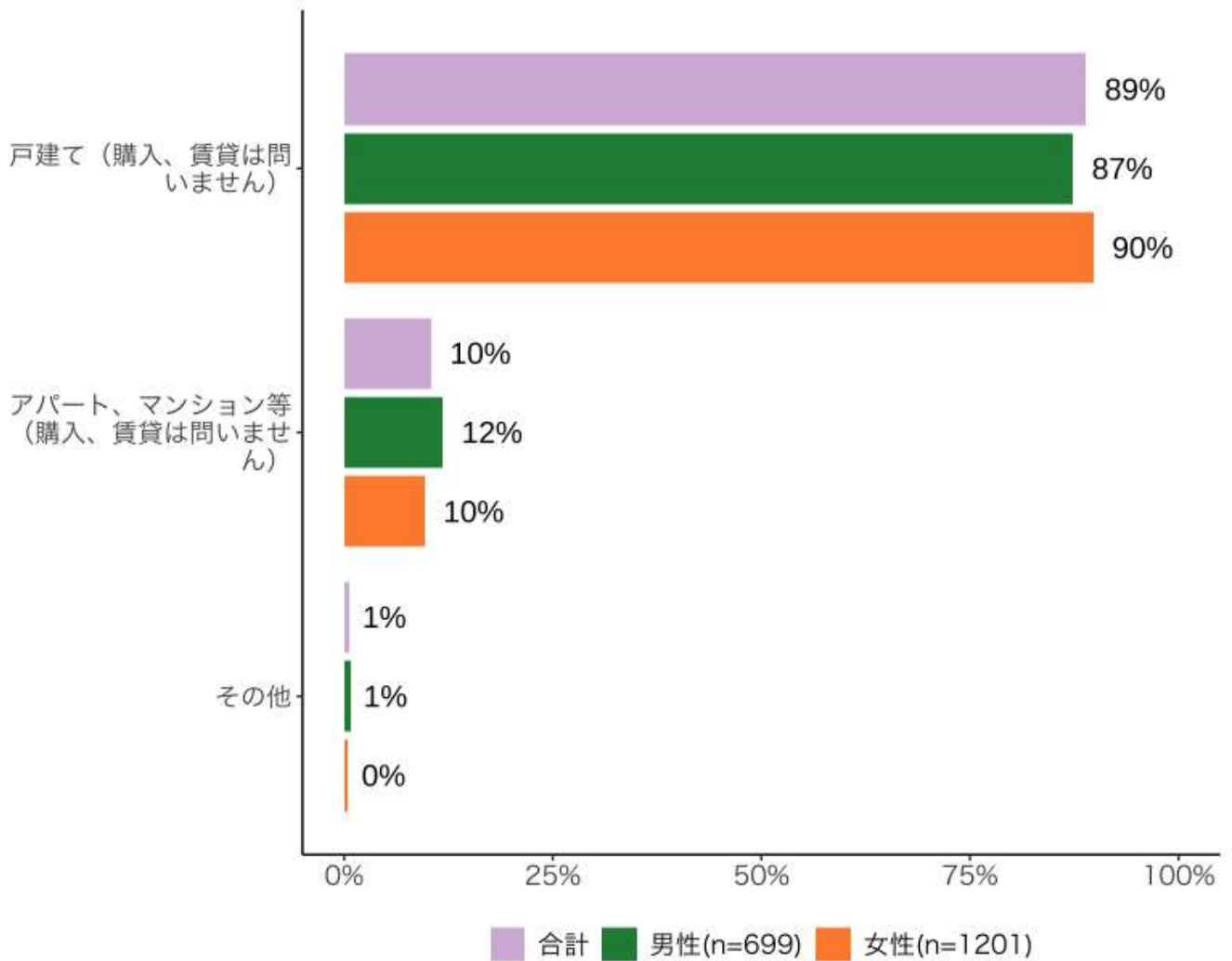
3人目【問5で①と回答した方のみ】



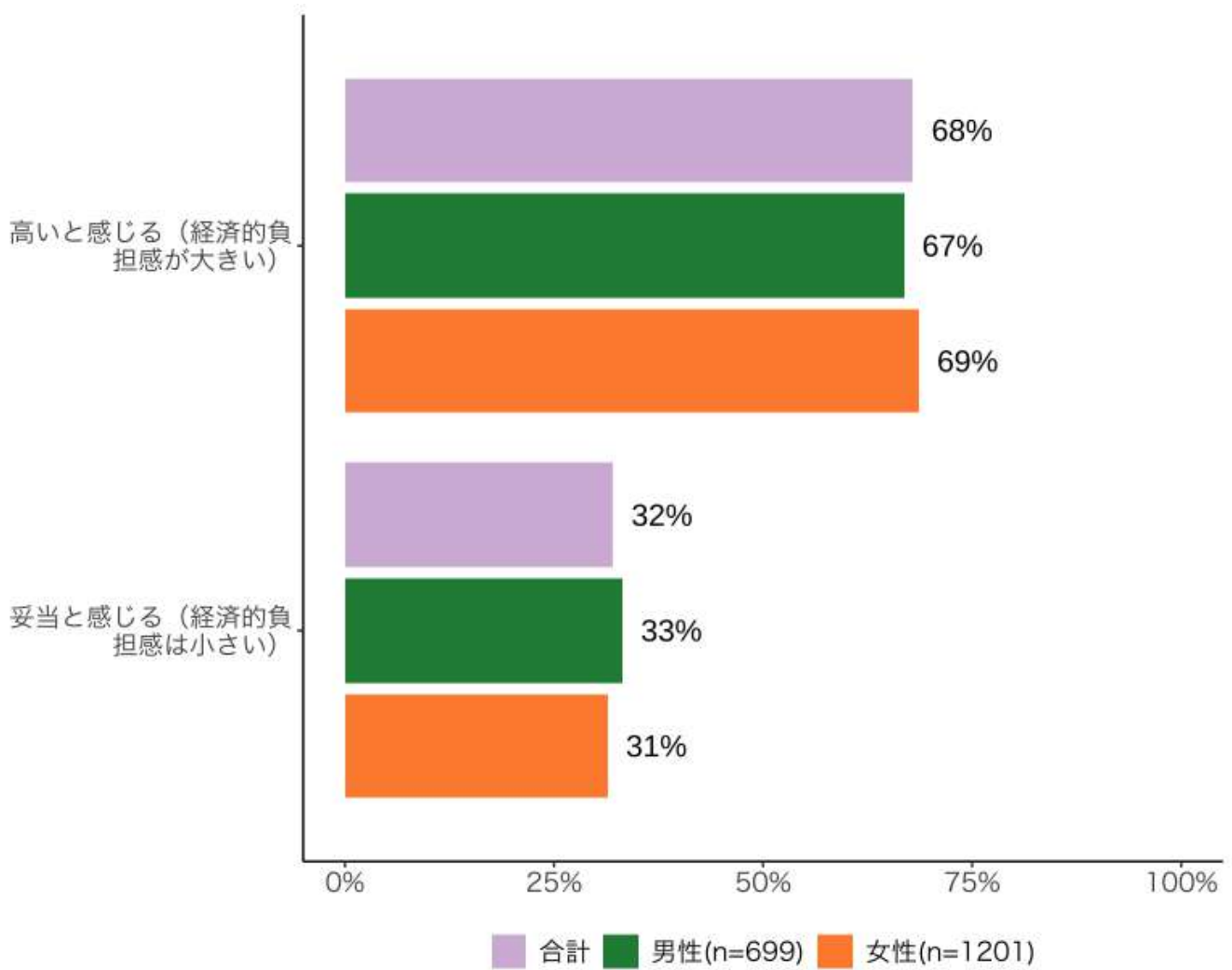
問 22 現在の住まい方の状況（最もあてはまるものを1つ選択） 【全員回答、必須】



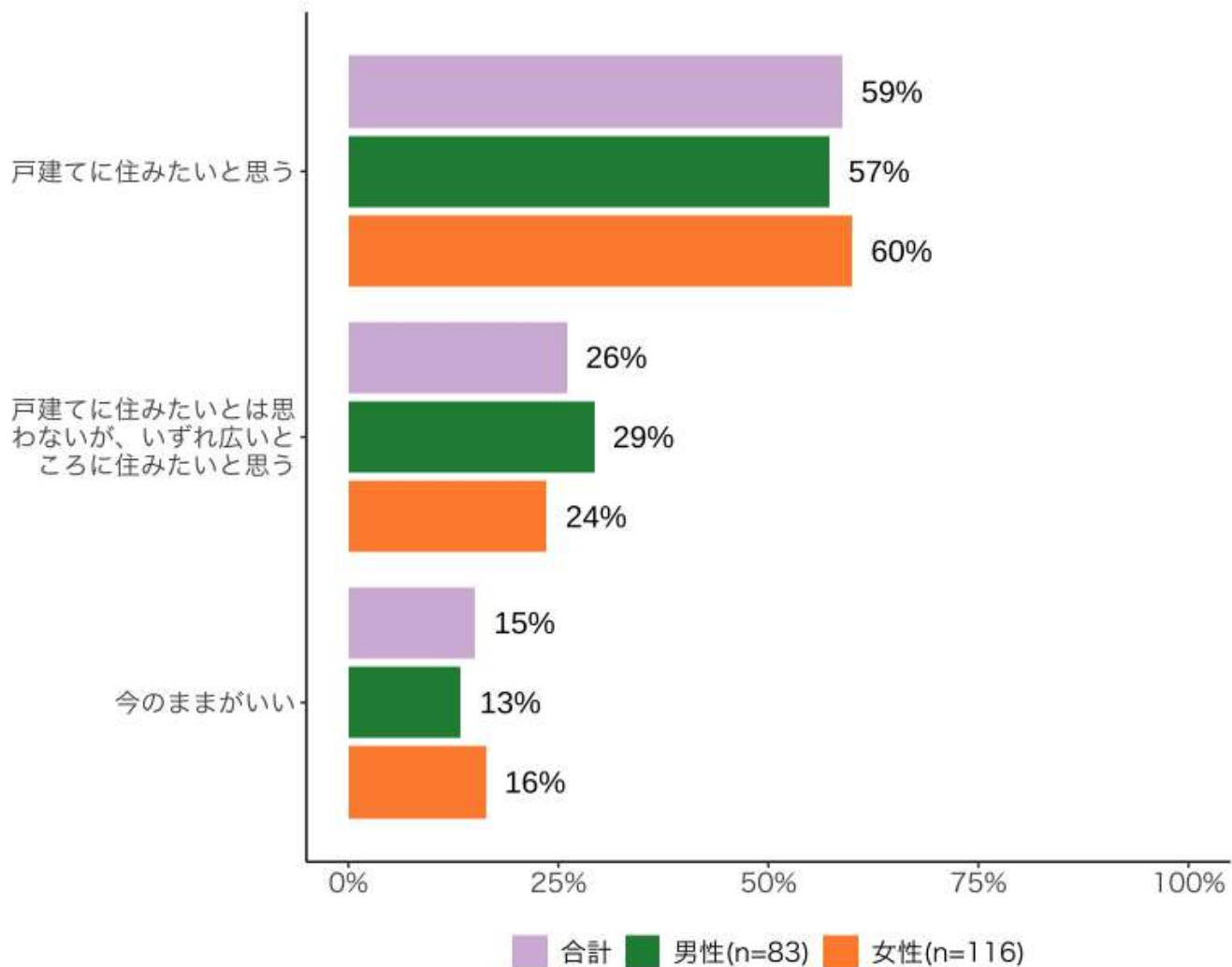
問 23 現在の住まいの状況（最もあてはまるものを1つ選択）【全員回答、必須】



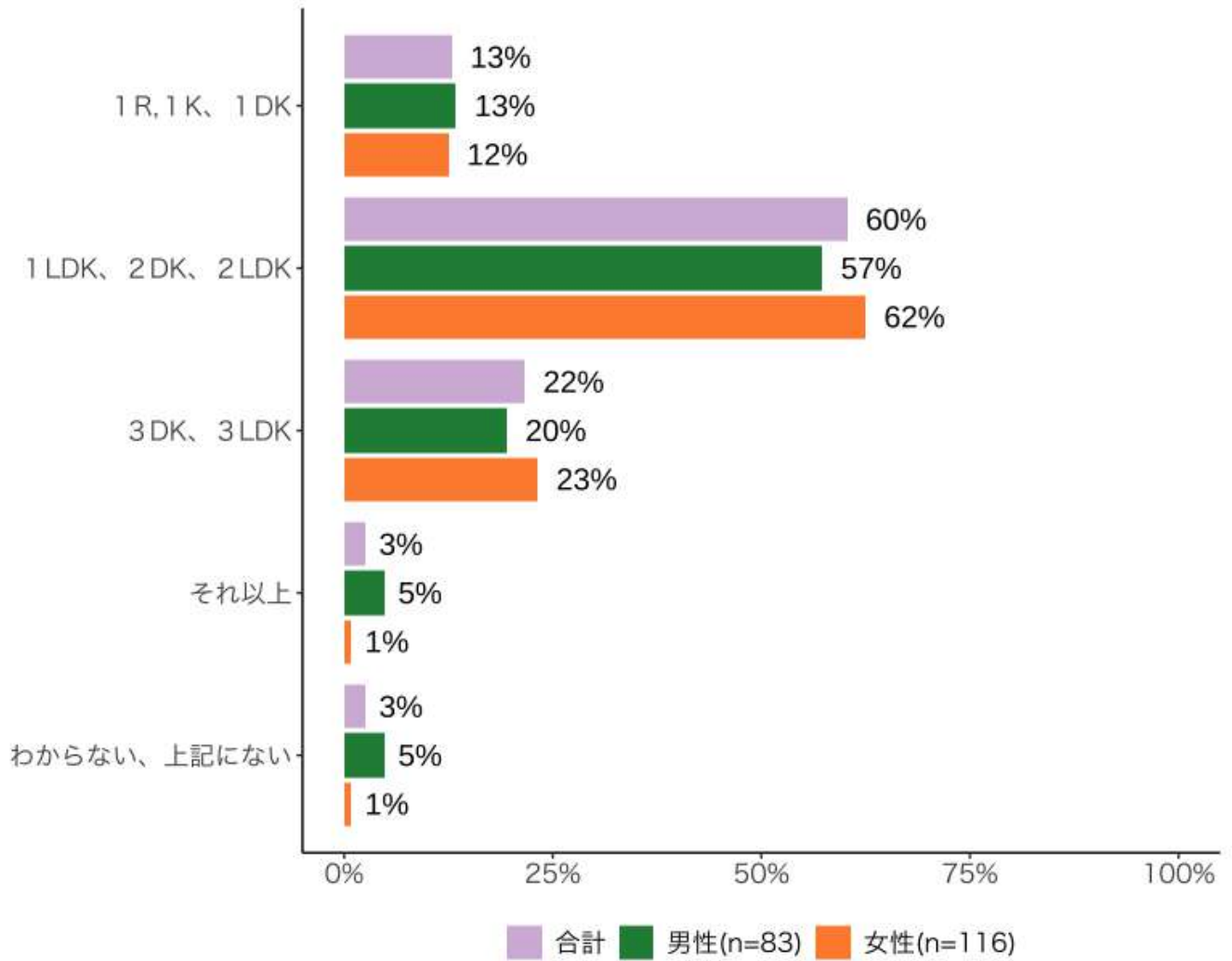
問 24 現在の住まいにかかる費用への意識（住宅ローンの定期返済、家賃等）【全員回答、必須】



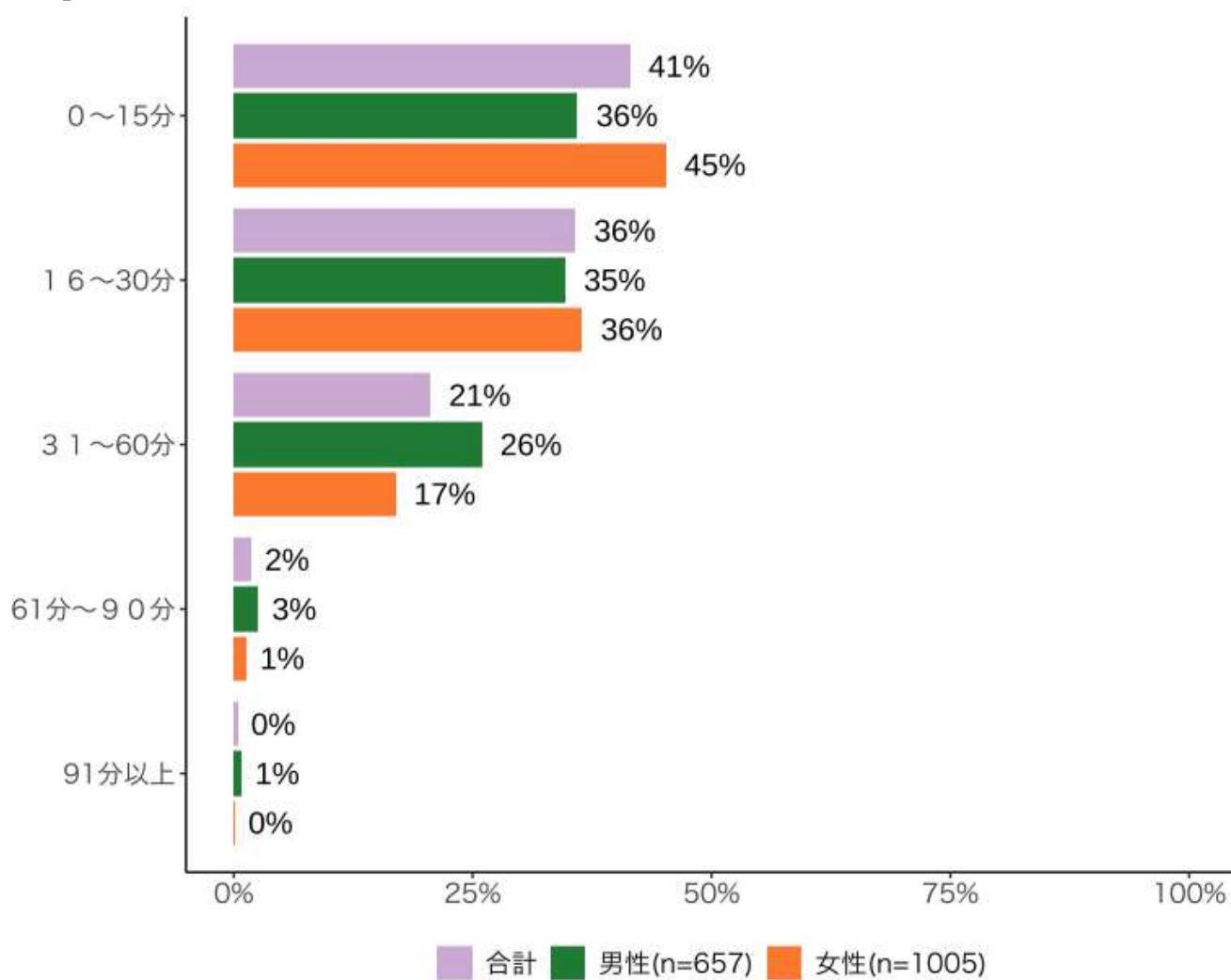
問 25 いずれ戸建てに住みたいと思いますか【問 23 で②と回答した方のみ】



問 26 お住まいの広さ（間取り）について教えてください【問 23 で②と回答した方のみ】

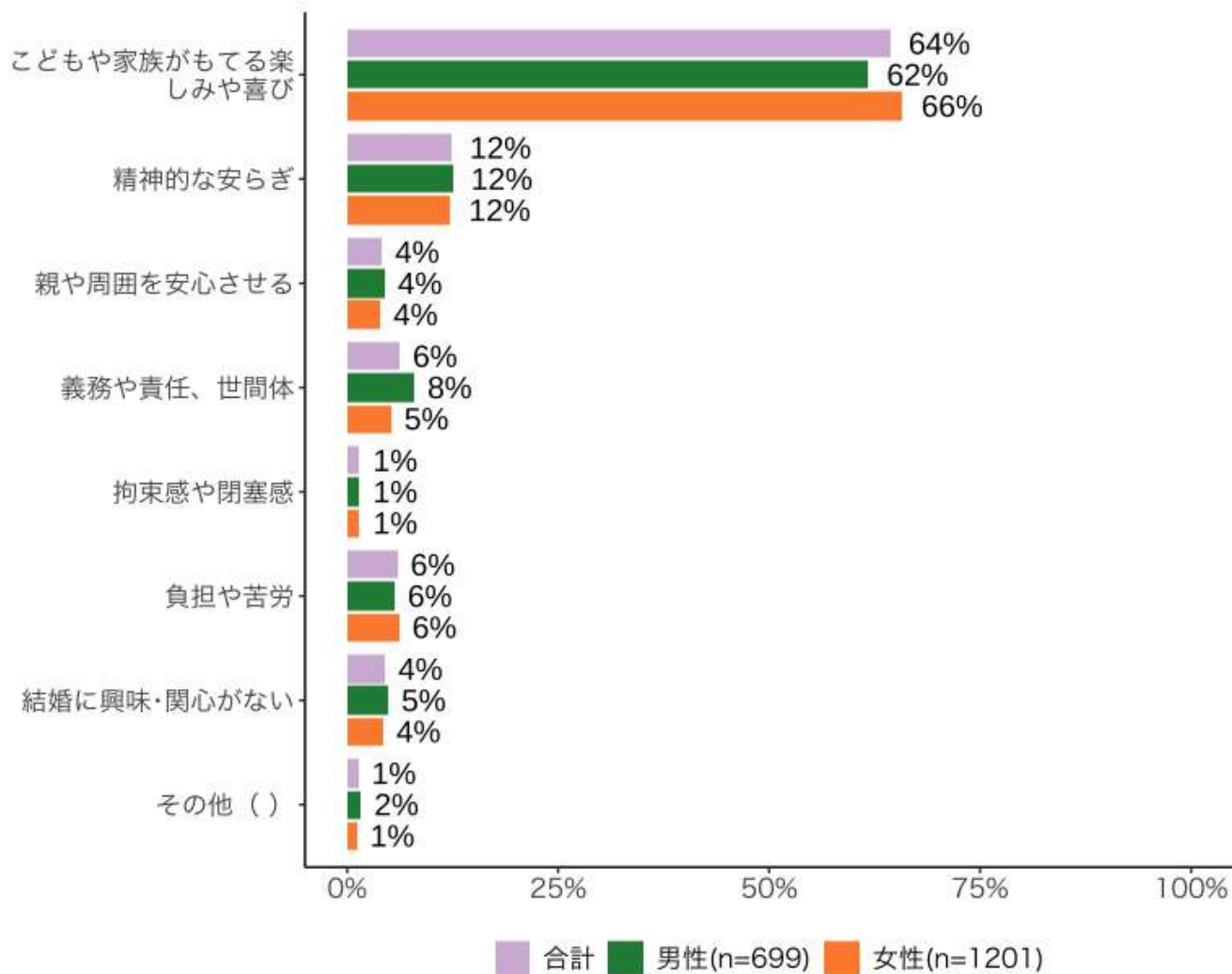


問 27 通勤時間について（最もあてはまるものを1つ選択）【問 11 で①～⑤と回答した方のみ】

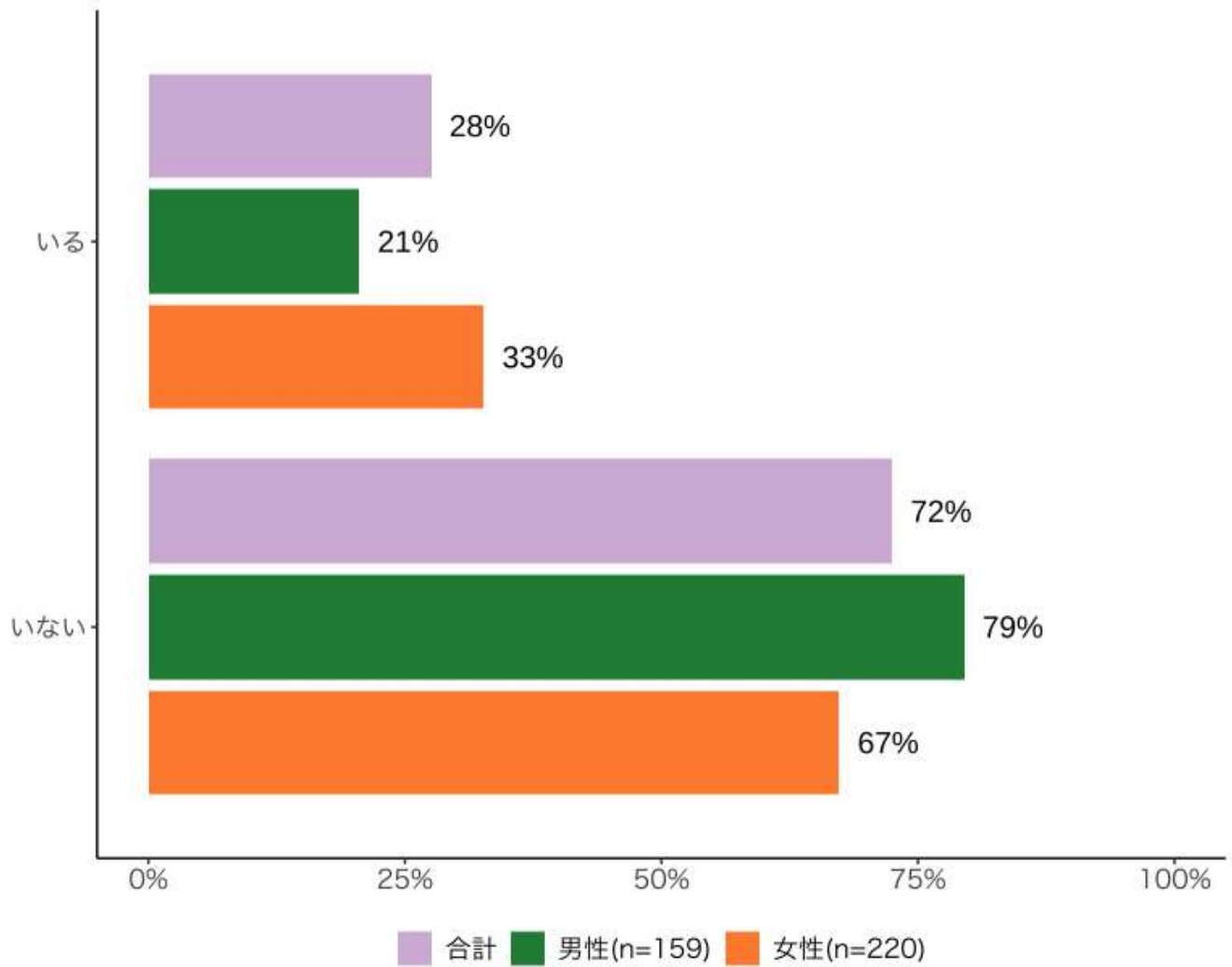


2. 結婚に関すること

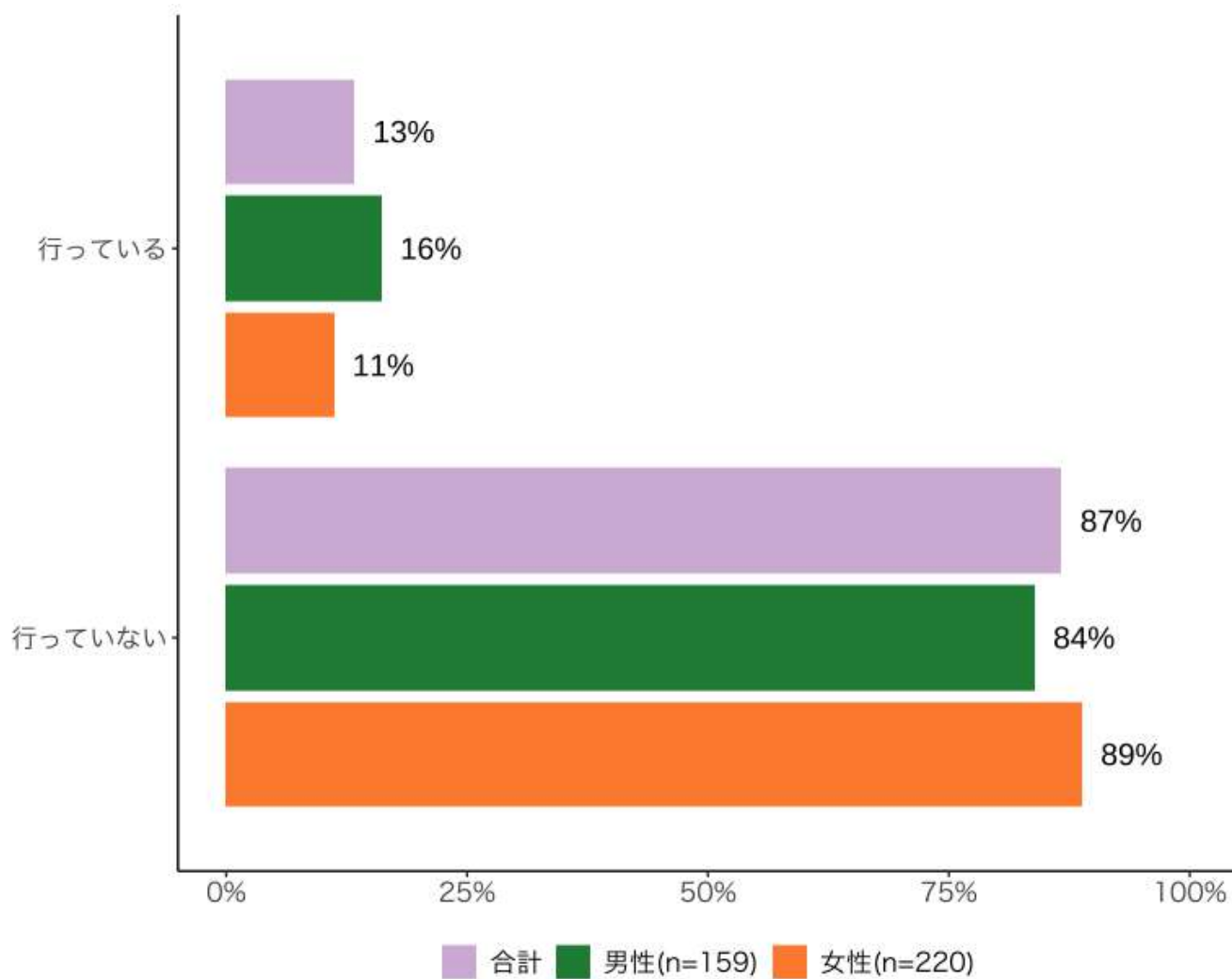
問 28 結婚に対するイメージ【全員回答】



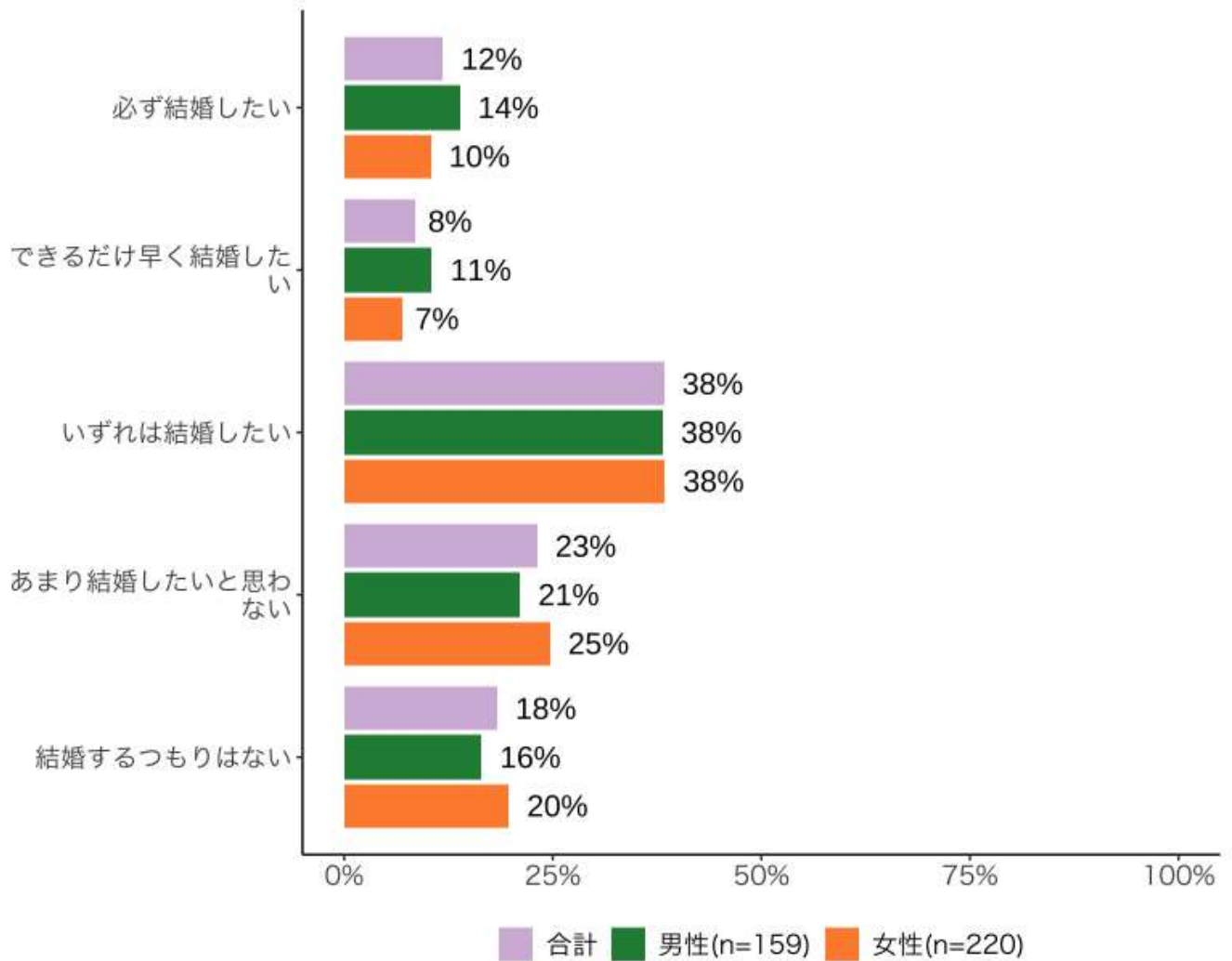
問 29 現在、交際相手がいるか【問 4 で②または問 5 で②と回答した方のみ】



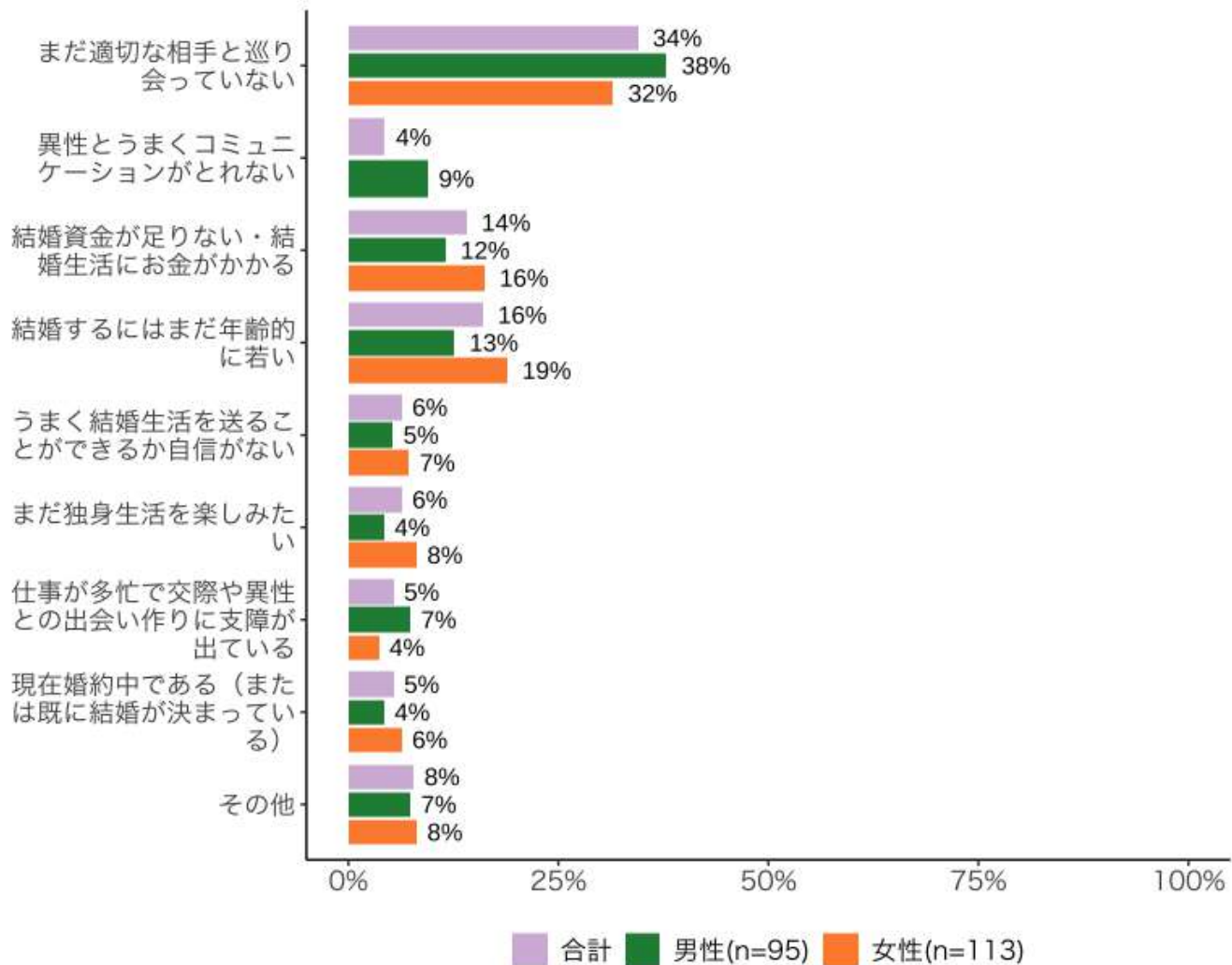
問 30 現在、交際相手さがしを意識した活動をおこなっていますか【問 4 で②または問 5 で②と回答した方のみ】



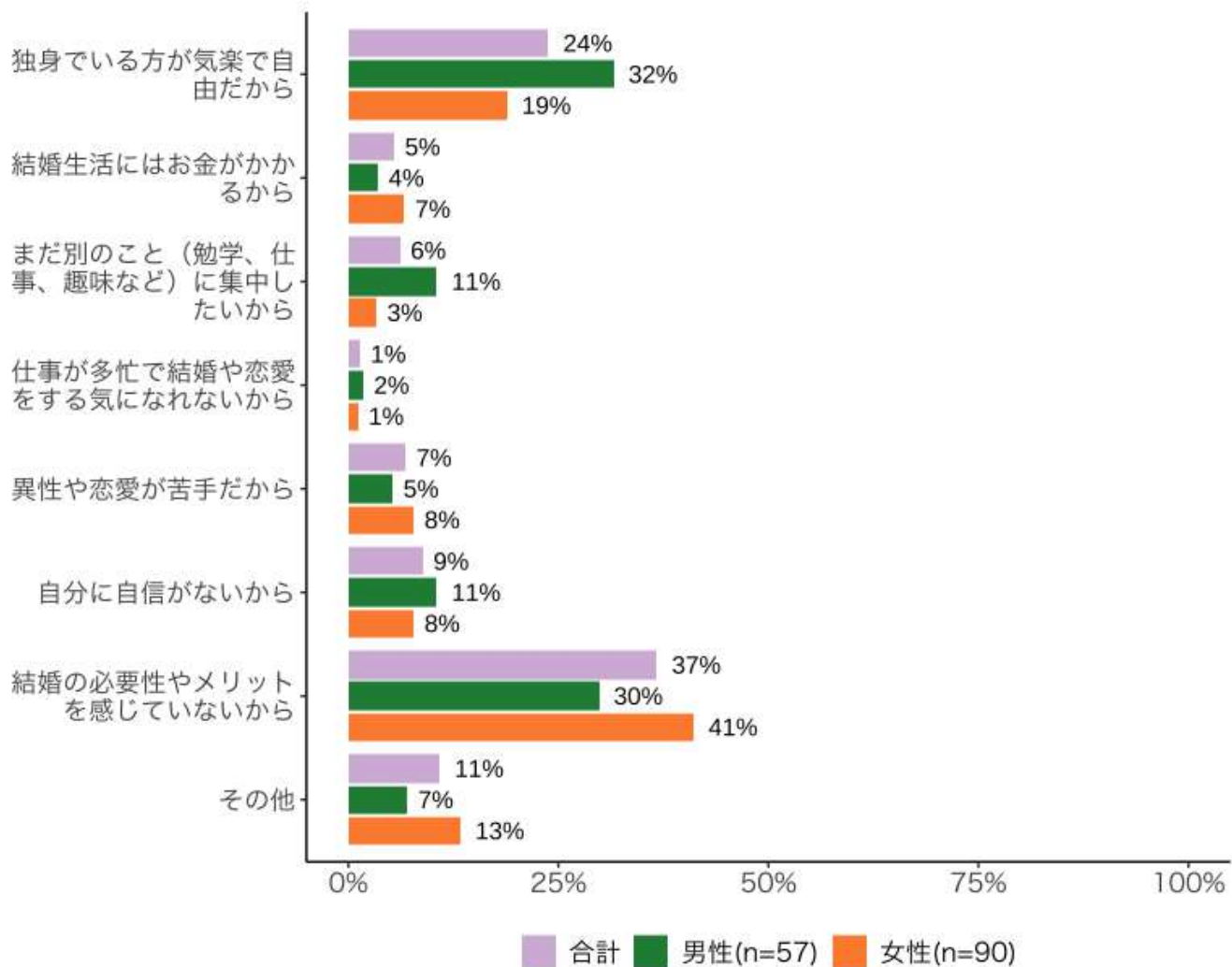
問 31 今後、結婚する意欲がありますか【問 4 で②または問 5 で②と回答した方のみ】



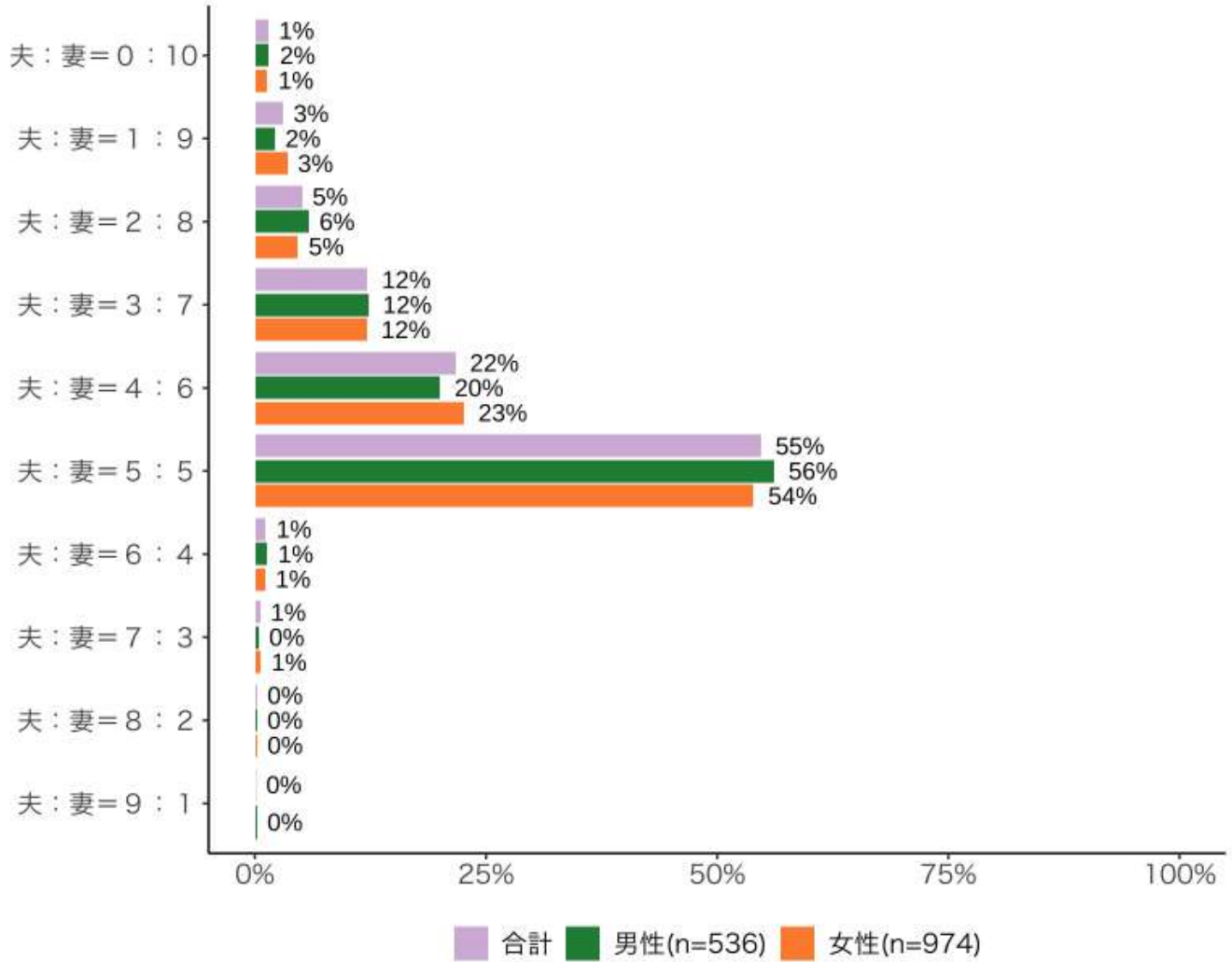
問 32 現状、結婚に至っていない理由【問 31 で①～③と回答した方のみ】



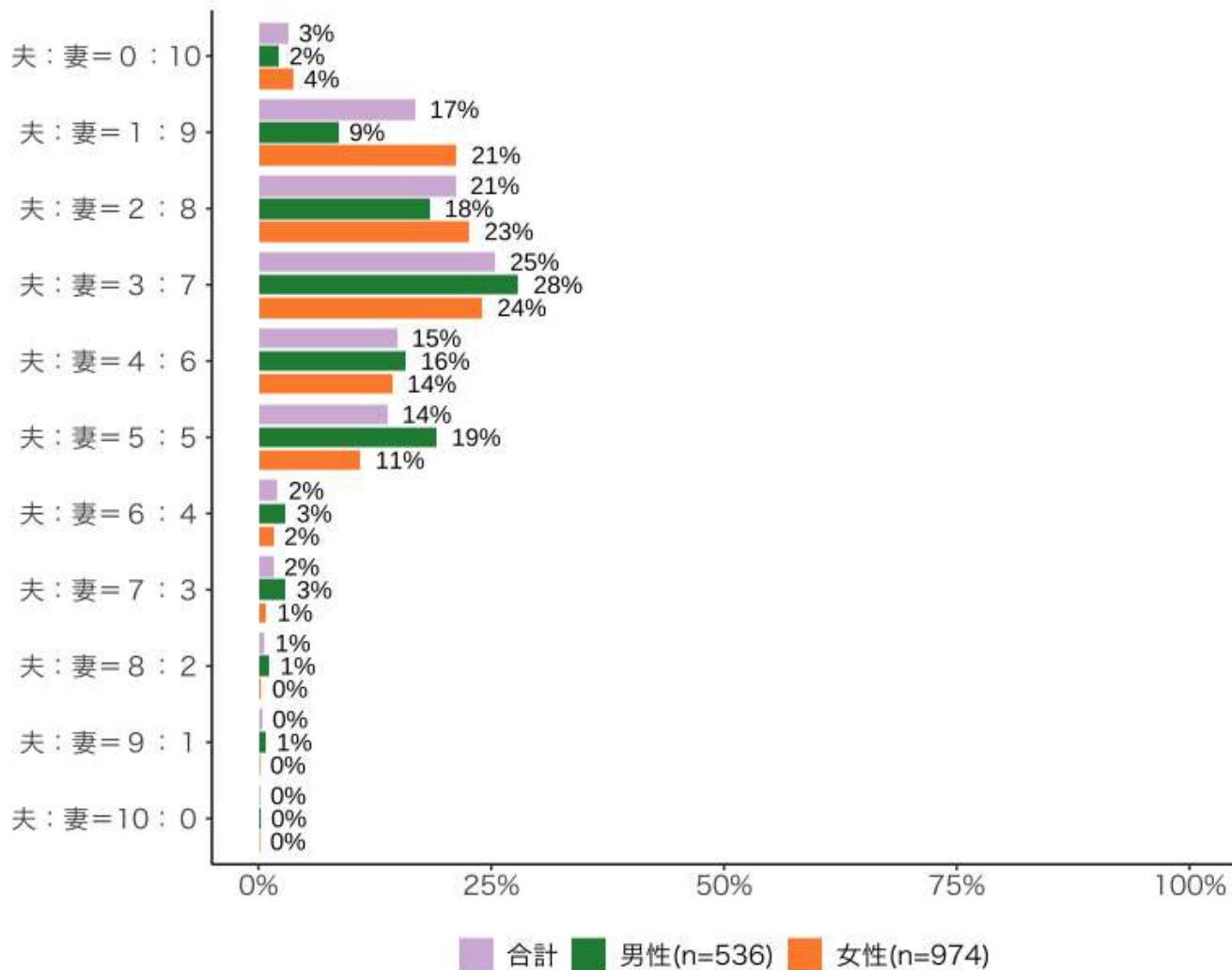
問 33 結婚への意欲が無い理由【問 31 で④～⑤と回答した方のみ】



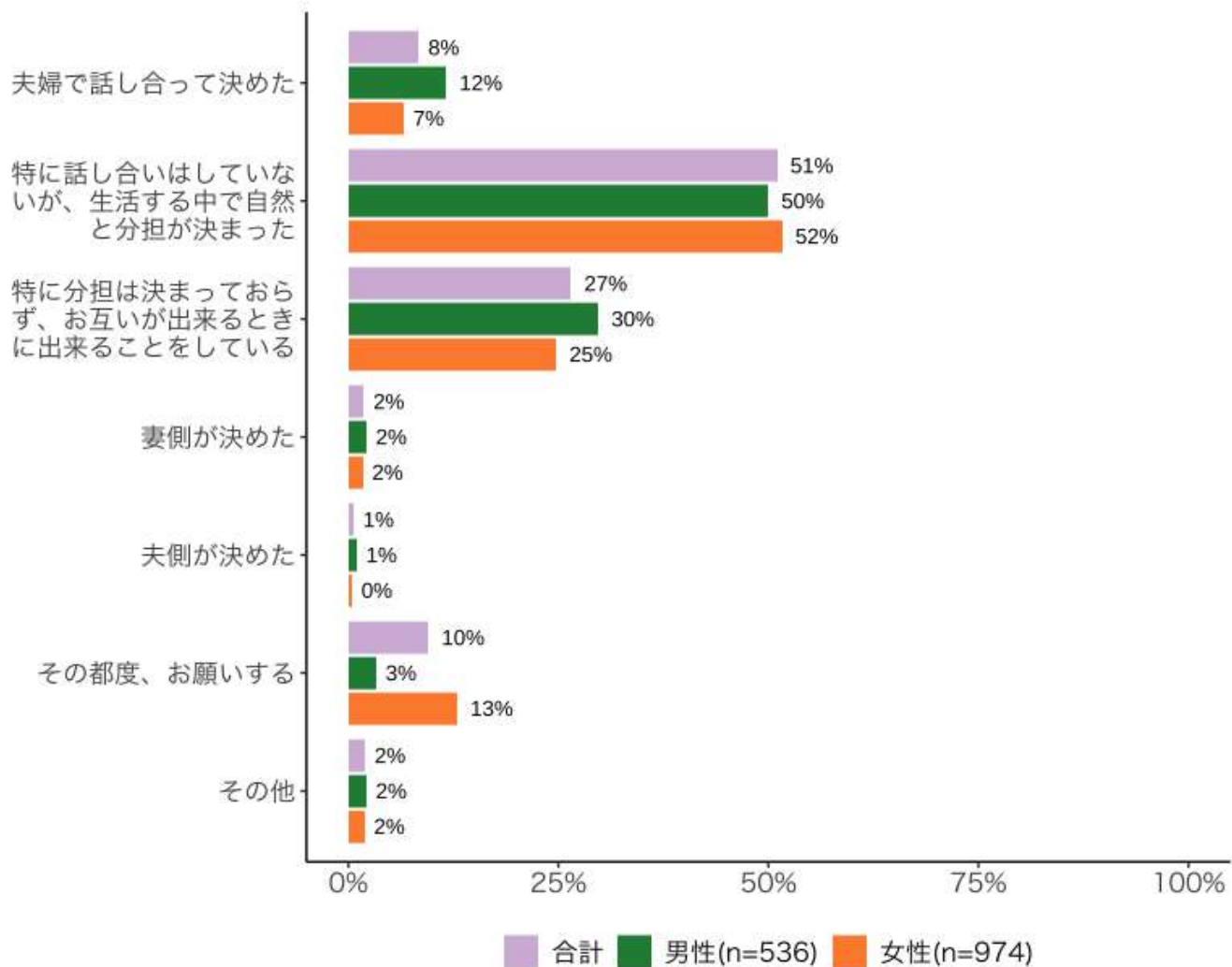
問 34 夫と妻の家事・育児への理想の関わり具合【問 5 で①と回答した方のみ】



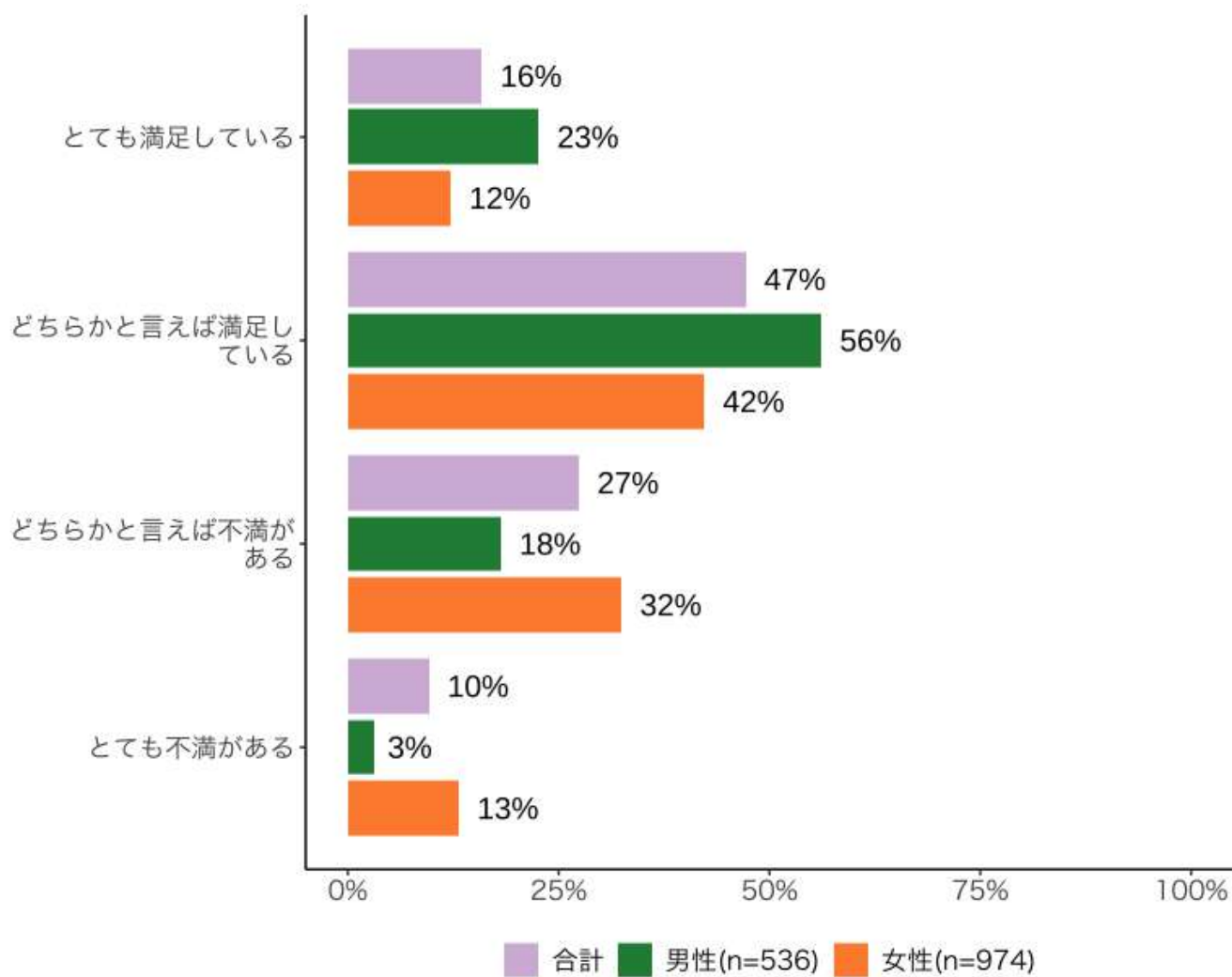
問 35 夫と妻の家事・育児への実際の関わり具合【問 5 で①と回答した方のみ】



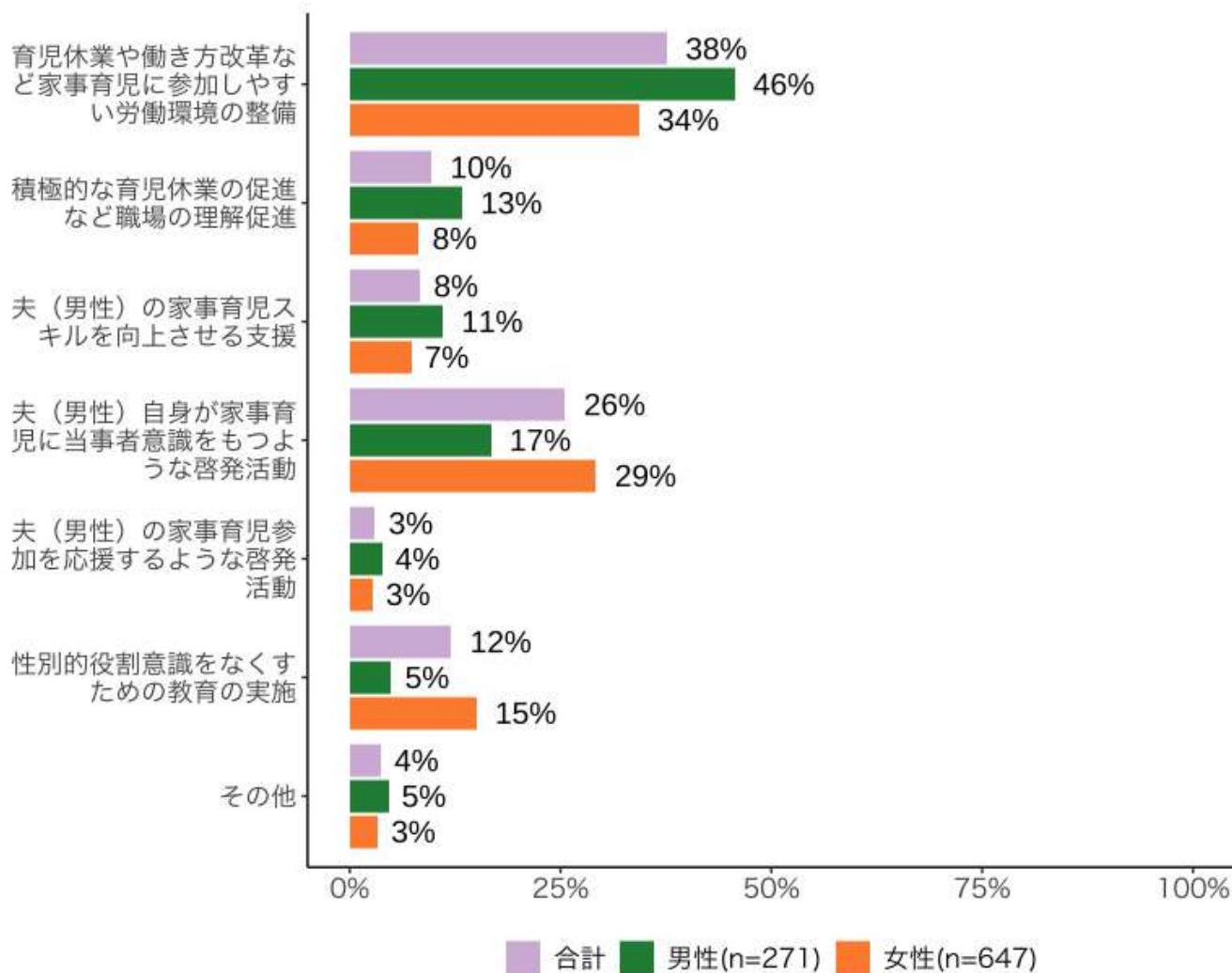
問 36 夫と妻の家事・育児分担の決定方法【問 5 で①と回答した方のみ】



問 37 夫と妻の家事・育児分担への実際の関わり具合への満足度【問 5 で①と回答した方のみ】

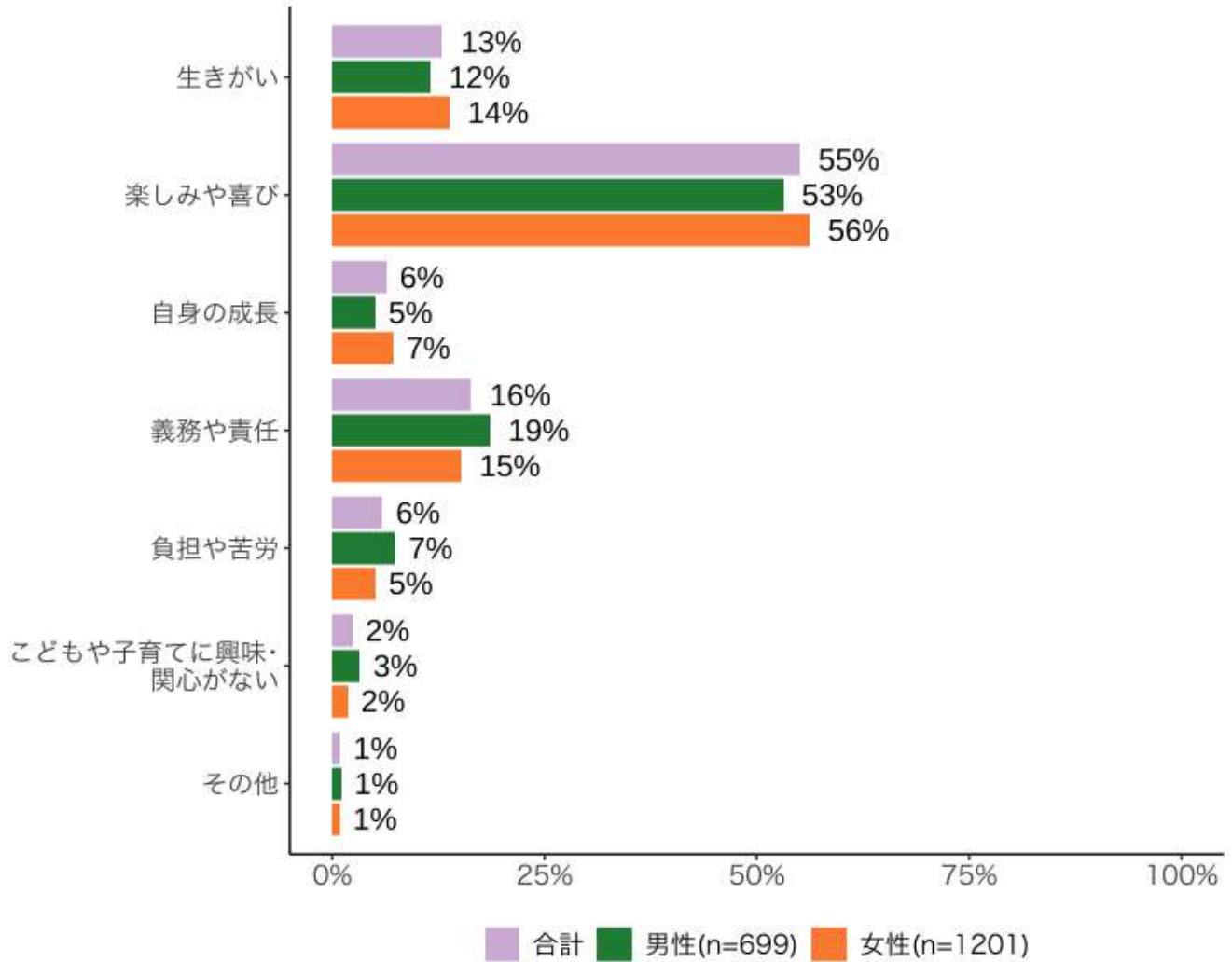


問 38 理想の家事・育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと【問 34、35 で夫の実際の関わり具合が理想の関わり具合より低い方のみ回答】

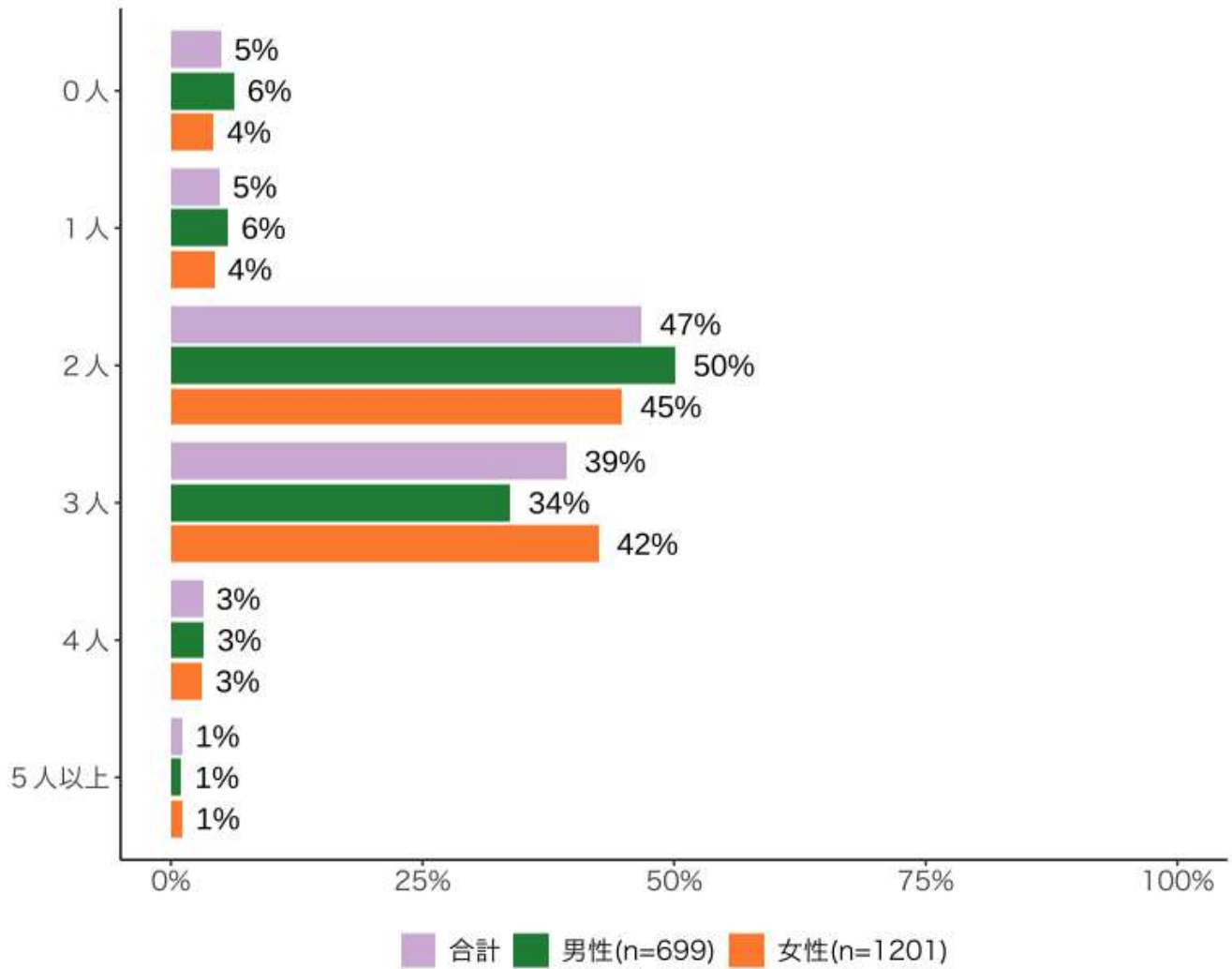


3. こどもや子育てに関すること

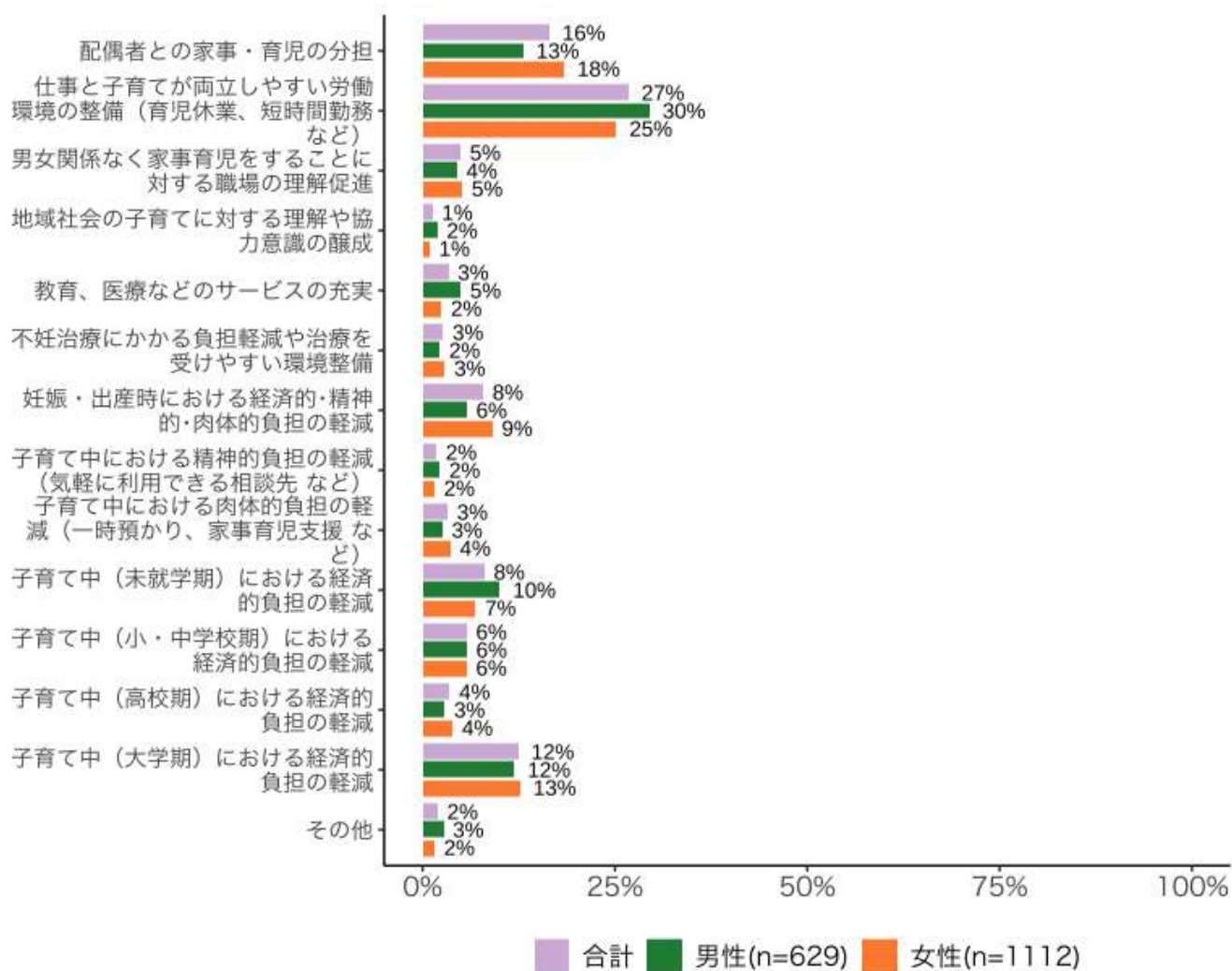
問 39 こどもや子育てに対するイメージ【全員回答】



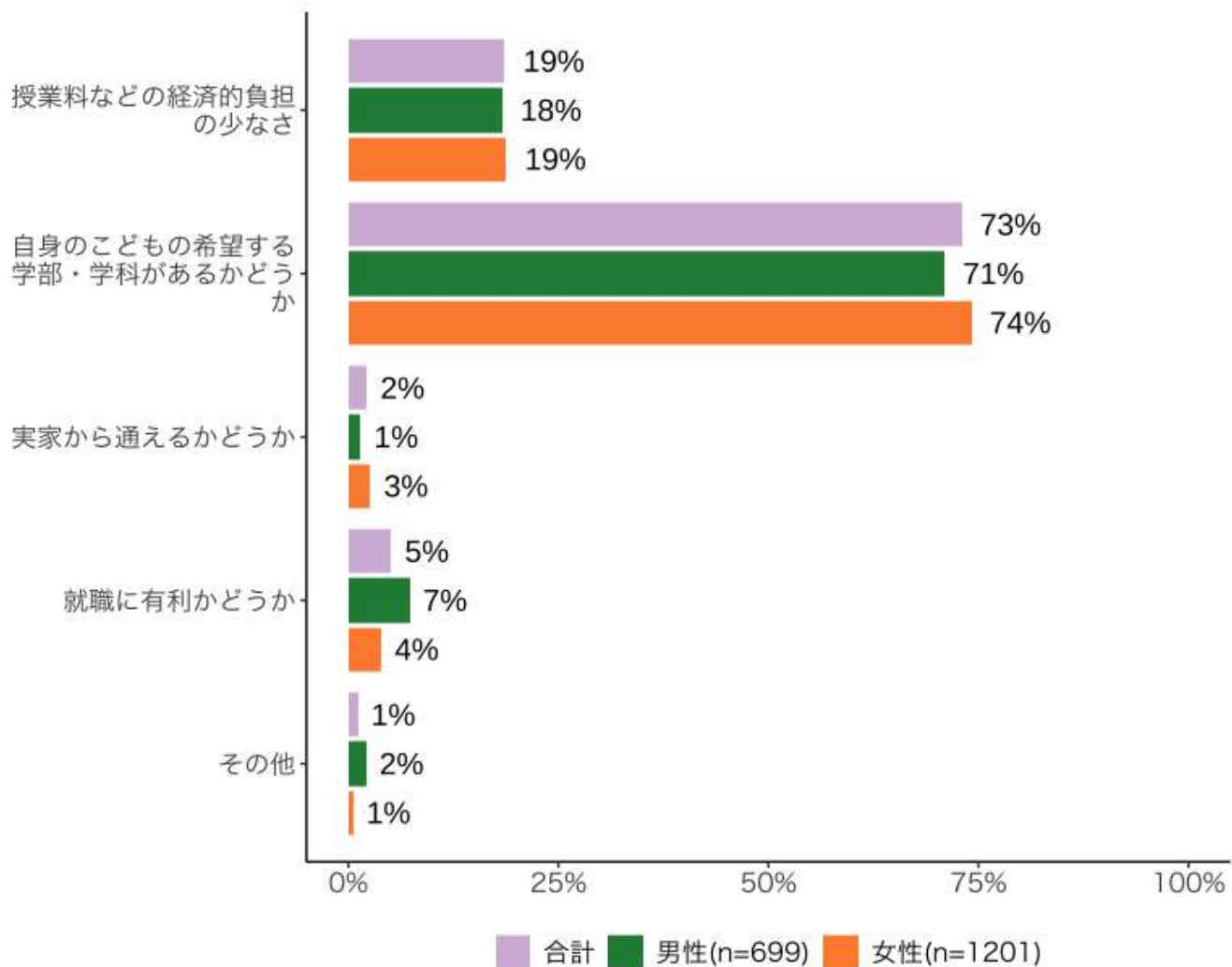
問 40 理想とすることどもの数【全員回答】



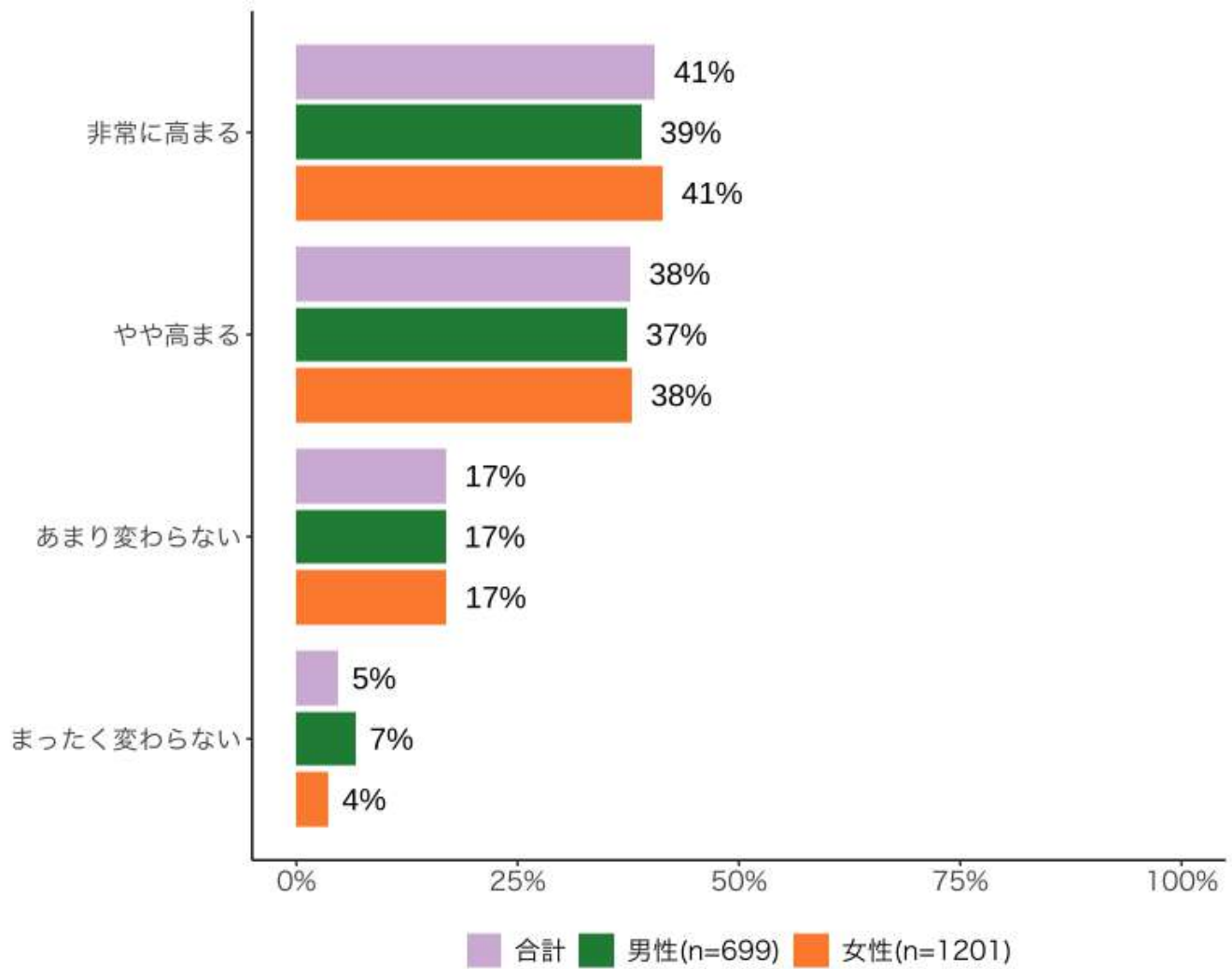
問 41 理想とするこどもの数を実現するために必要だと思うこと【問 40 で①～⑤と回答した方のみ】



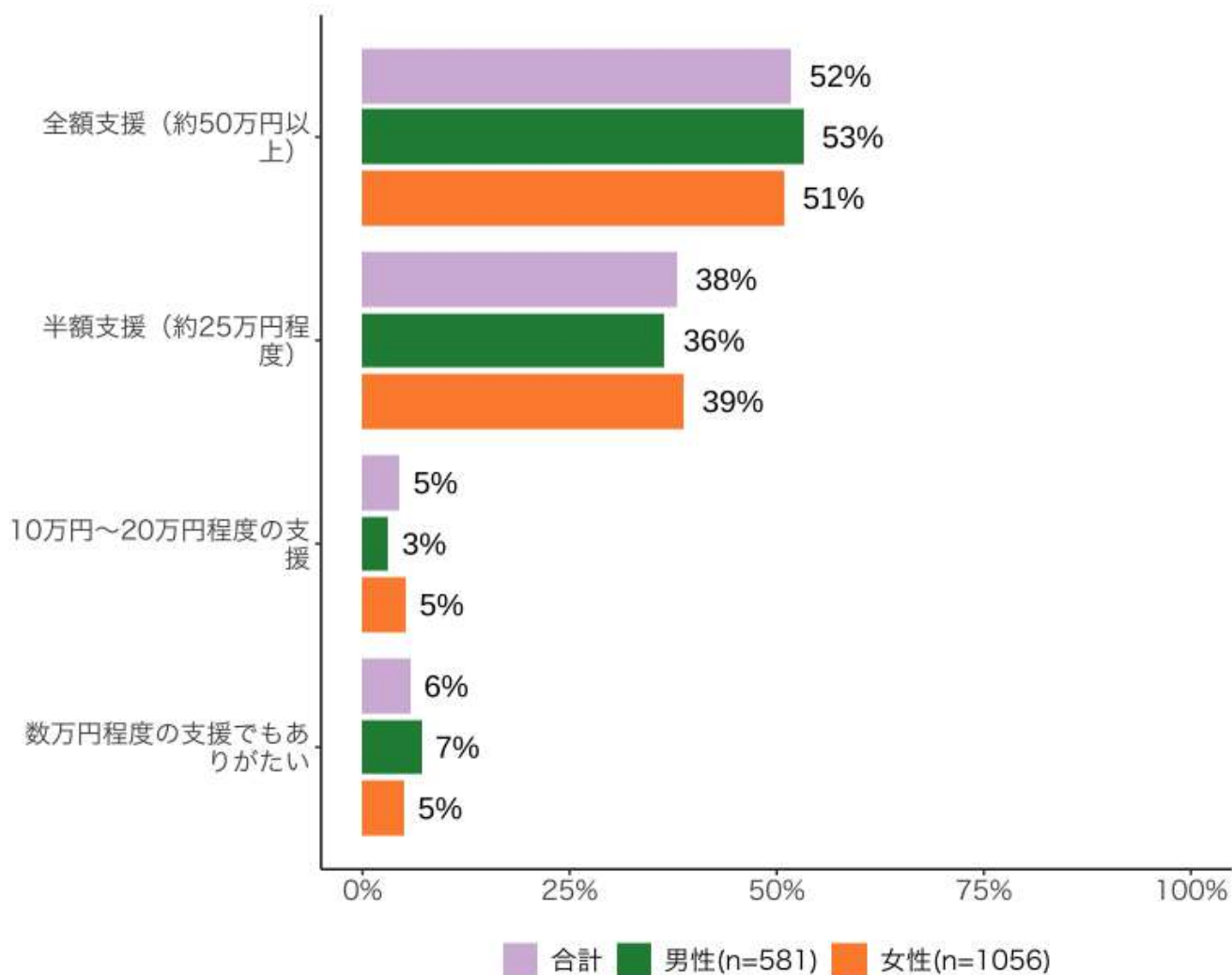
問 42 自身のこどもの大学進学を考える際、進学先を選ぶ主な理由は何ですか？【全員回答】



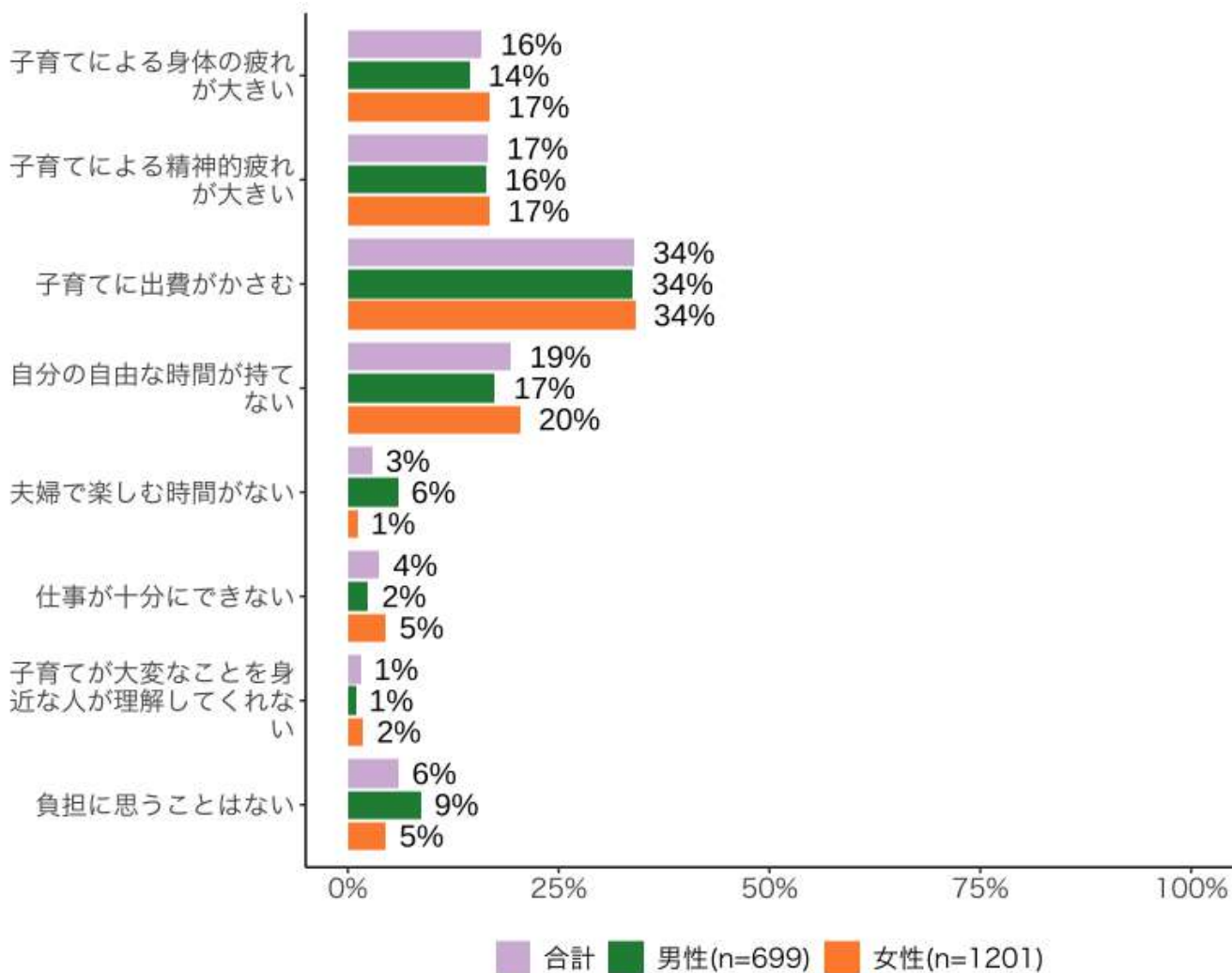
問 43 自身のこどもの進学先として県内大学を選ぶ可能性は、授業料支援があることでどの程度高まりますか（高まると思いますか）？【全員回答】



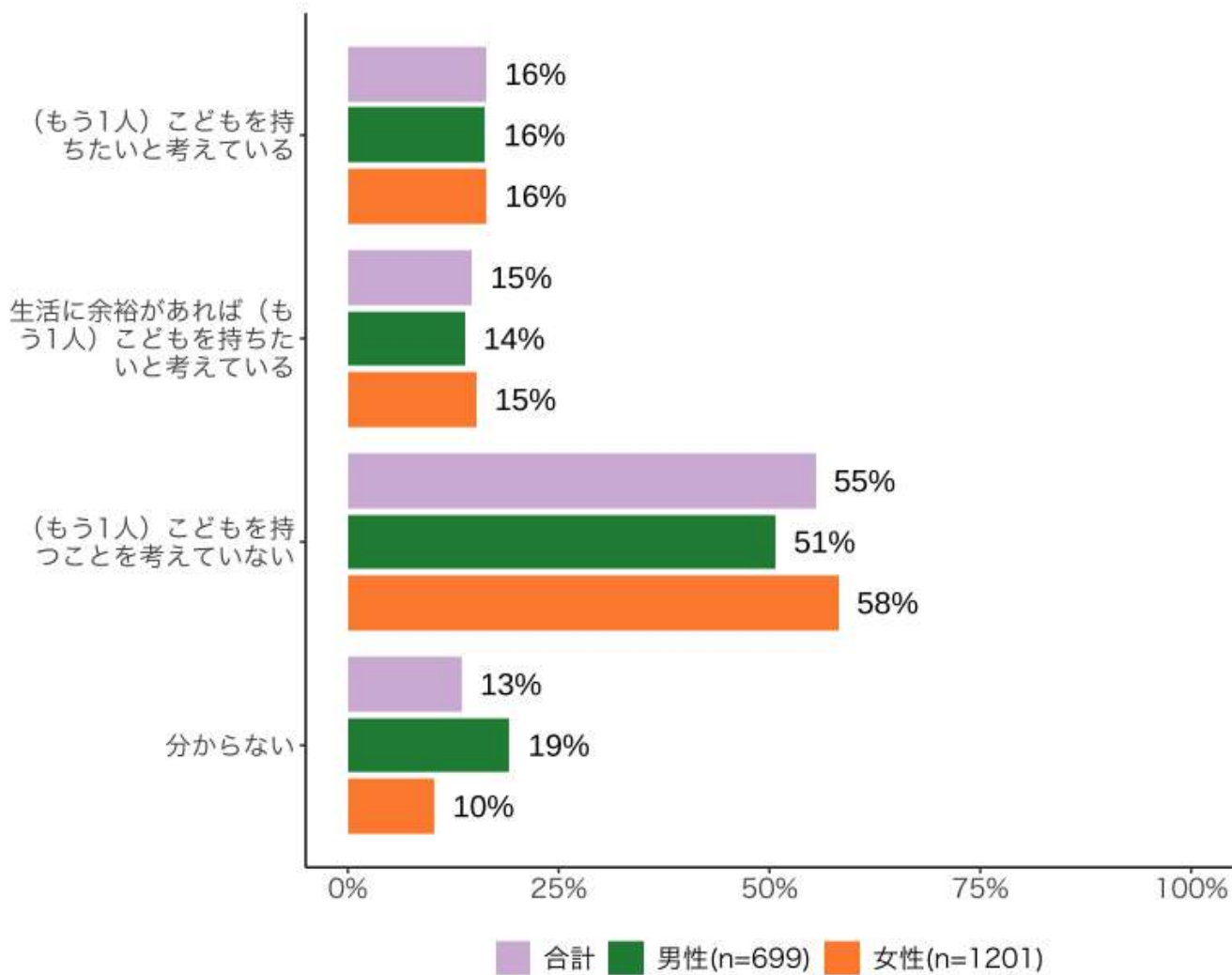
問 44 自身のこどもの進学先として、県内大学を選ぶには、年間授業料のどれくらいの支援があれば可能性が高まると感じますか？【問 43 で①～③と回答した方のみ】



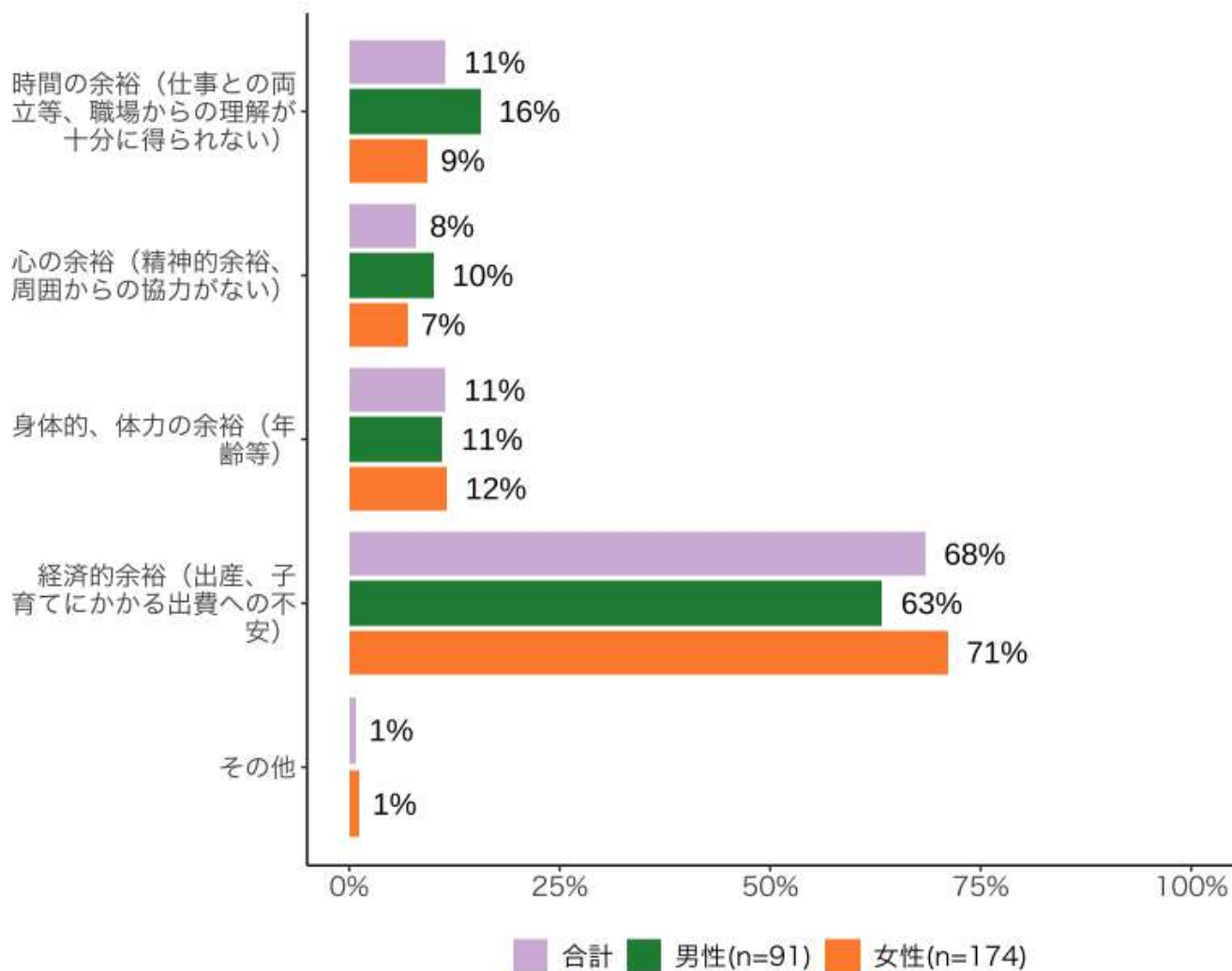
問 45 子育てをされていて（こどもがいない方は、子育てをするとしたら、）自分にとって負担に思う（であろう）ことはどんなことですか。【全員回答】



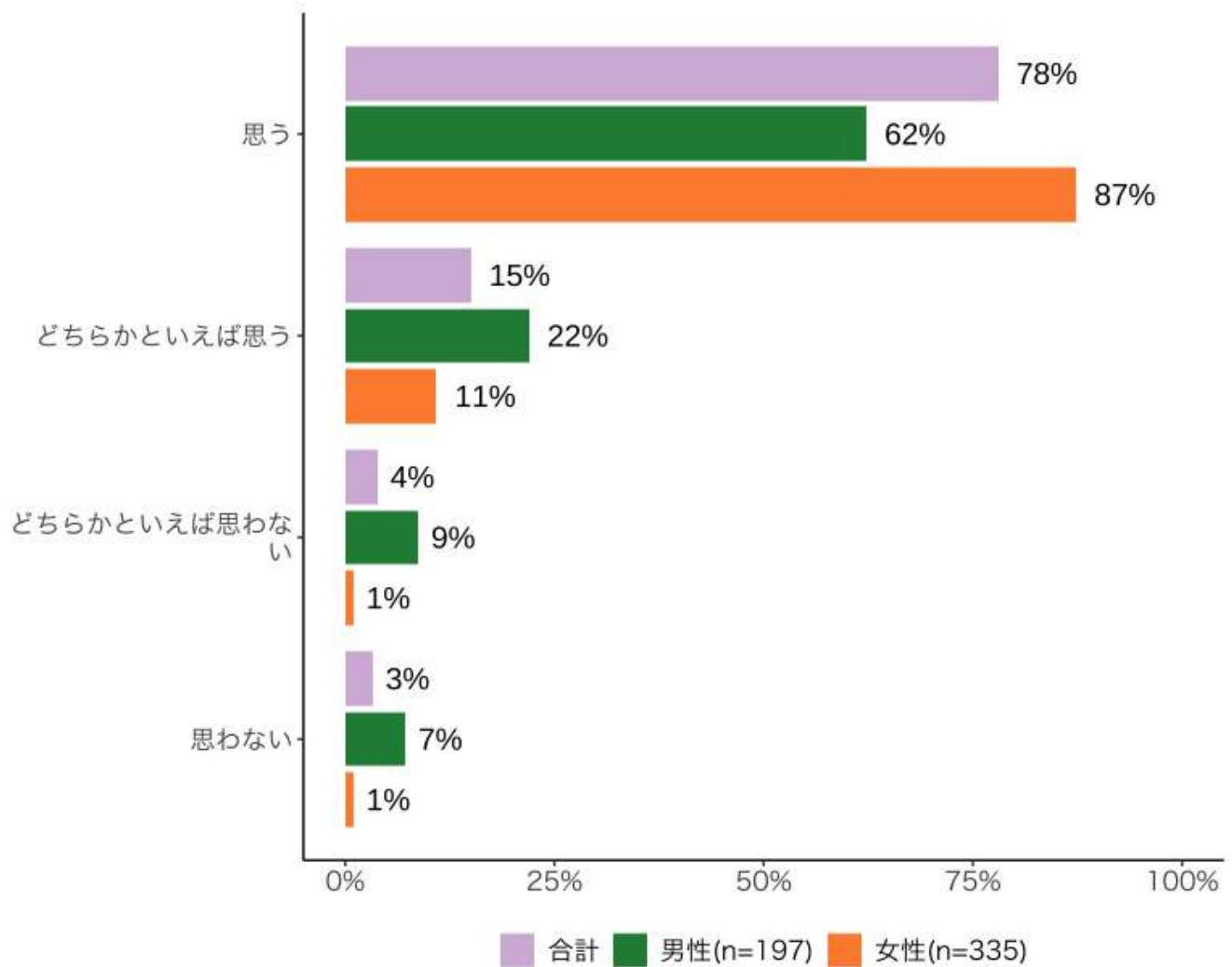
問 46 今後3年以内に子どもを持ちたいと考えていますか（すでにお子さんがいる方はもう1人持ちたいと考えていますか）【全員回答】



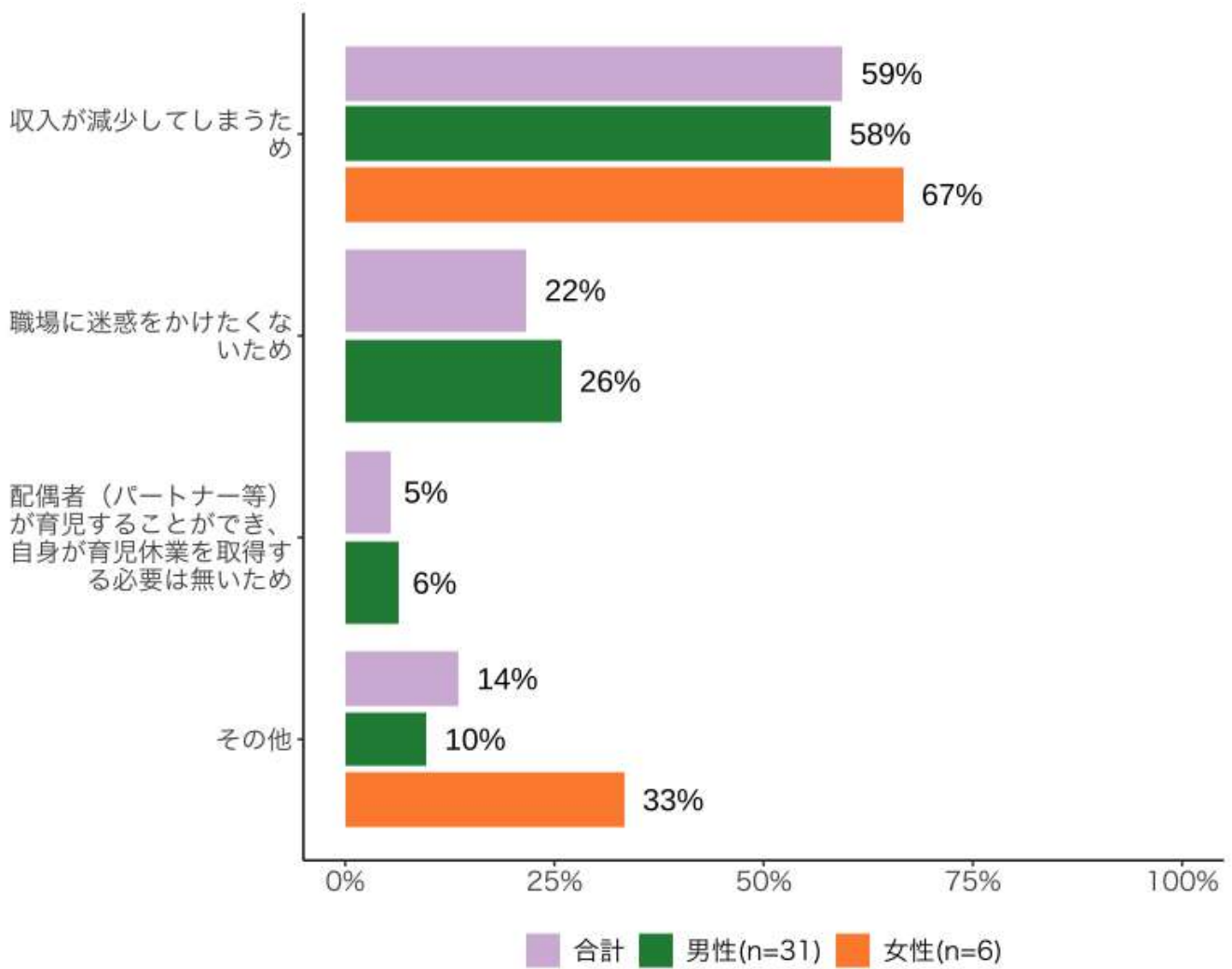
問 47 (もう1人) こどもを持つために、どんな余裕が不足していると思いますか【問 46で②と回答した方のみ】



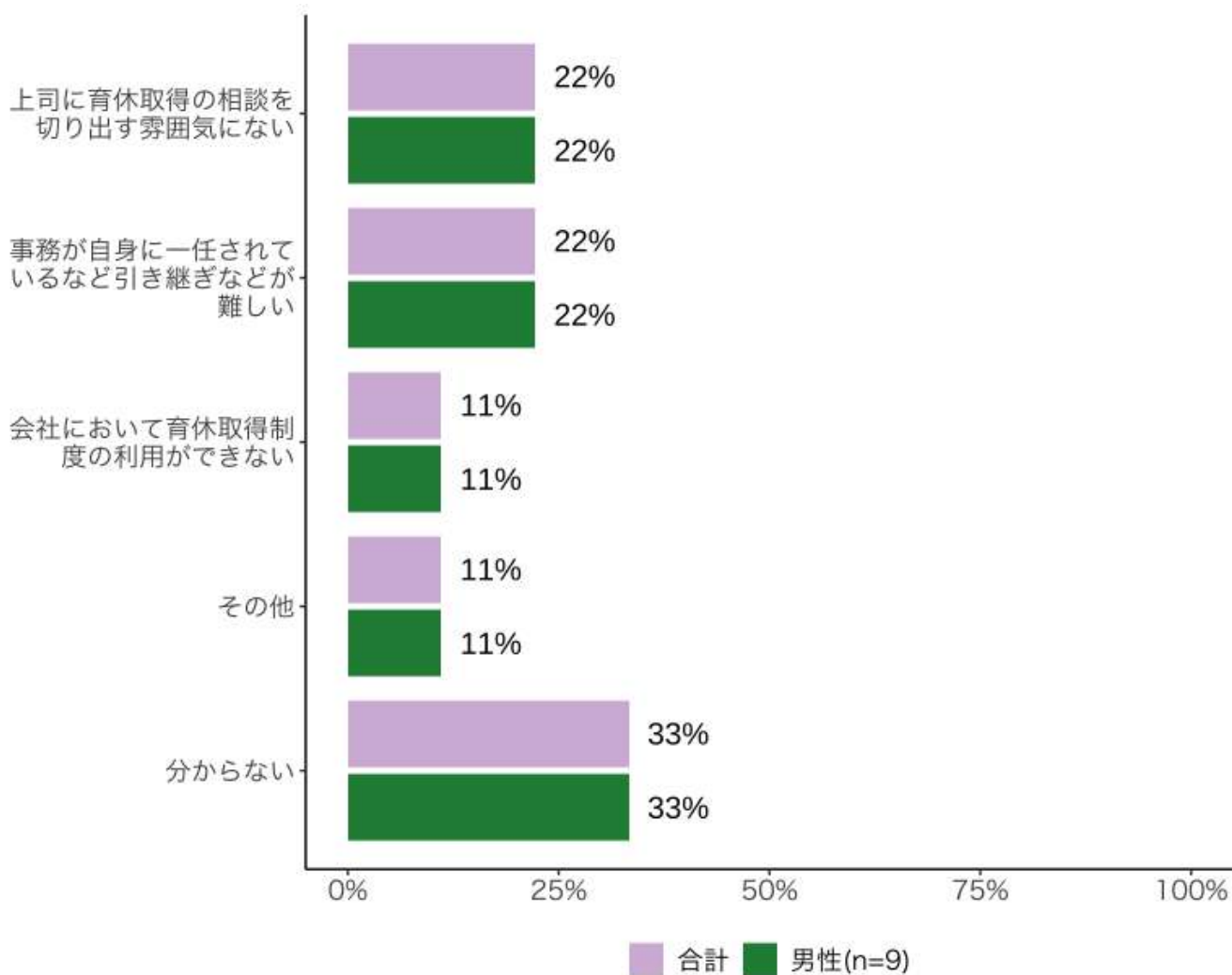
問 48 (こどもを持った場合に、1 カ月以上の) 育休を取得したいと思いますか【問 46 で①～②、かつ問 11 で①～⑦と回答した方のみ】



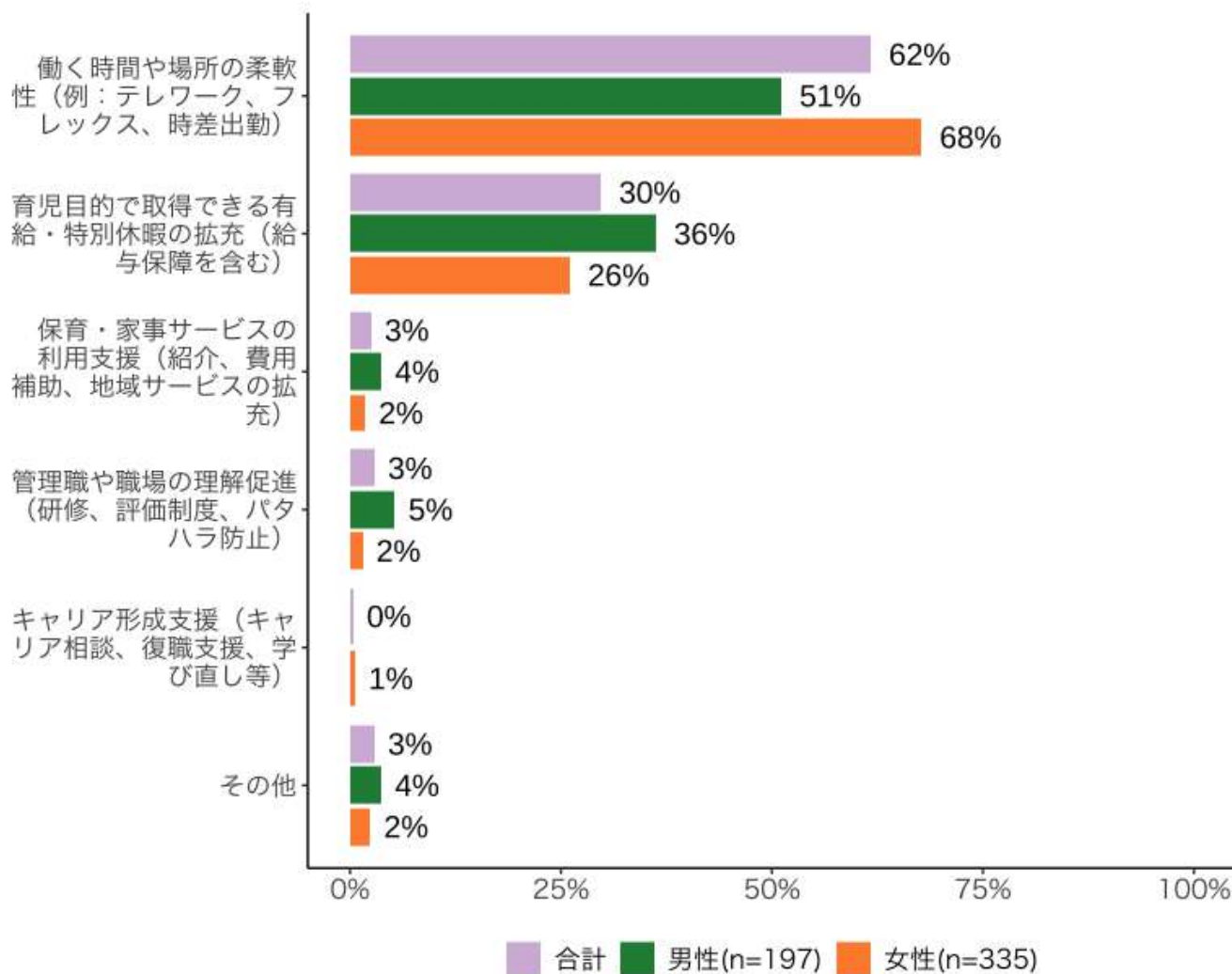
問 49 (1 か月以上の) 育休を取得したいと思わない理由はなんですか【問 48 で③～④と回答した方のみ】



問 50 育休取得に関して職場におけるハードルがあると感じますか【問 49 で②～③と回答した方のみ】



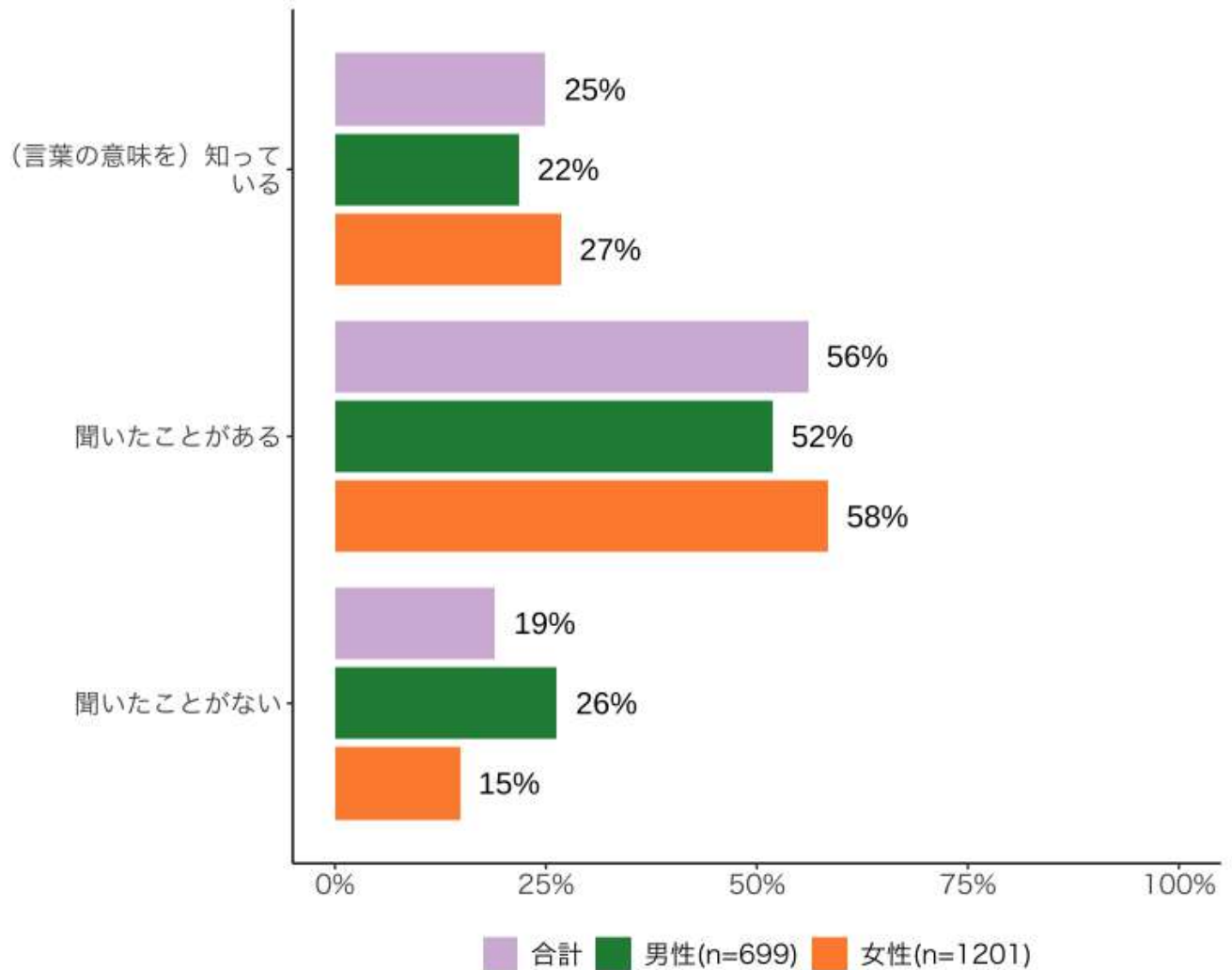
問 51 育休から復帰した際の会社からの支援について要望はありますか【問 46 で①～②、かつ問 11 で①～⑦と回答した方のみ】



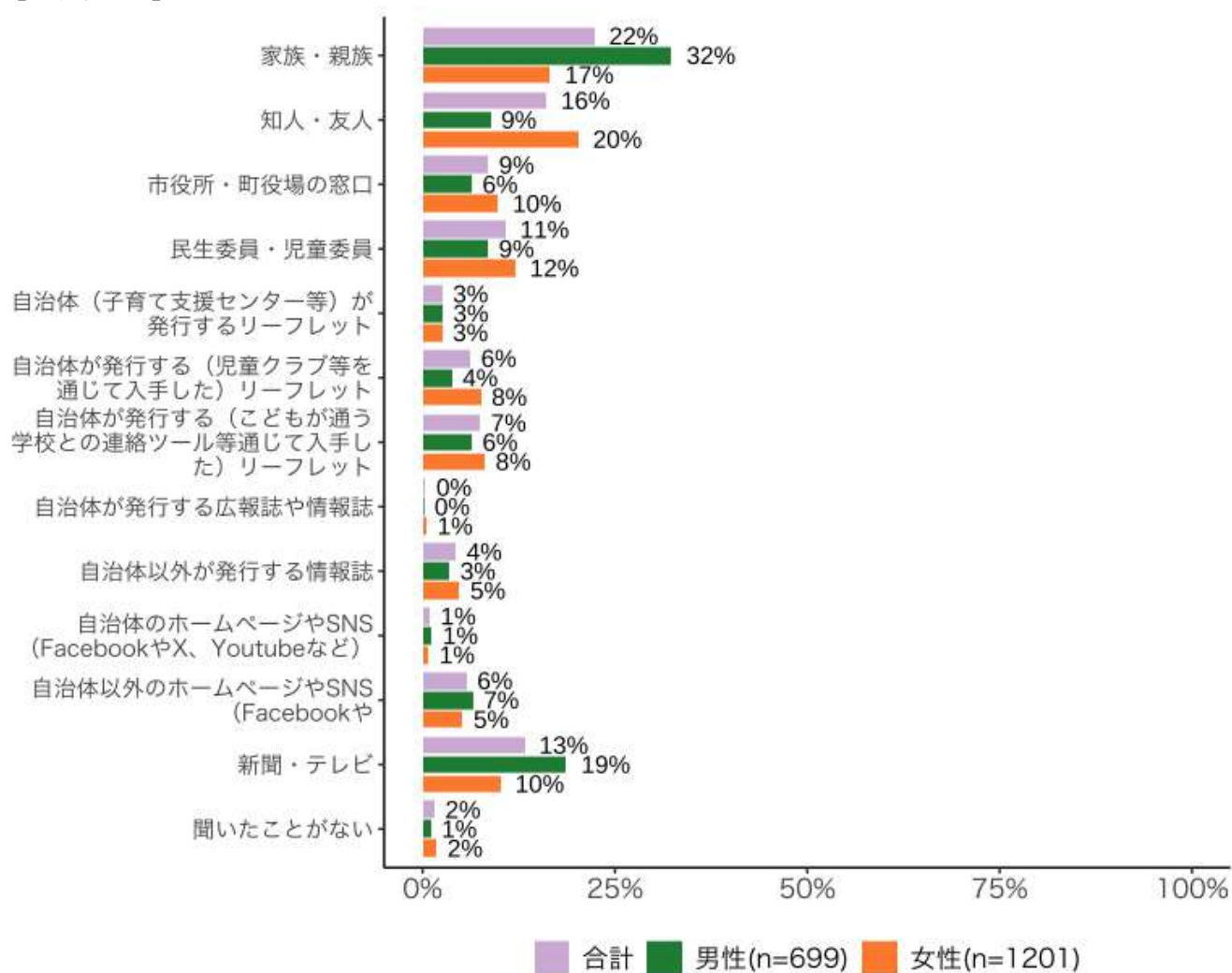
4. 子育てにかかる環境に関すること

問 52 「ふく育県」という言葉を知っていますか。（あてはまるものを1つ選択）

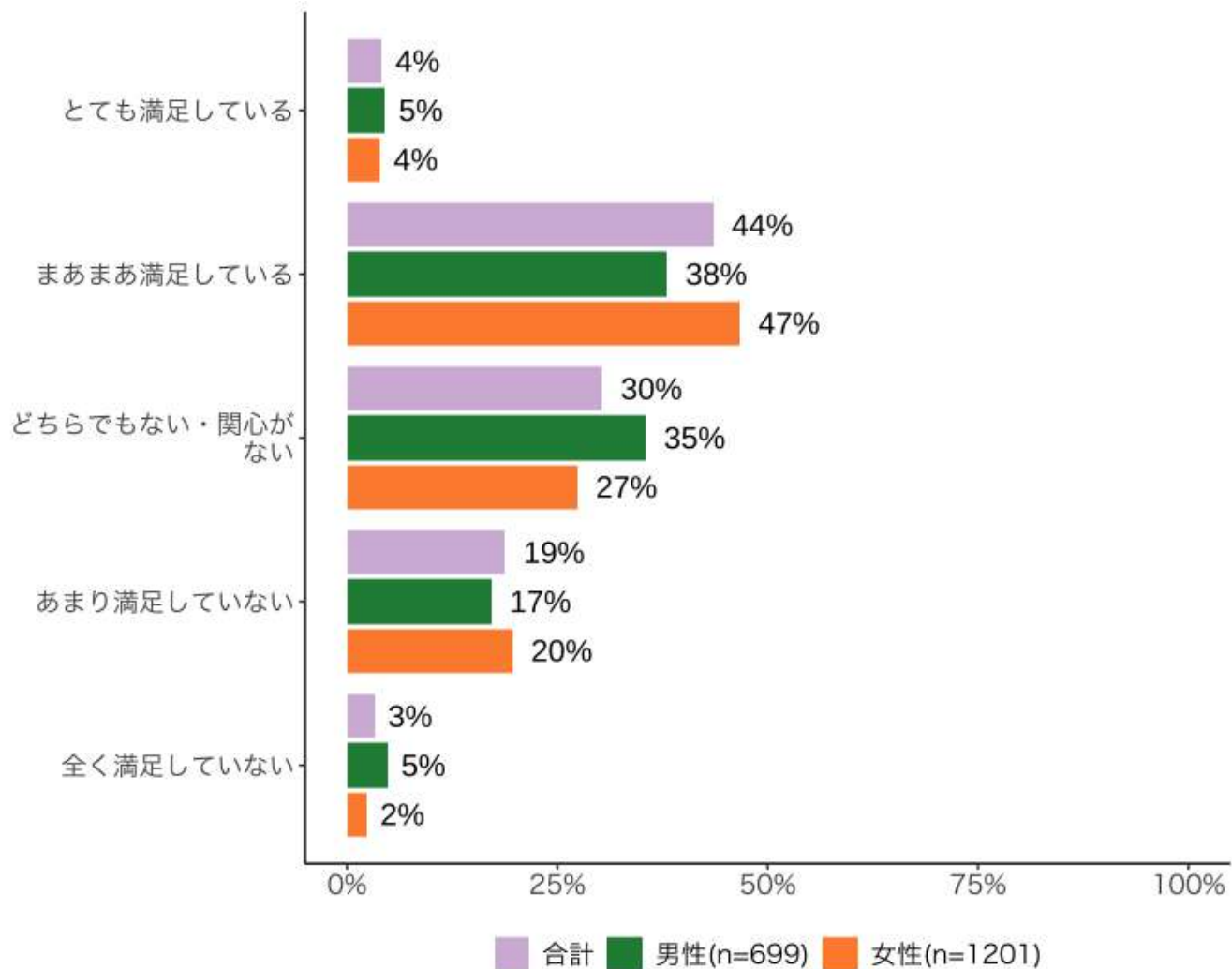
※福井県は日本一幸福な子育て県「ふく育県」を宣言し、保育料無償化をはじめとした経済的支援や、子育てにおける負担感を減らす施策、子育てをもっと楽しくする施策など、子育て世帯へのよりきめ細やかな支援を市町とともに進めています【全員回答】



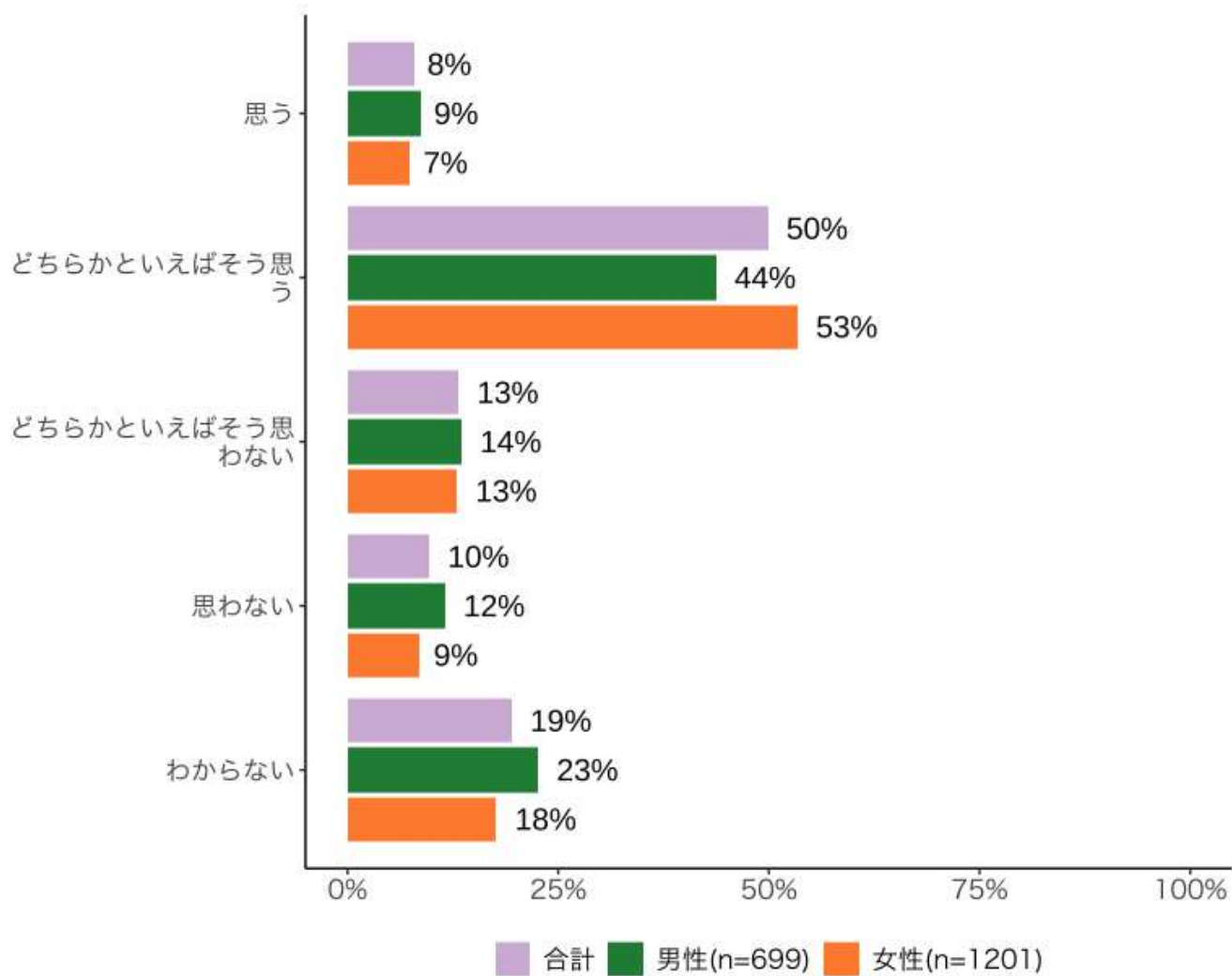
問 53 福井県が実施する、子育て支援サービスの情報は、どこから情報を入手していますか
【全員回答】



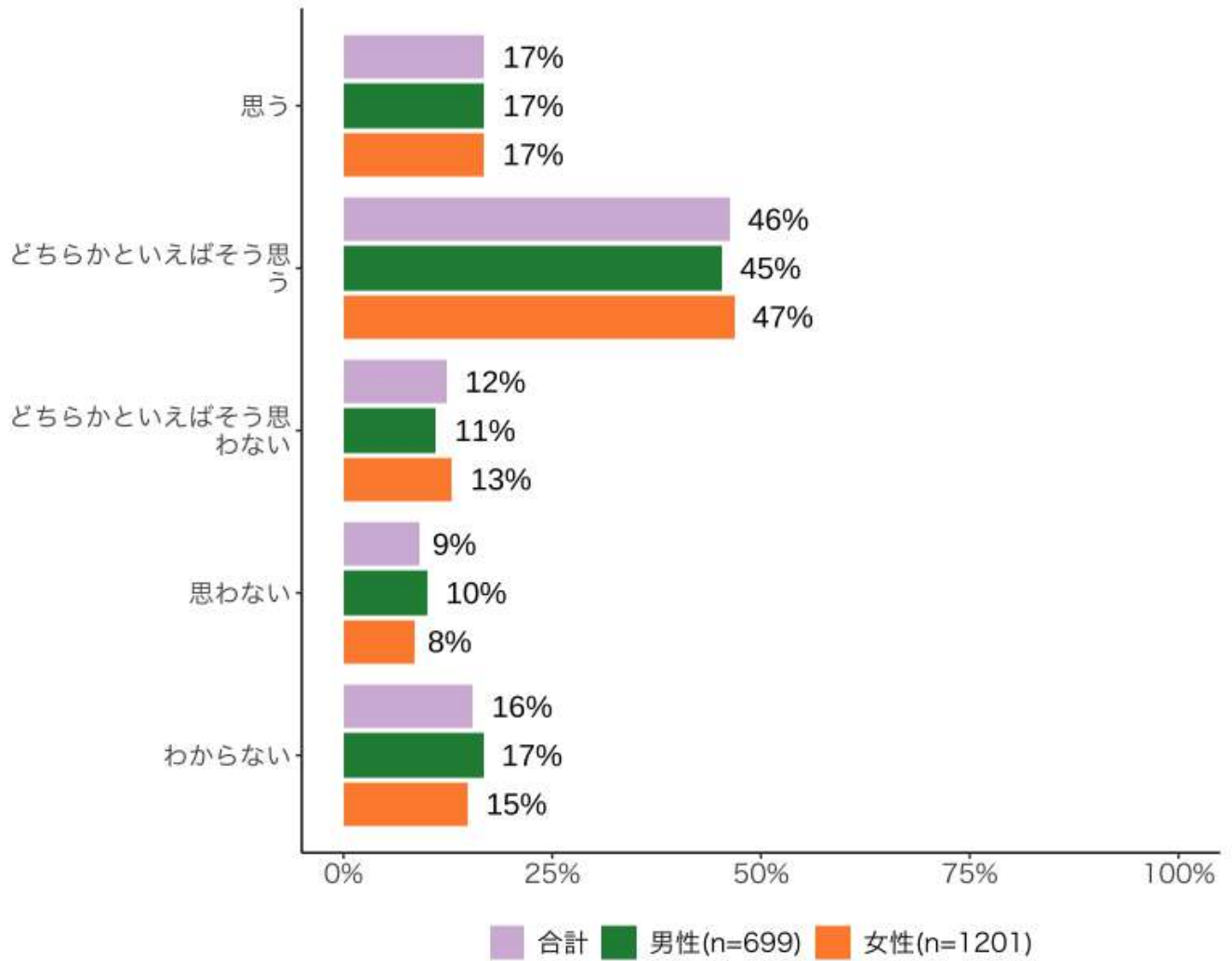
問 54 居住している地域（福井県）の行政による子育て支援に満足していますか【全員回答】



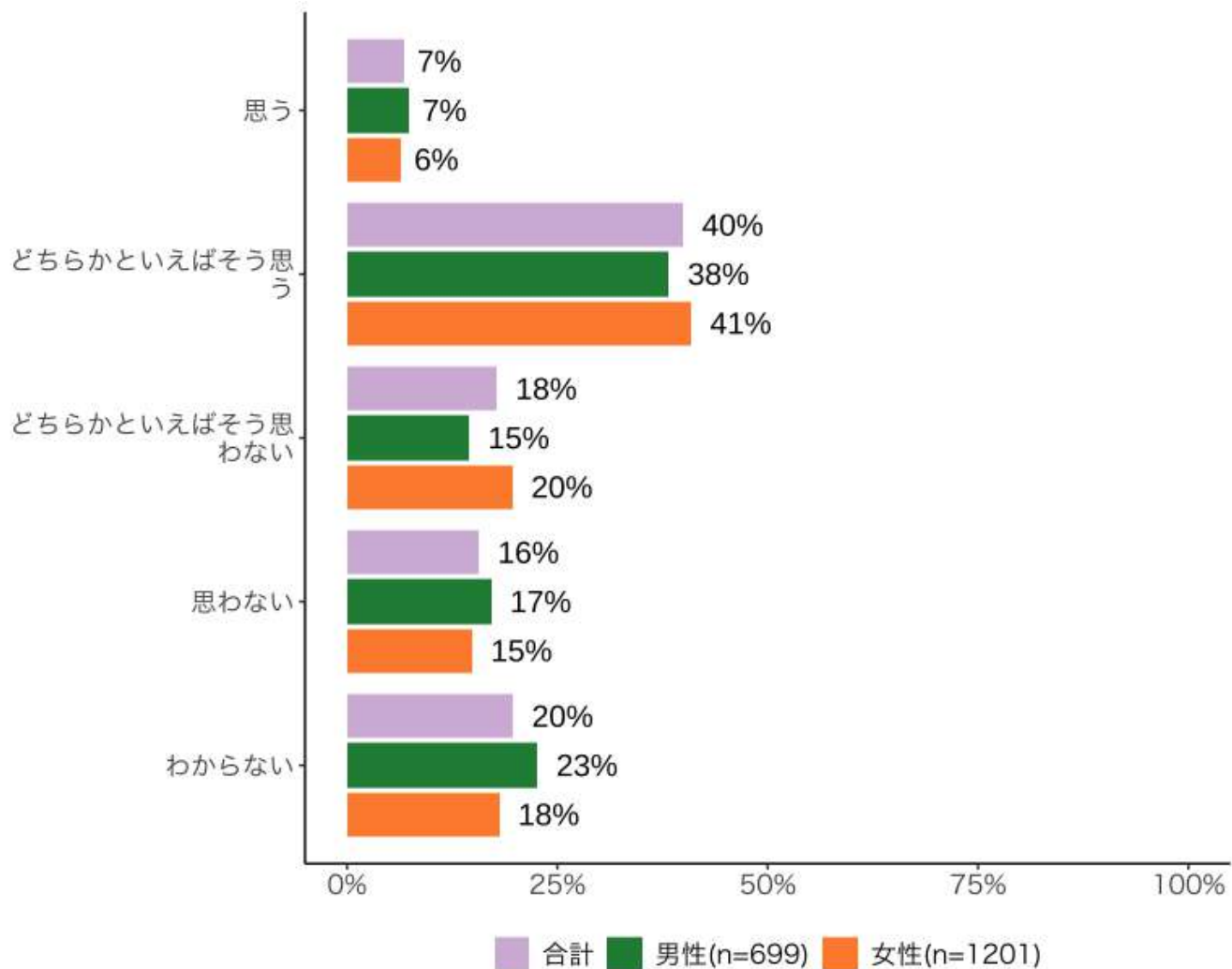
問 55 福井県は結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会に向かっていると思いますか【全員回答】



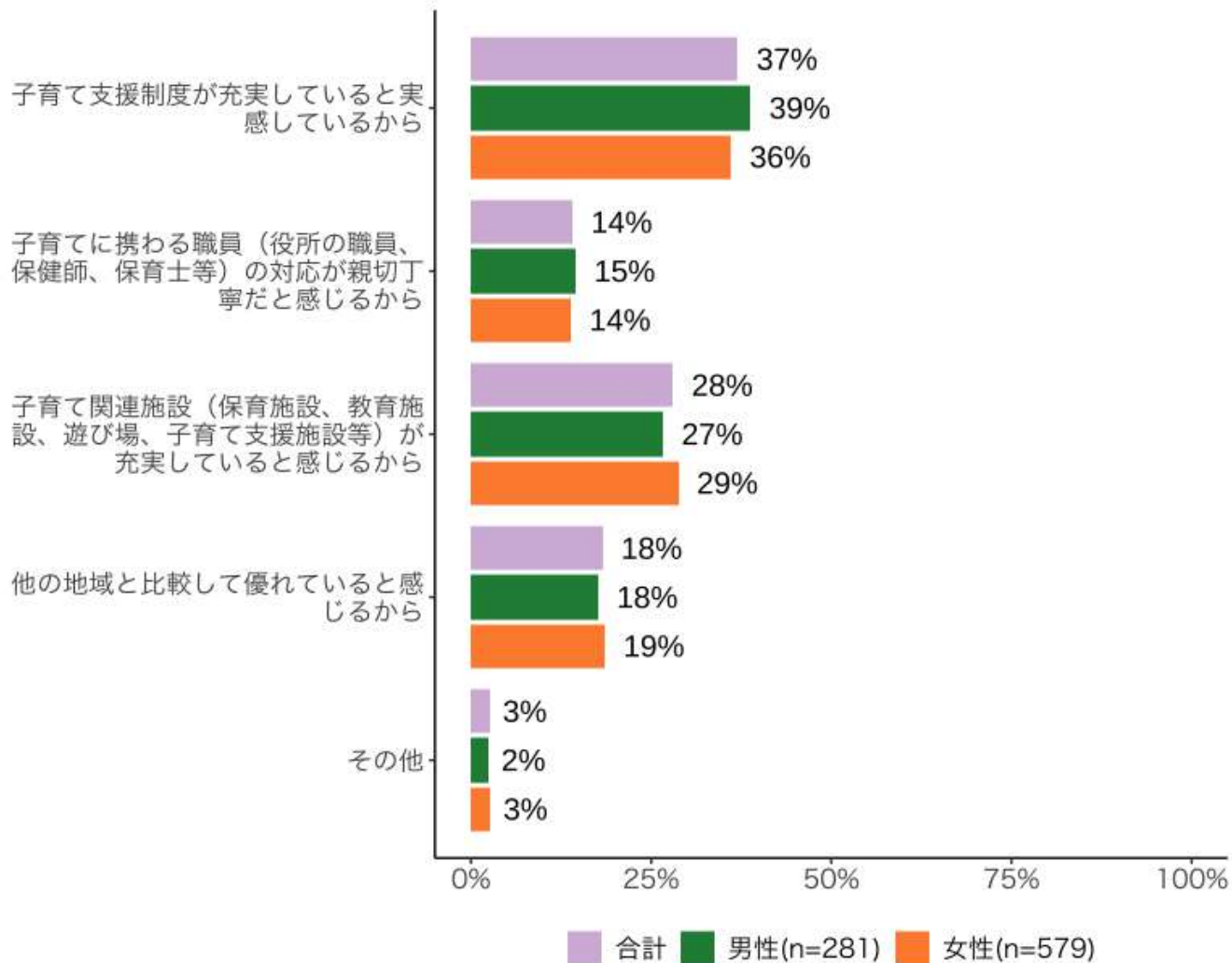
問 56 福井県は共働き・共育てが推進されていると思いますか【全員回答】



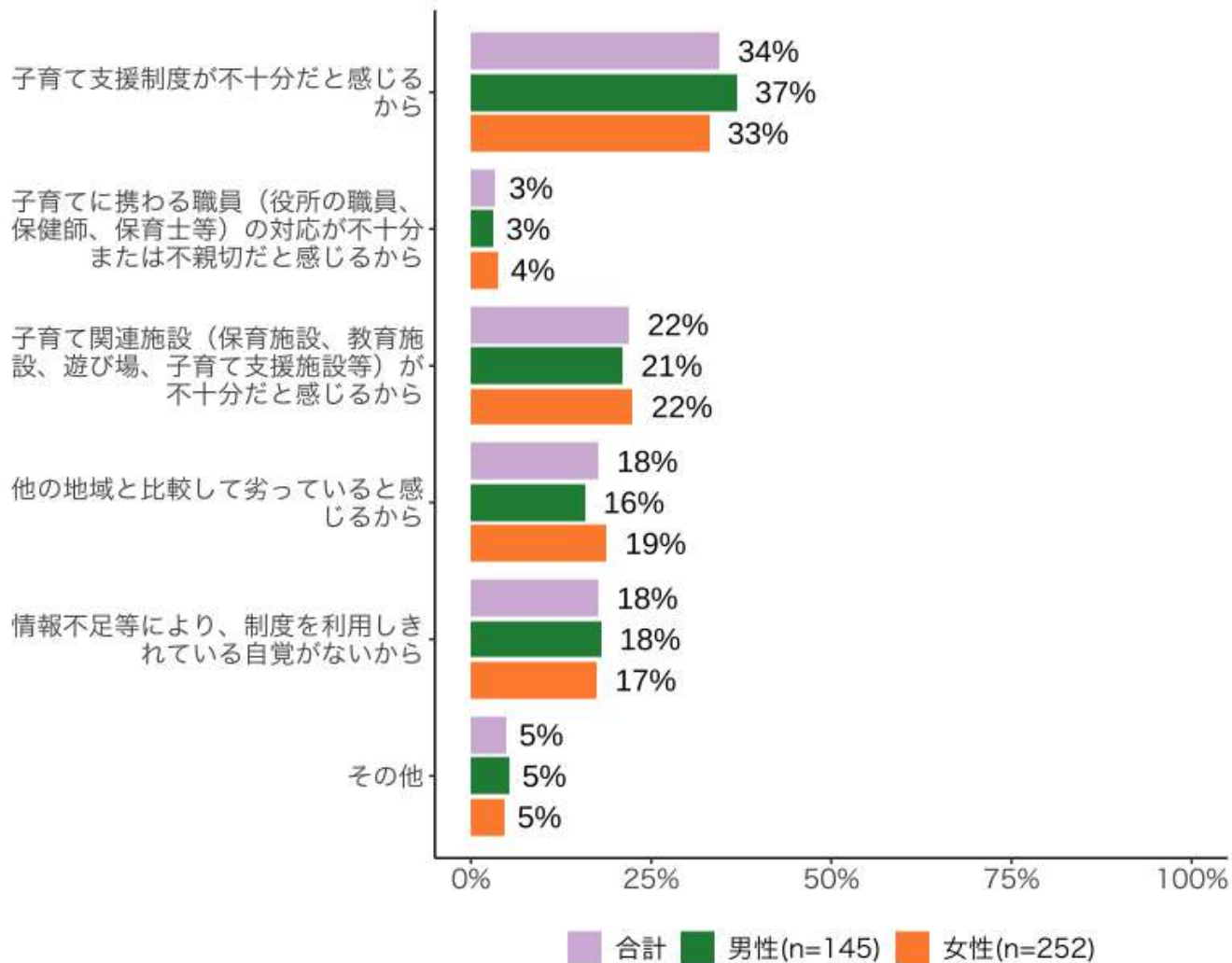
問 57 福井県での子育ては地域で支えられていると思いますか【全員回答】



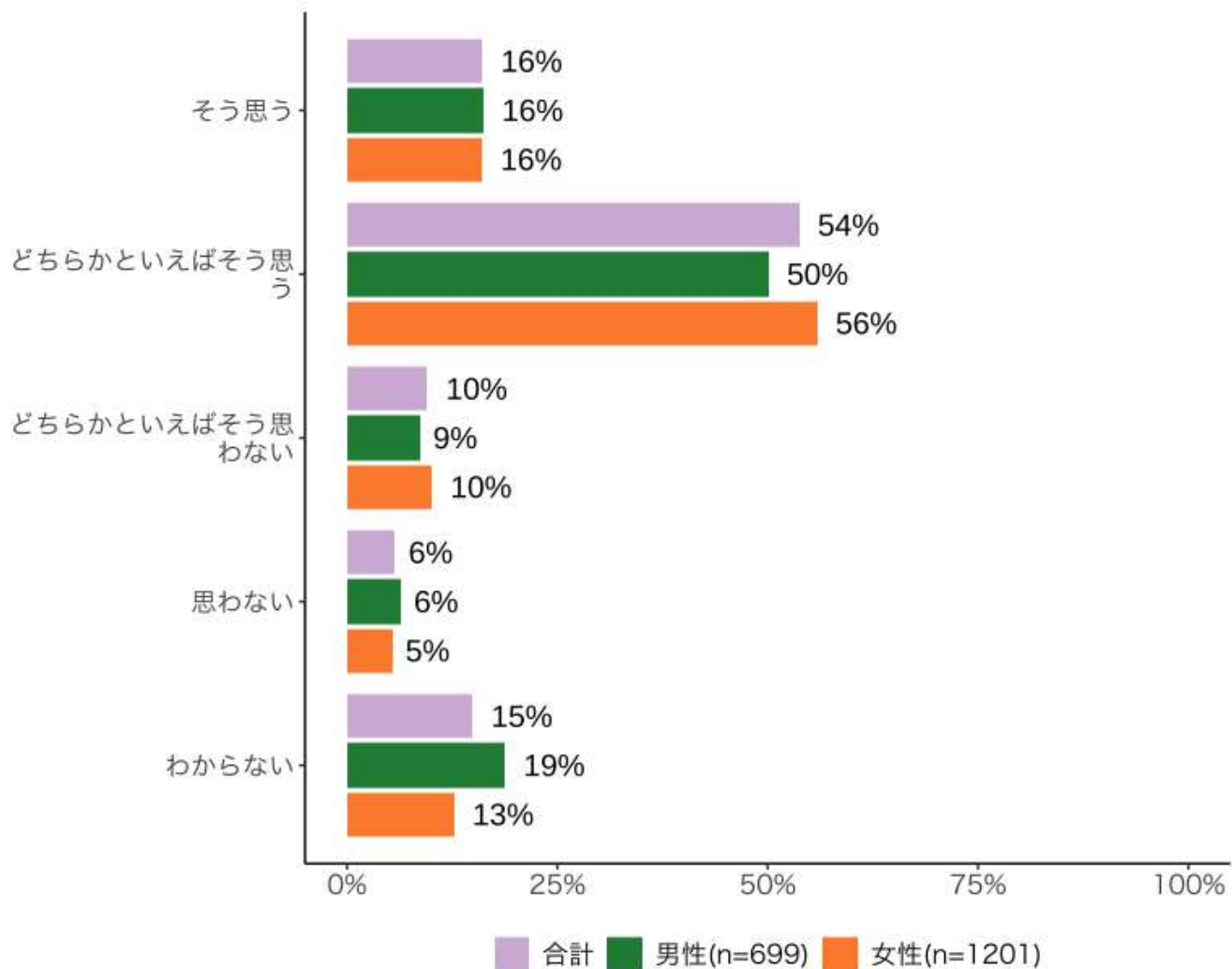
問 58 満足していると回答した理由【問 54 で①～②と回答した方のみ】



問 59 満足していないと回答した理由【問 54 で④～⑤と回答した方のみ】



問 60 福井県は子育てしやすい県だと思いますか【全員回答】



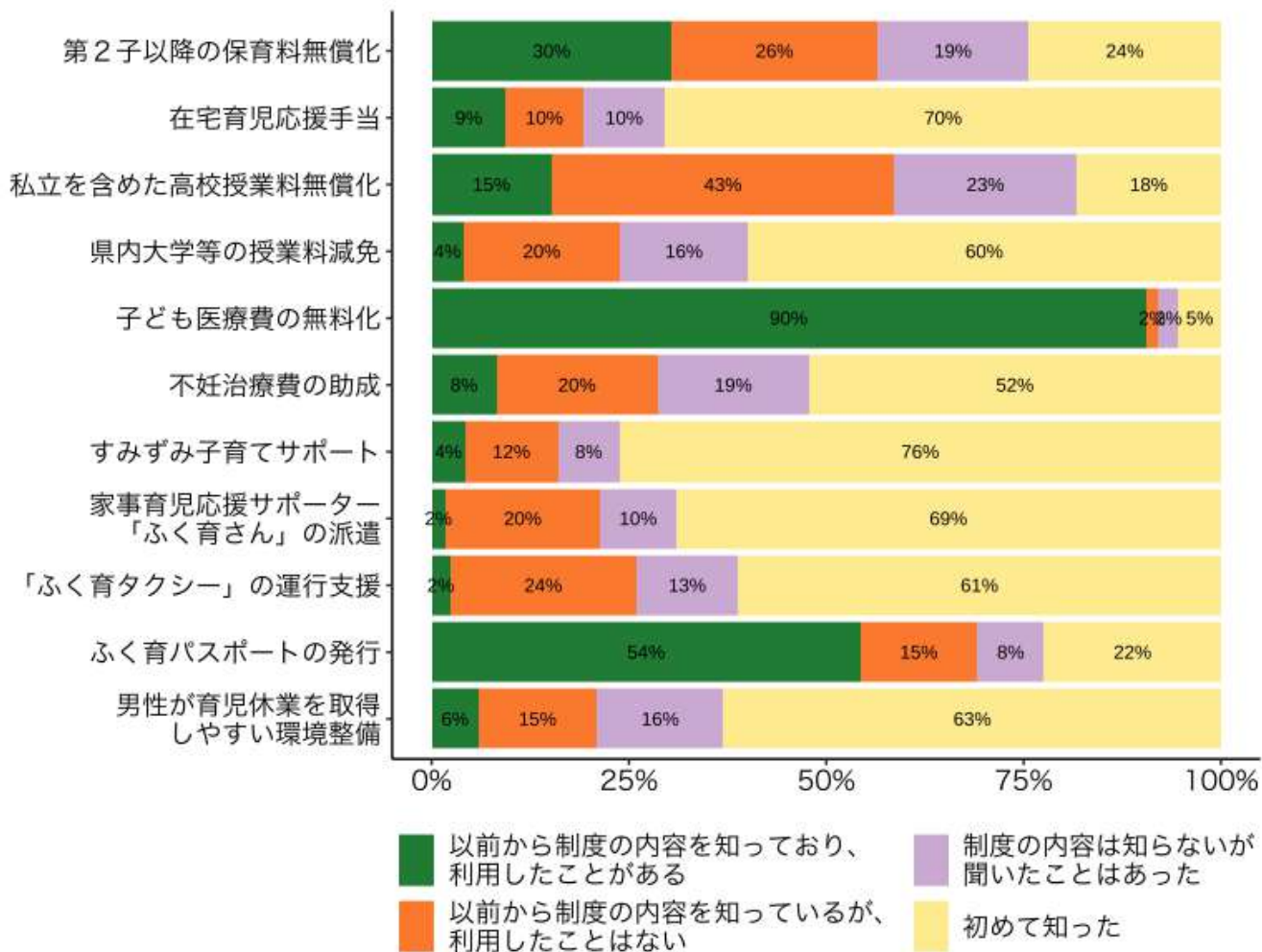
5. 既存の子育て支援策に関すること

「配偶者がいる」または、「こどもが1人以上いる」方の回答

既存の子育て支援策に関すること

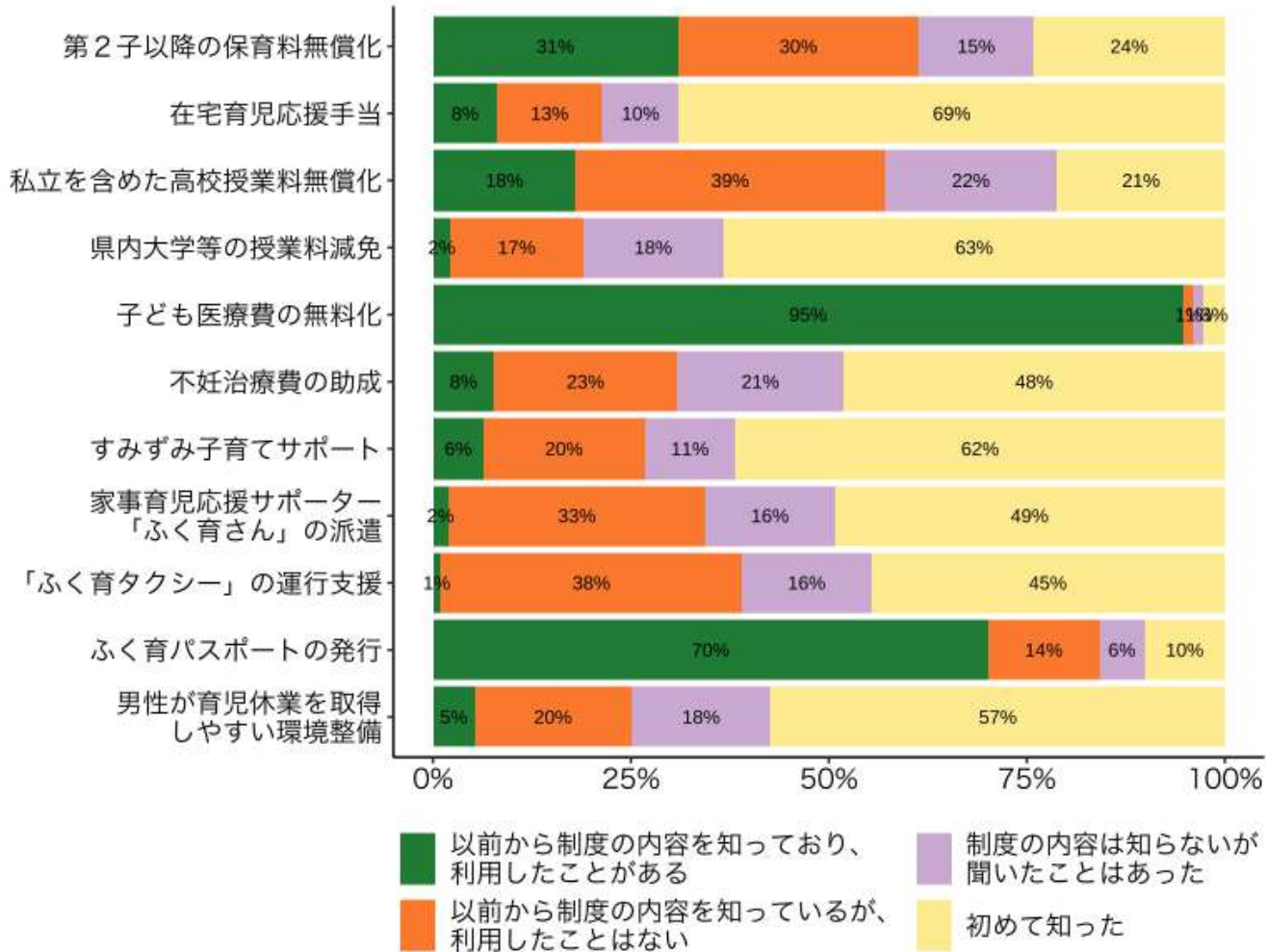
認知度

男性 (n=546)

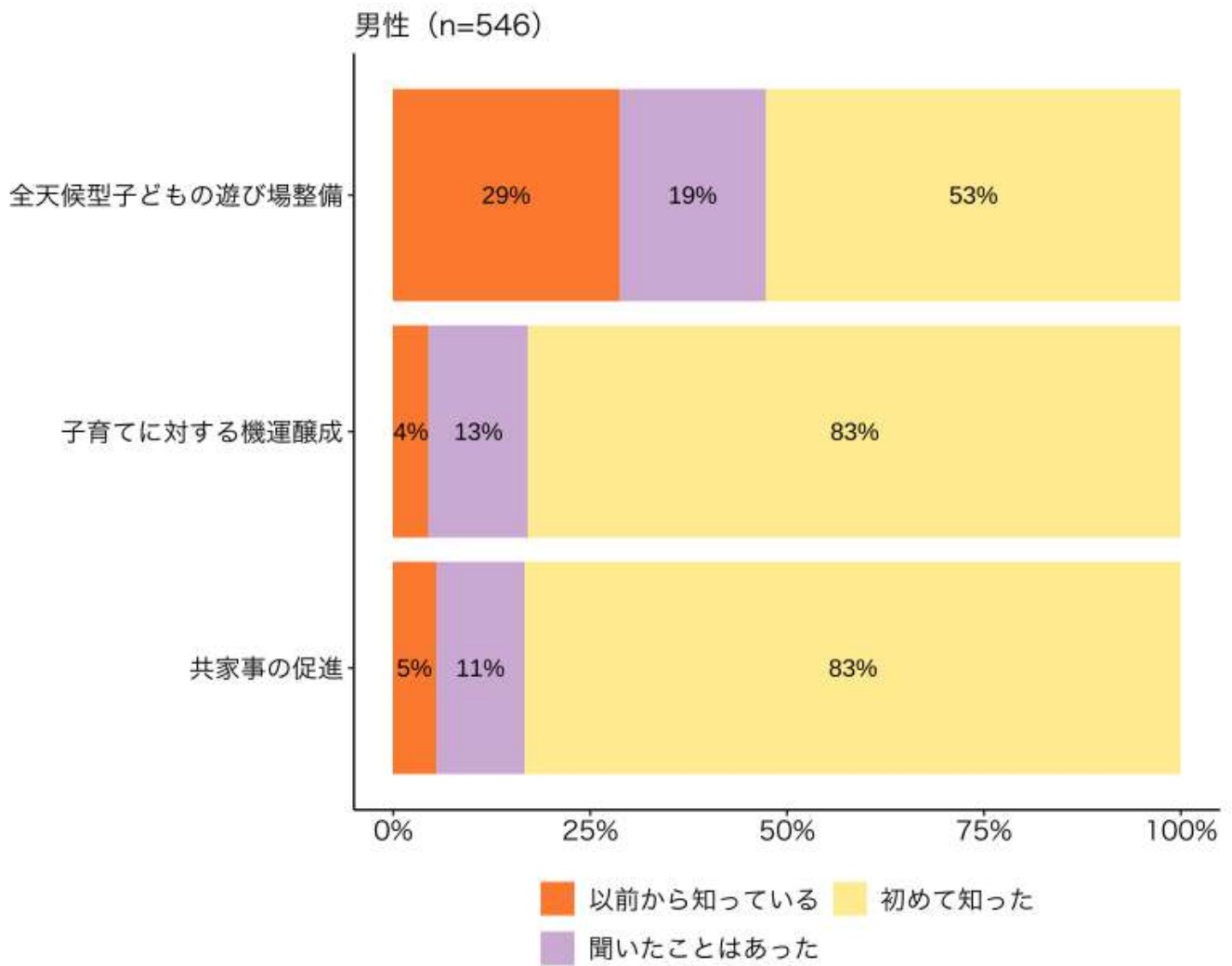


既存の子育て支援策に関すること（認知度）

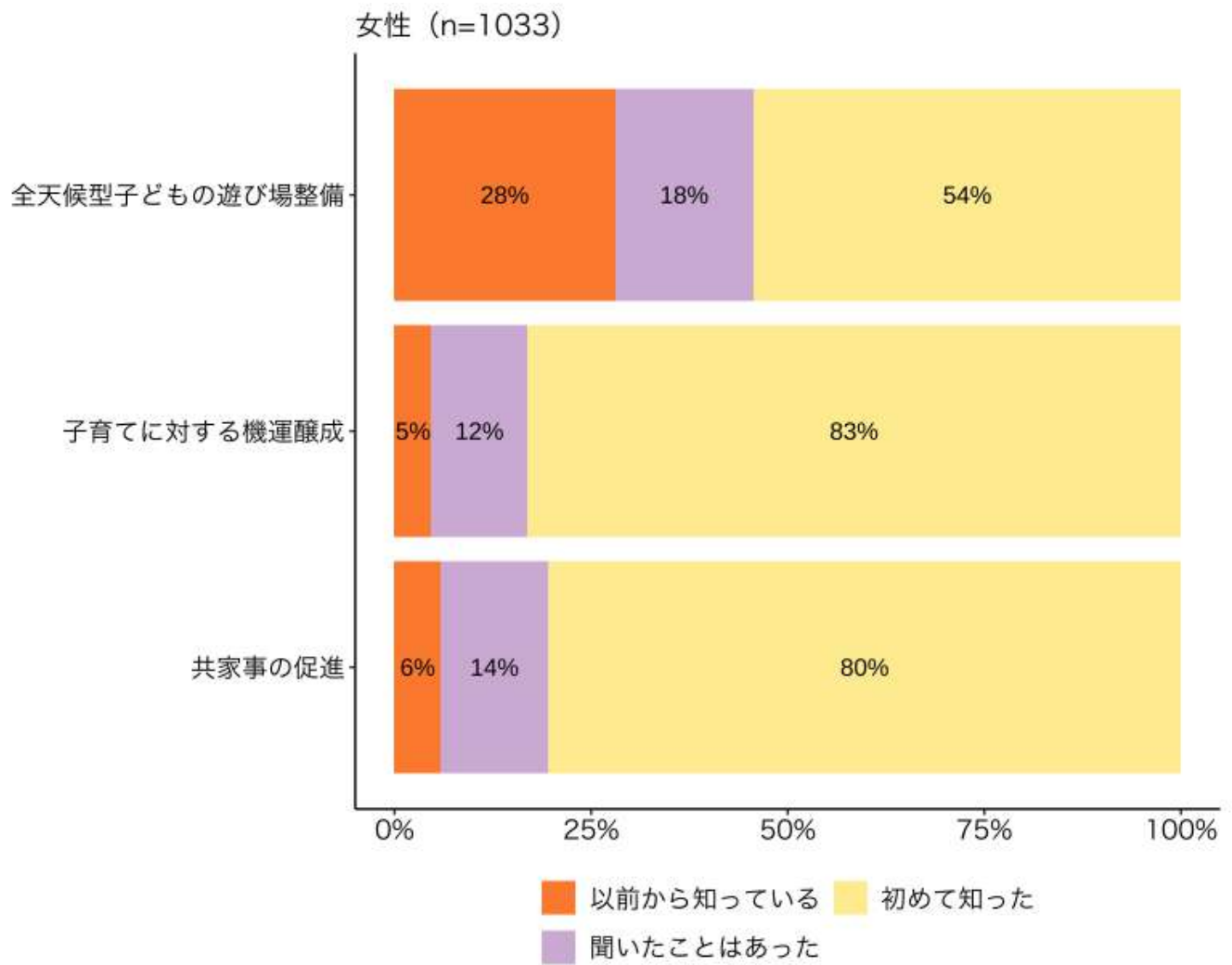
女性（n=1033）



既存の子育て支援策に関すること（認知度）

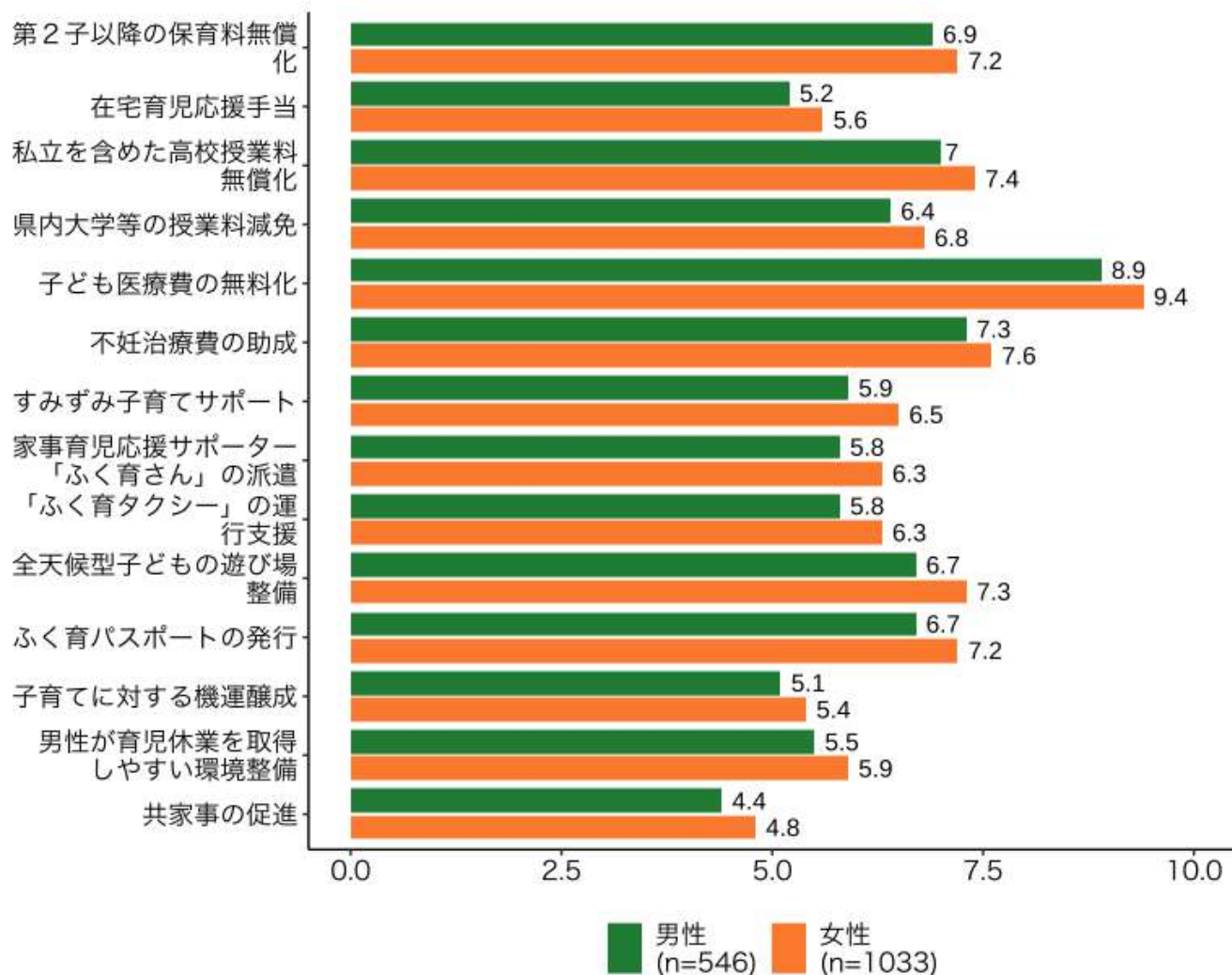


既存の子育て支援策に関すること（認知度）



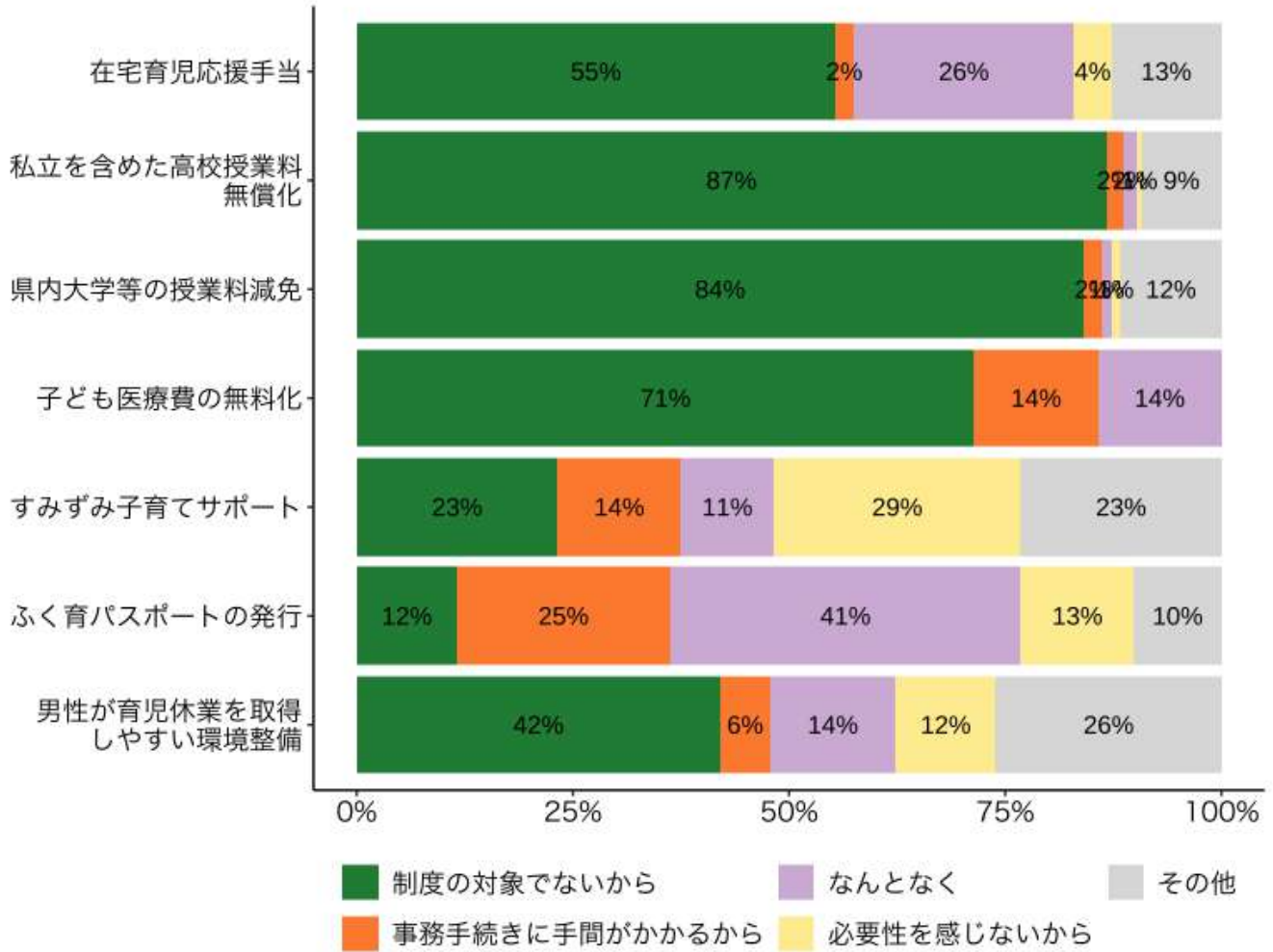
既存の子育て支援策に関すること

評価



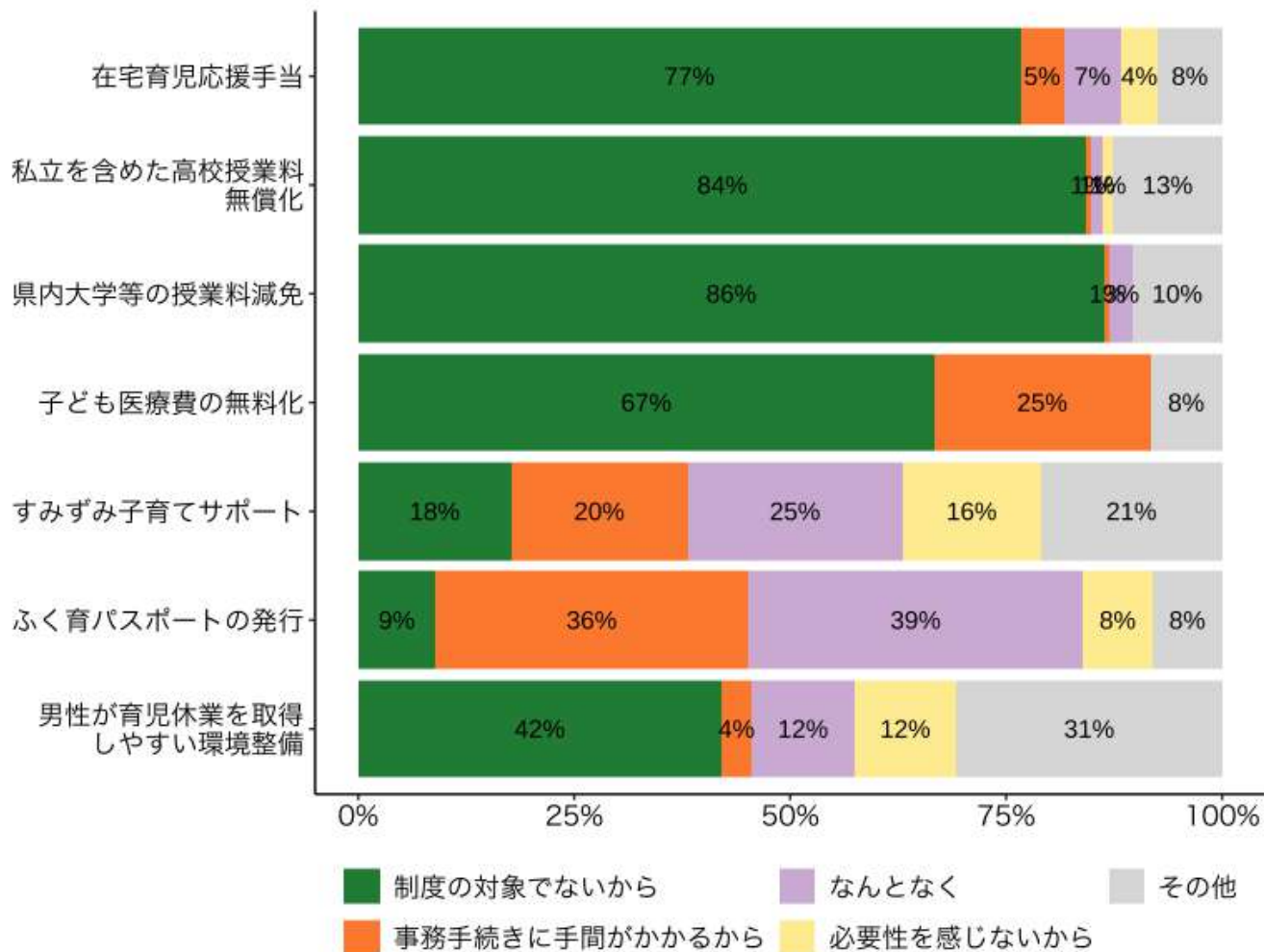
「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由

男性 (n=546)

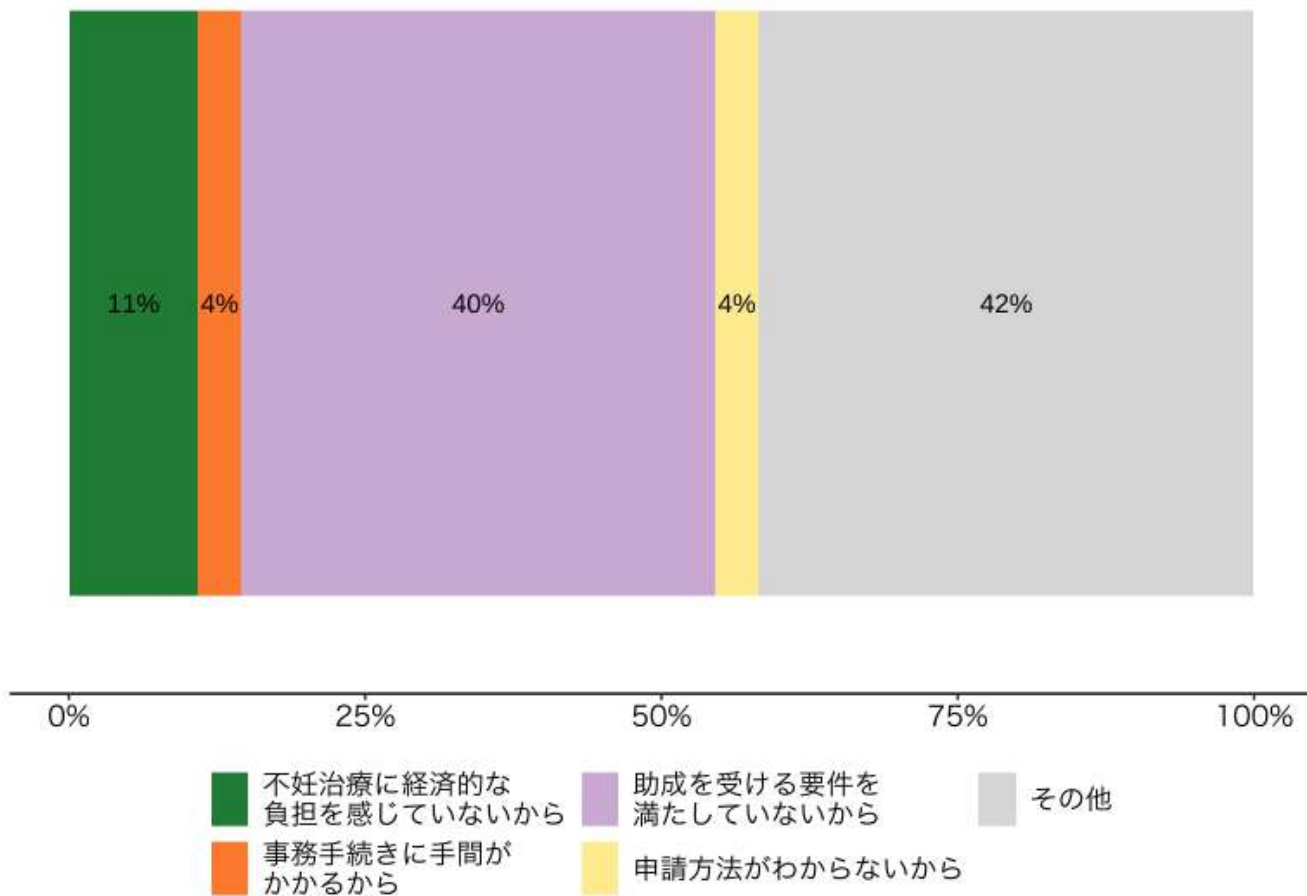


「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由

女性 (n=1033)

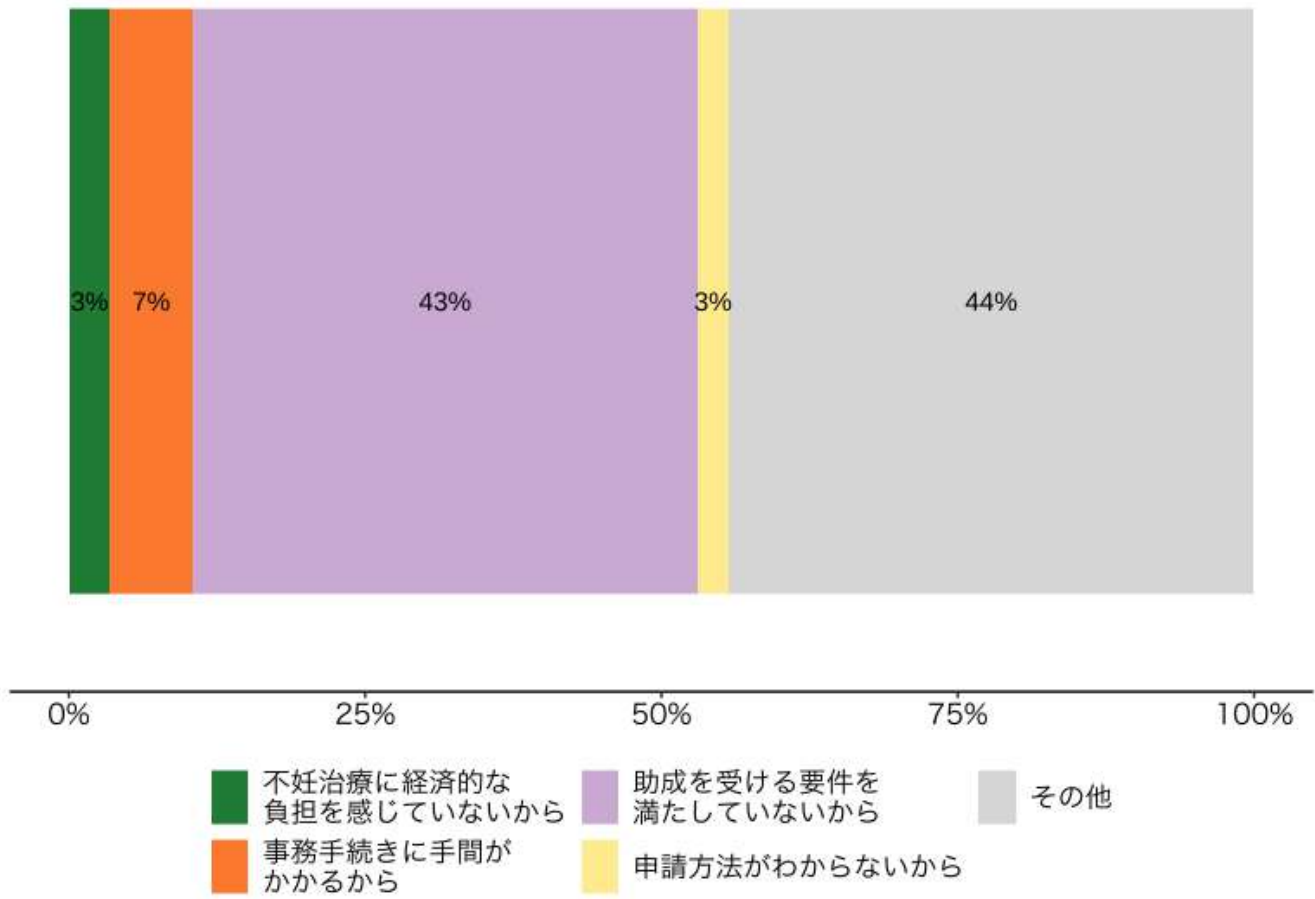


「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由（不妊治療を受けている方のみ回答）
男性（回答者 n=55）

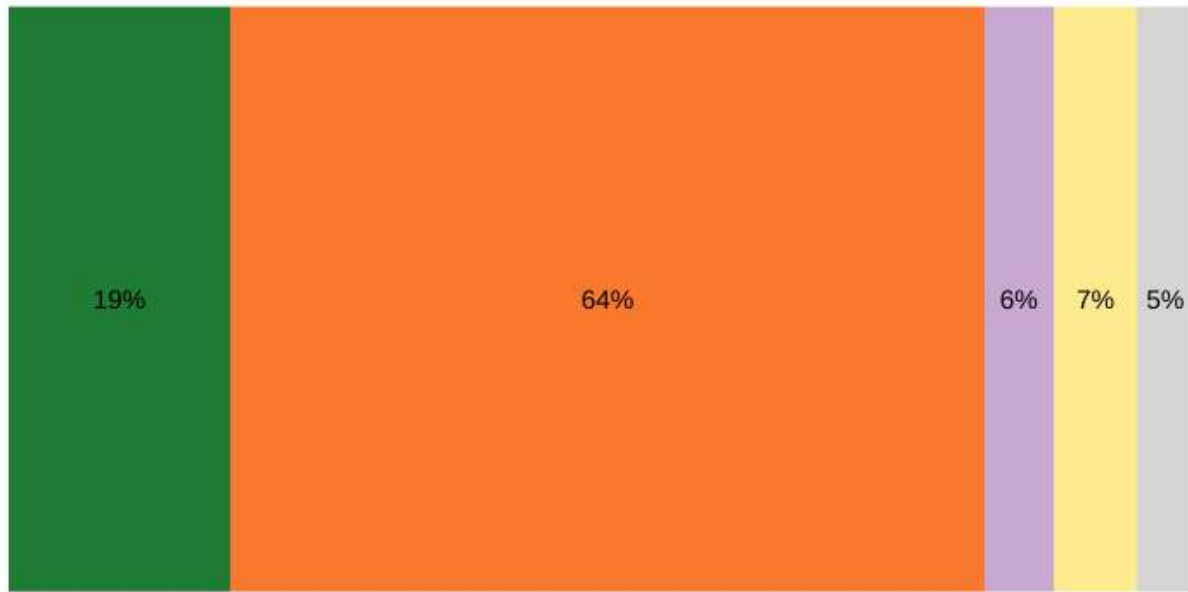


「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由（不妊治療を受けている方のみ回答）

女性（回答者 n=115）



「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由（不妊治療を受けていない方のみ回答）
男性（回答者 n=85）

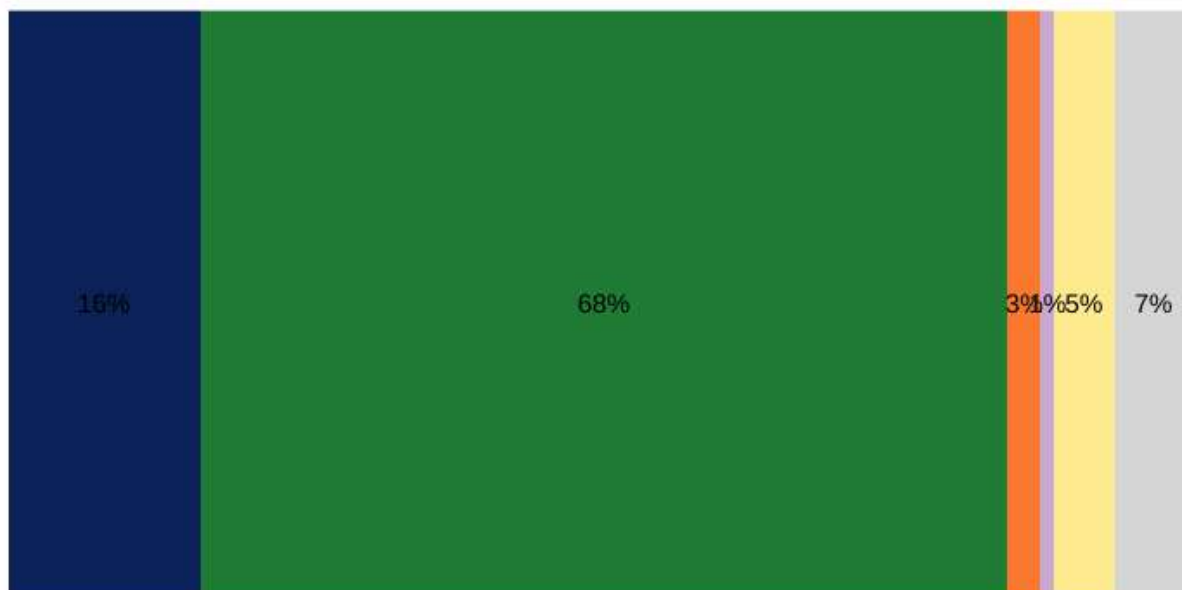


0% 25% 50% 75% 100%

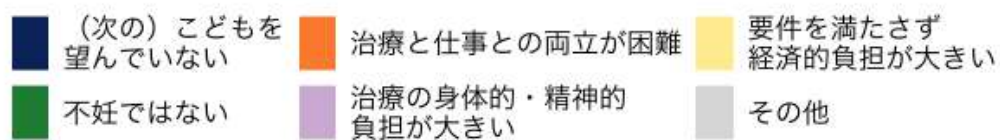
- (次の) 子どもを望んでいない
- 不妊ではない
- 治療と仕事との両立が困難
- 要件を満たさず 経済的負担が大きい
- その他

「以前から制度を知っているが、利用したことはない」理由（不妊治療を受けていない方のみ回答）

女性（回答者 n=179）

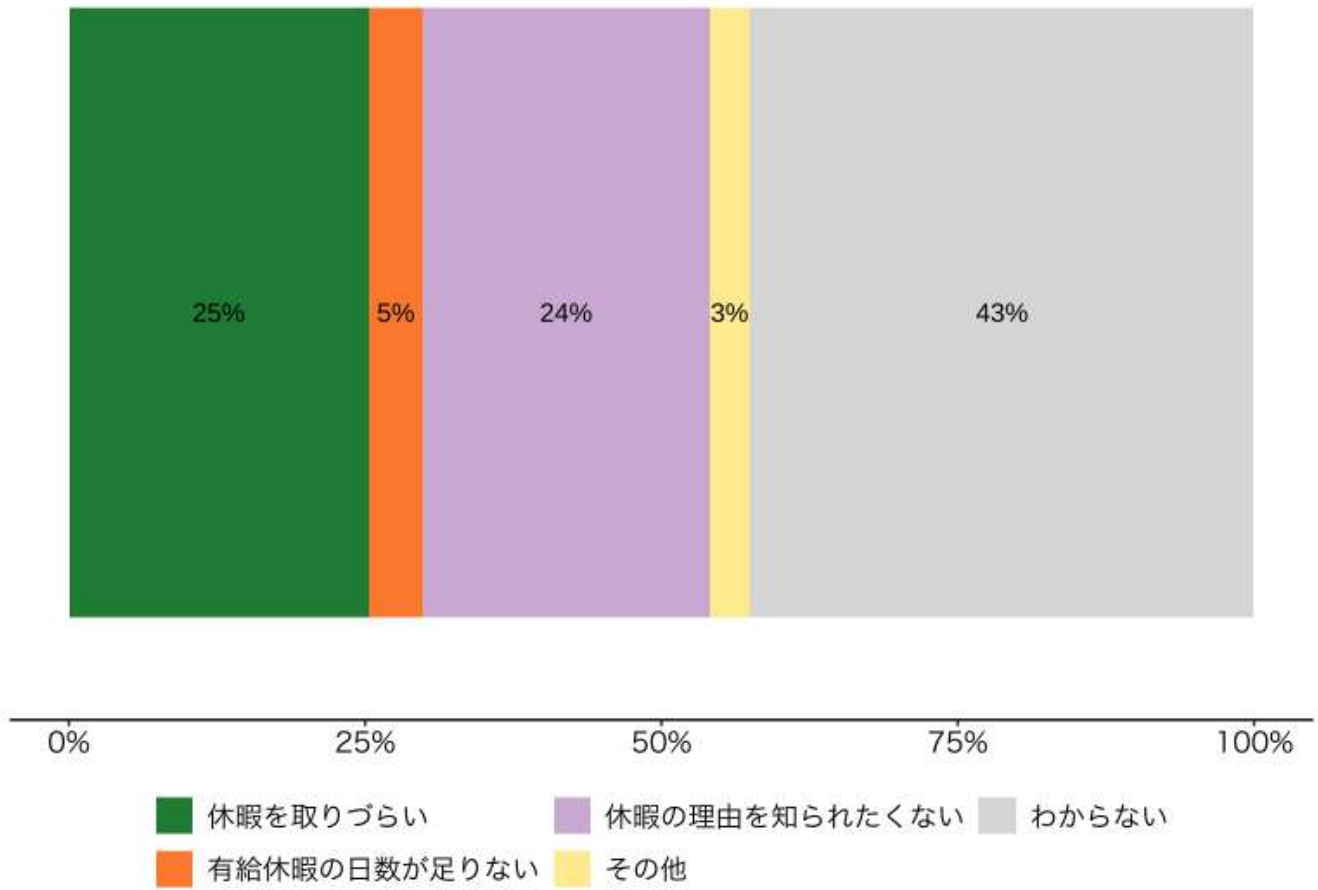


0% 25% 50% 75% 100%



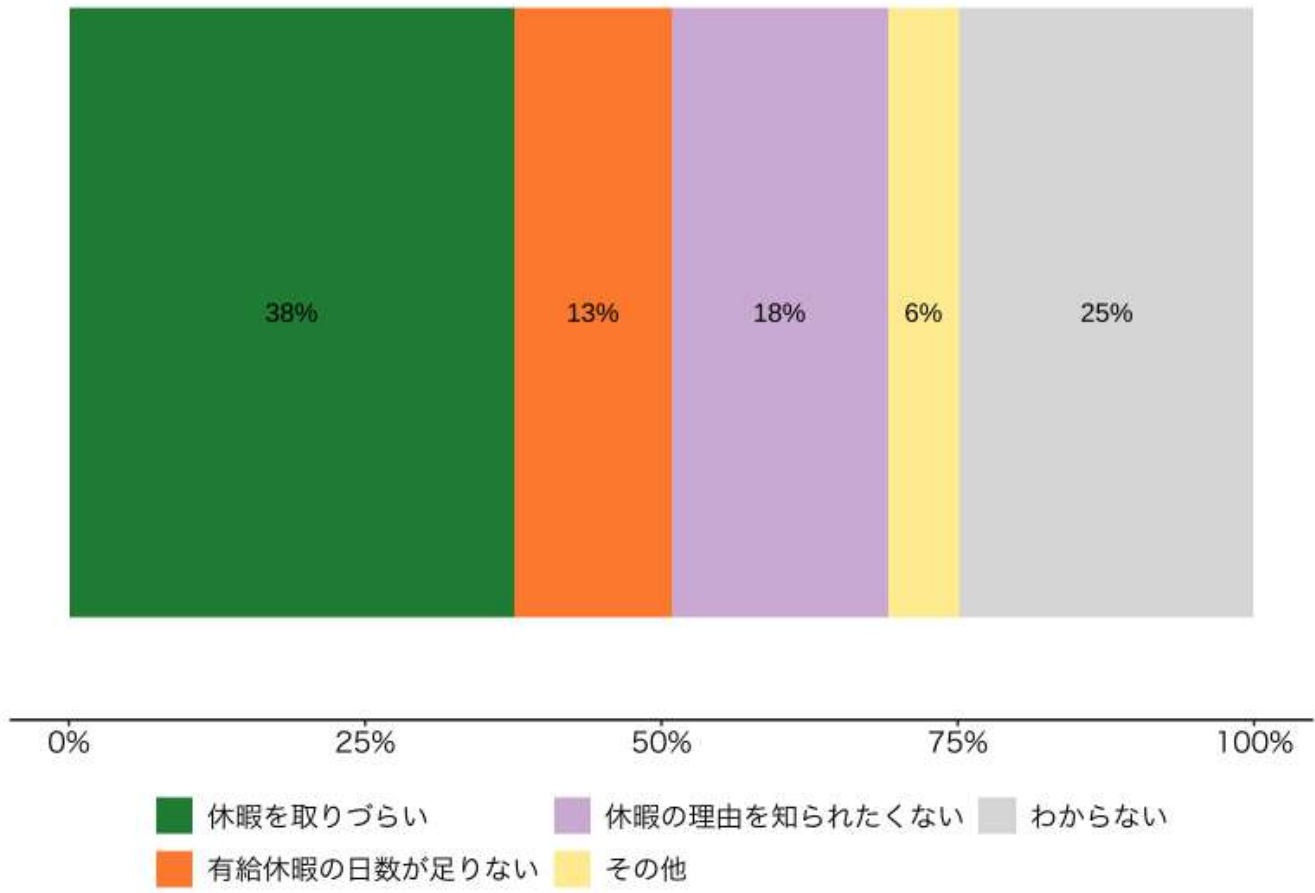
不妊治療と仕事の両立に関して職場におけるハードルがあると感じるか
(不妊治療を受けていない方のみ回答)

男性 (回答者 n=87)

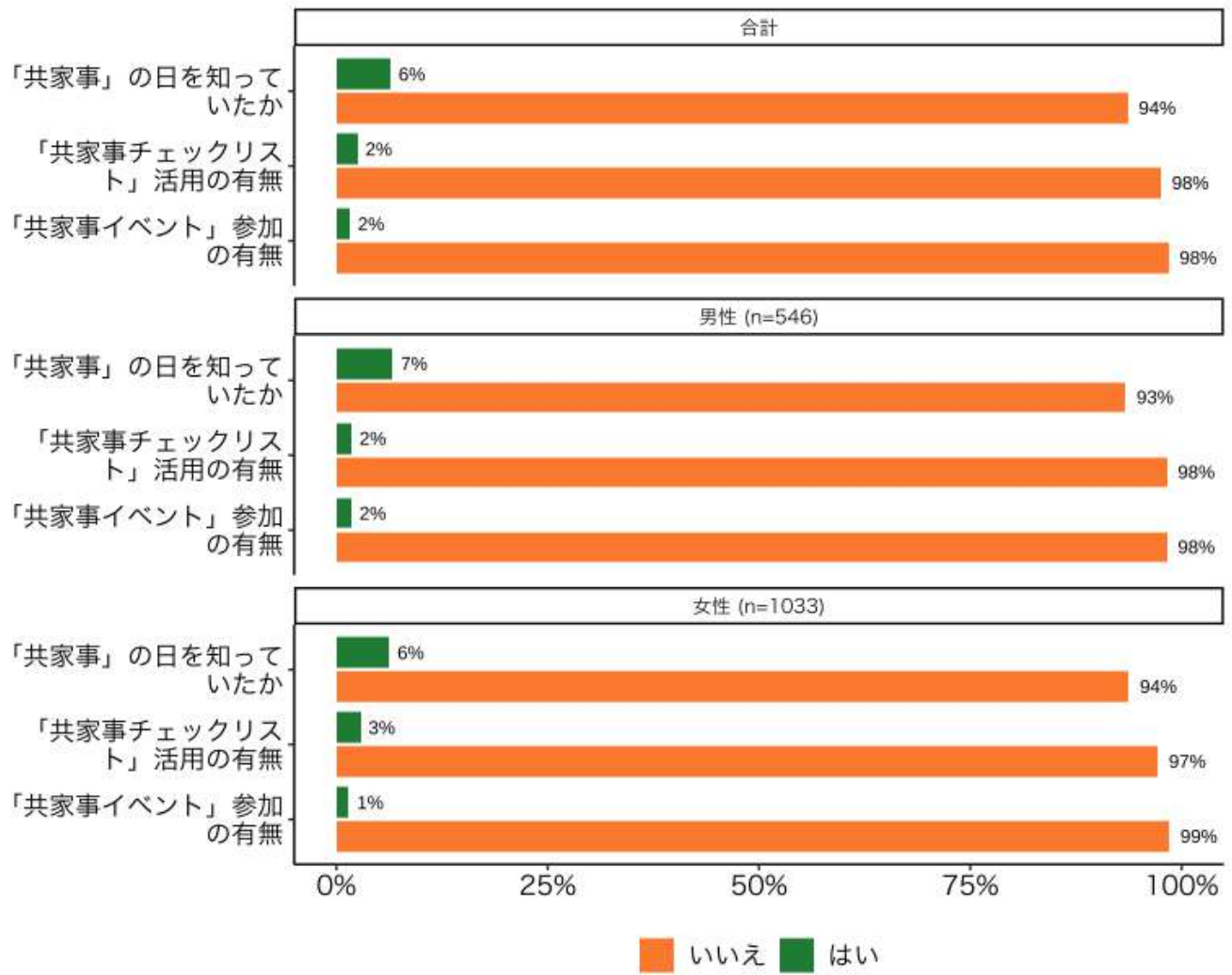


不妊治療と仕事の両立に関して職場におけるハードルがあると感じるか
(不妊治療を受けていない方のみ回答)

女性 (回答者 n=181)



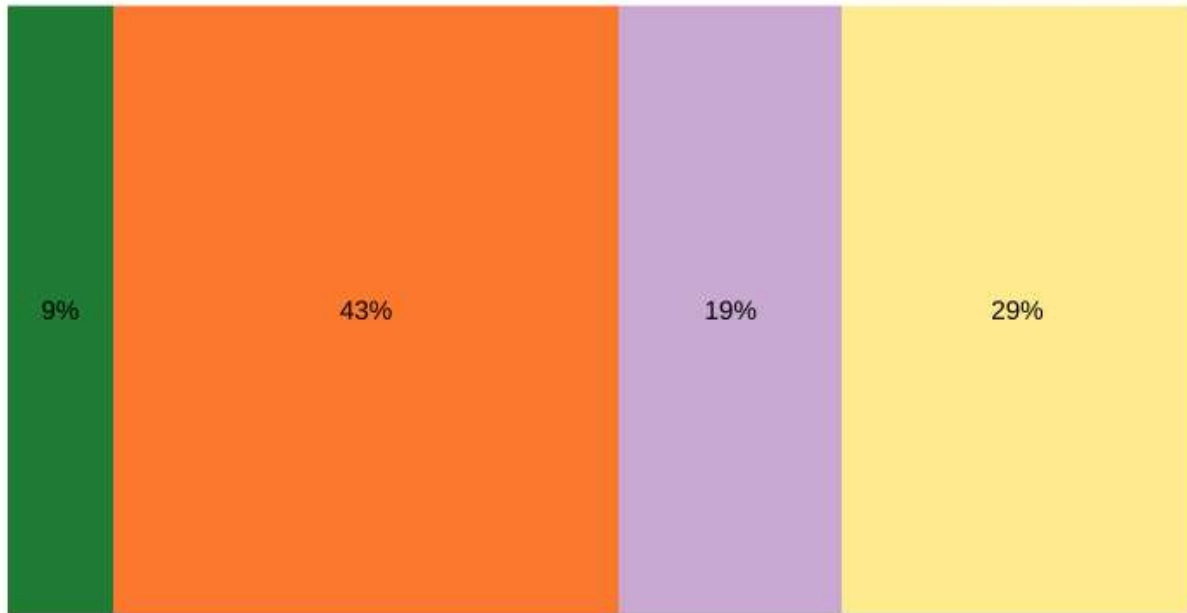
既存の子育て支援策に関すること（認知度、活用の有無）



共家事の促進について

本制度が夫と妻の理想の家事育児分担に向けて有効だと思うか

男性 (回答者 n=434)



0%

25%

50%

75%

100%

■ そう思う

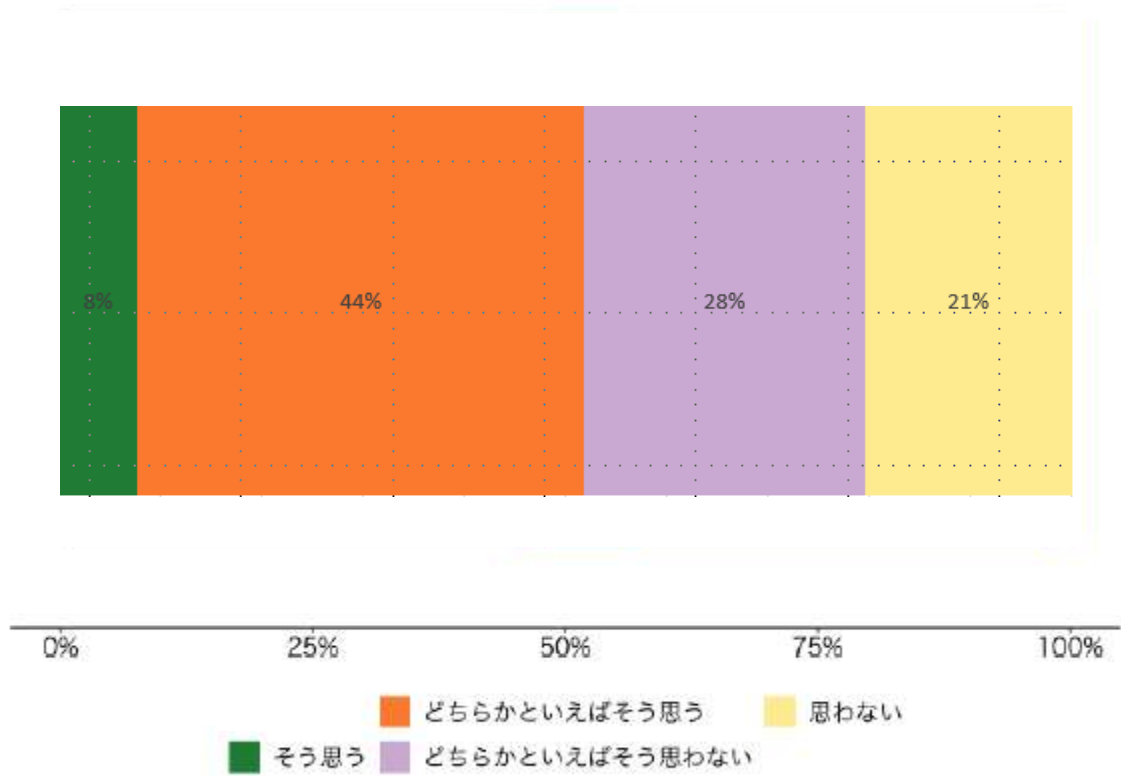
■ どちらかといえばそう思わない

■ どちらかといえばそう思う

■ 思わない

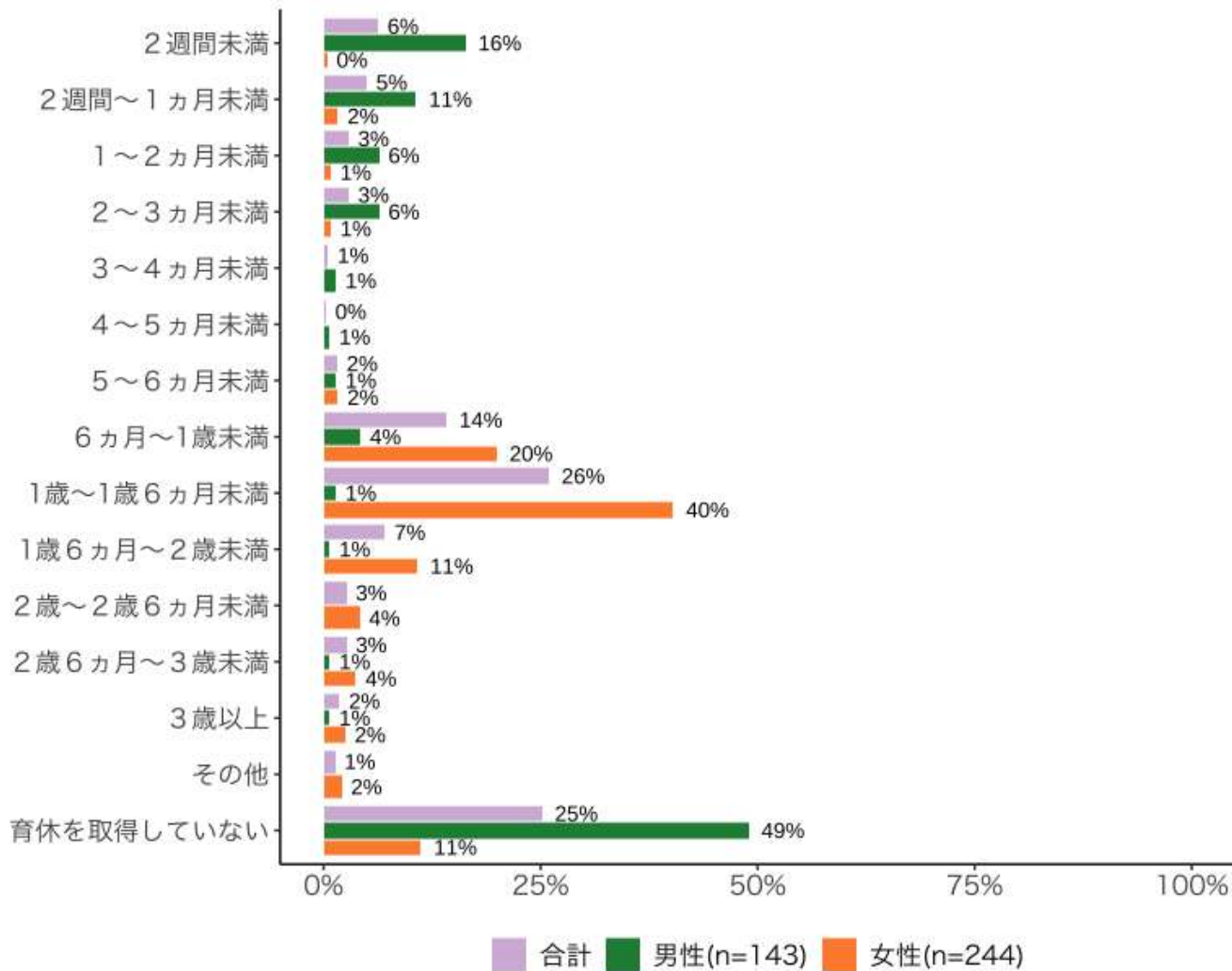
共家事の促進について
本制度が夫と妻の理想の家事育児分担に向けて有効だと思うか

女性（回答者n=829）

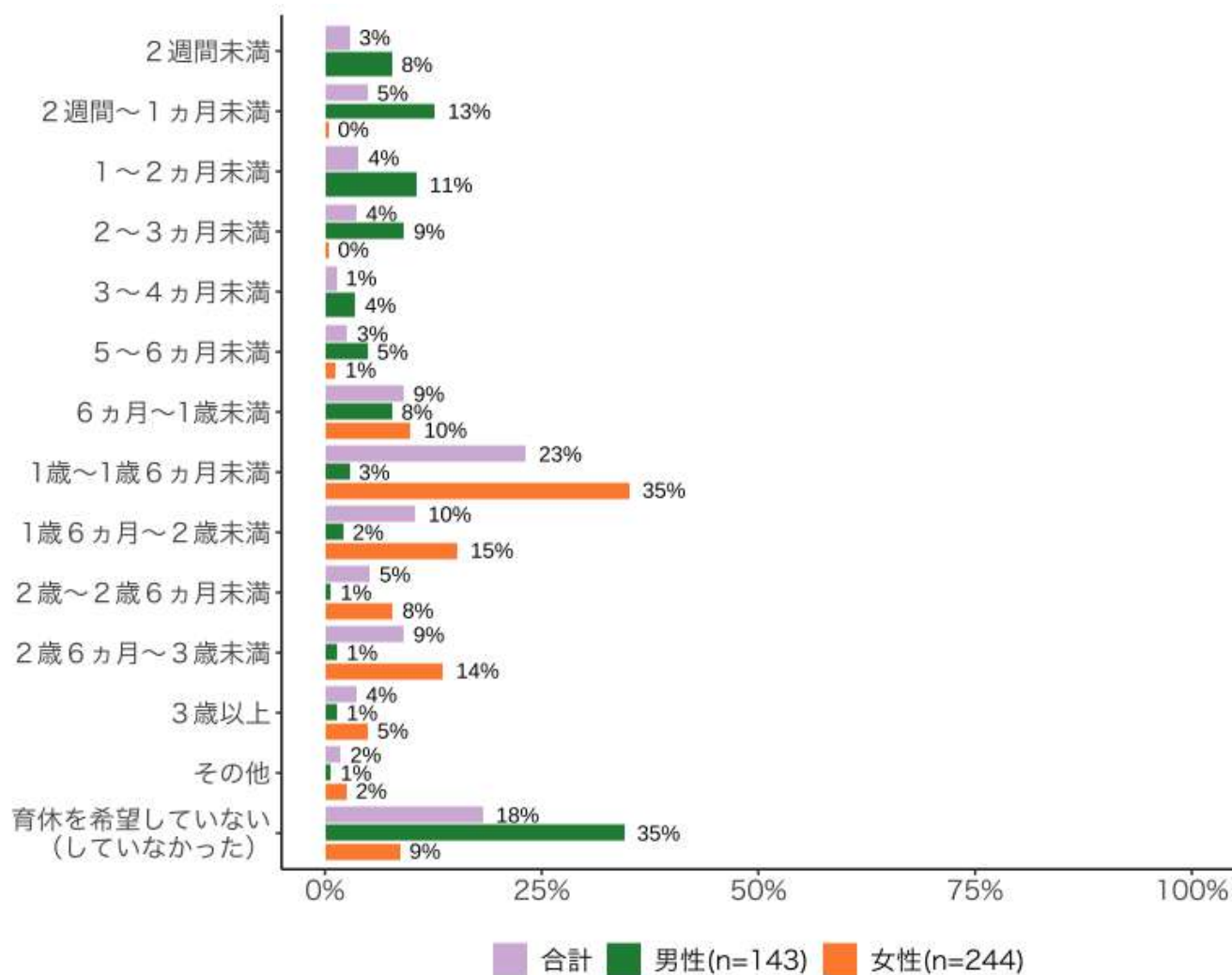


追加分析補項

問 16 あなたは、第一子のお子さんが何歳まで育児休業を取得しましたか。（予定含む）
 【問 10 で①～⑤と回答した方で直近 4 年以内に出産された方のみ】

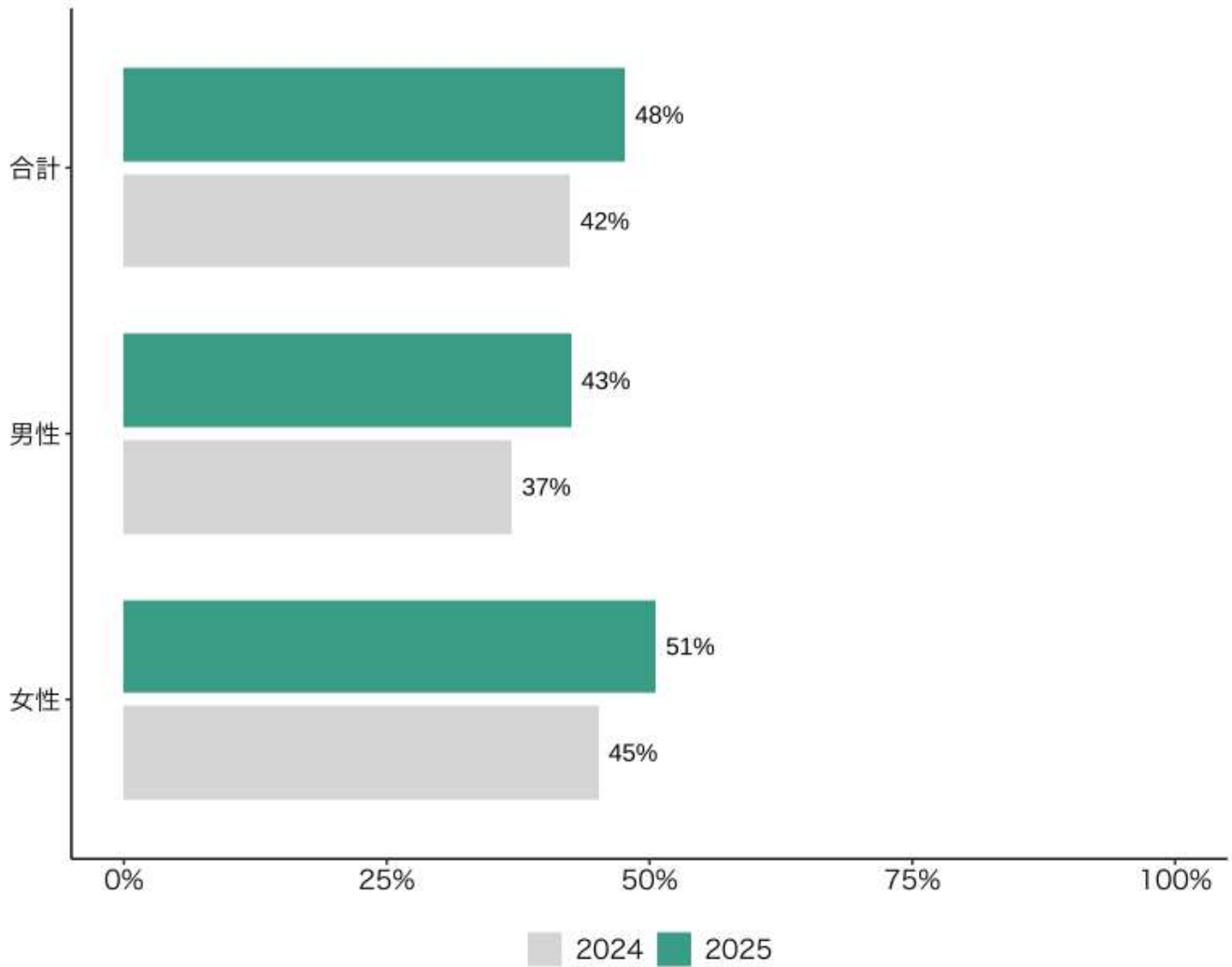


問17 あなたは、第一子のお子さんが何歳まで育児休業を取得したいと希望していました（希望しています）か。【問10で①～⑤と回答した方で直近4年以内に出産された方のみ】

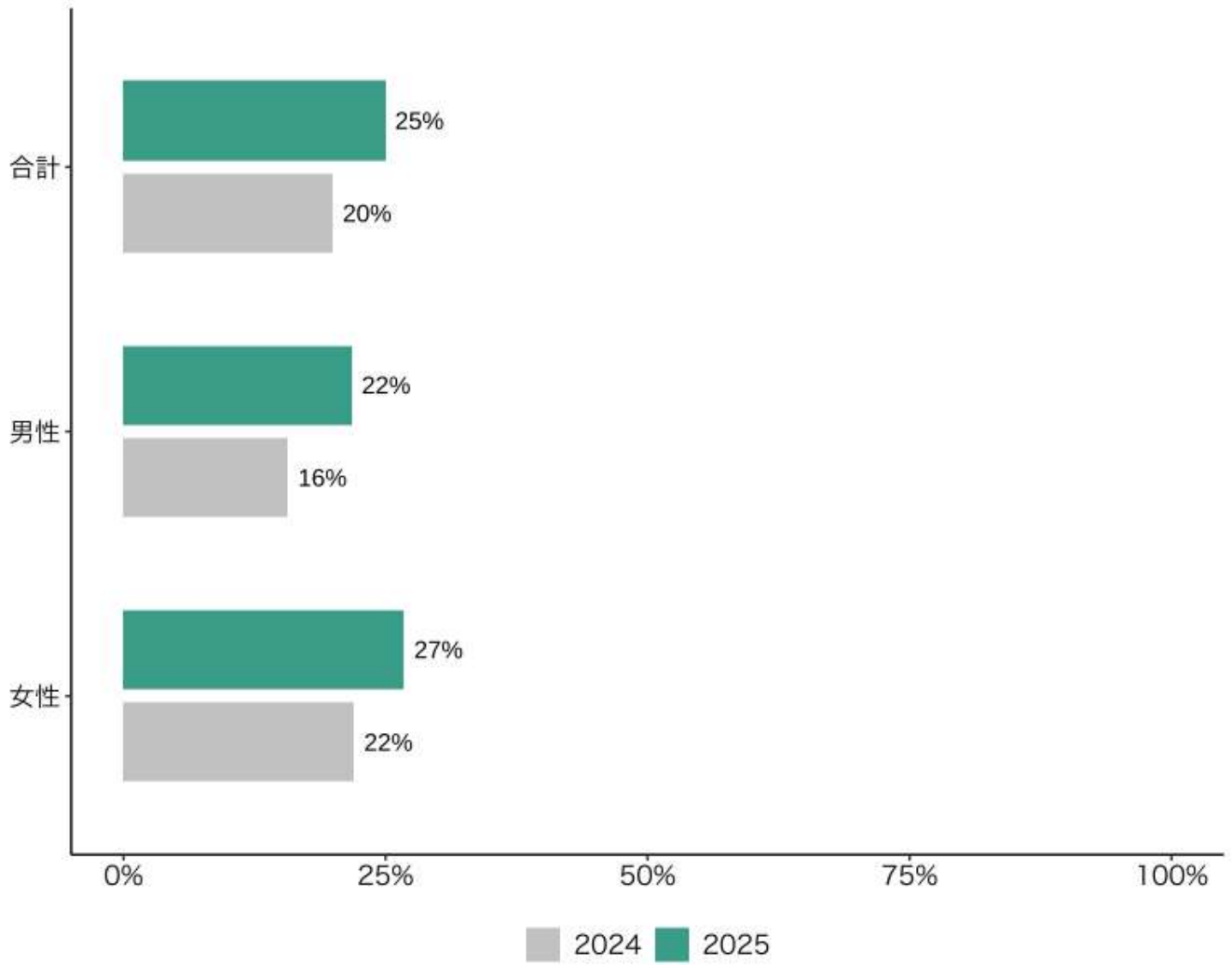


追加分析補項（2024年度調査との比較）

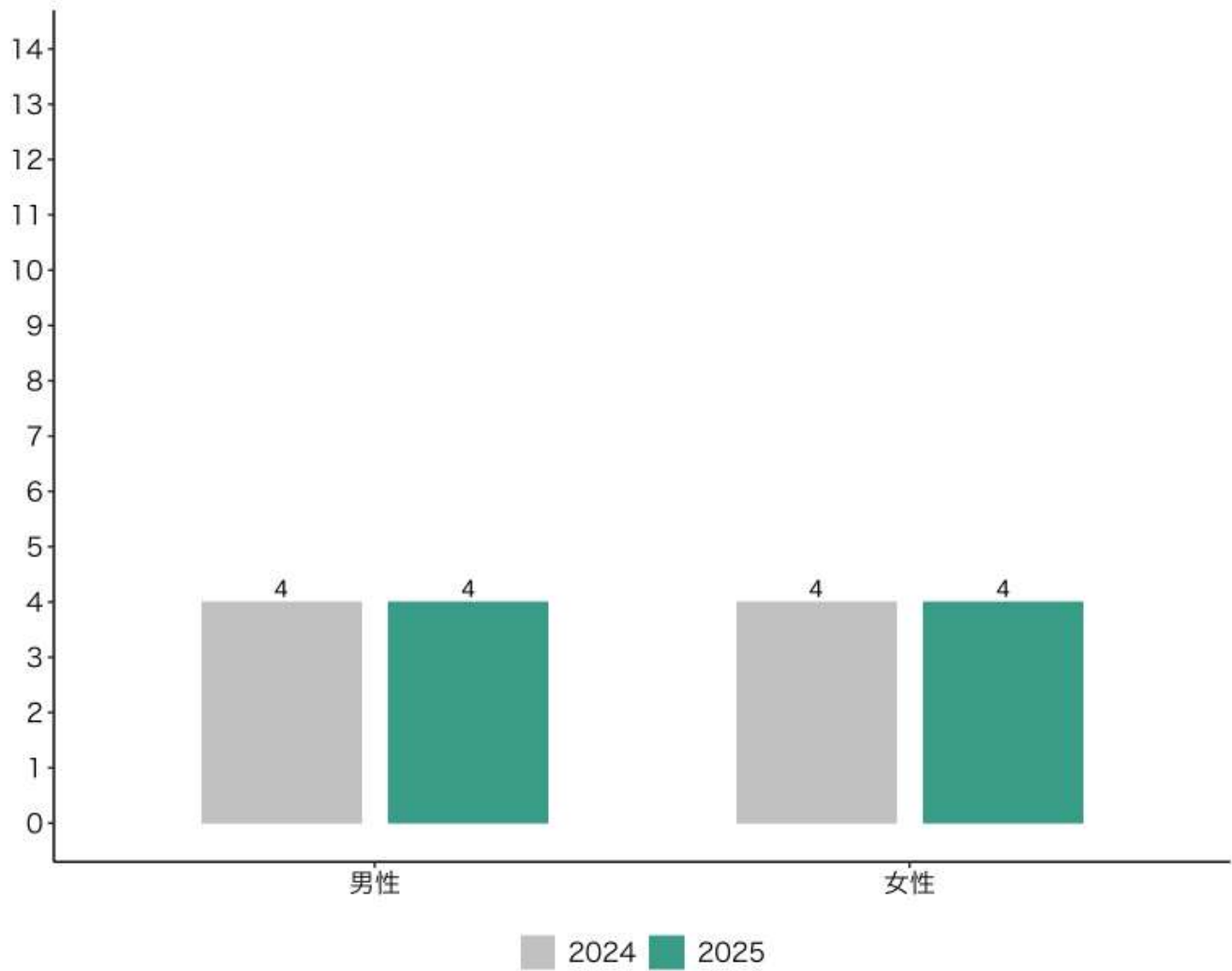
問 54 行政による子育て満足度（「とても満足」＋「まあまあ満足」）【子育て世帯以外を含む】



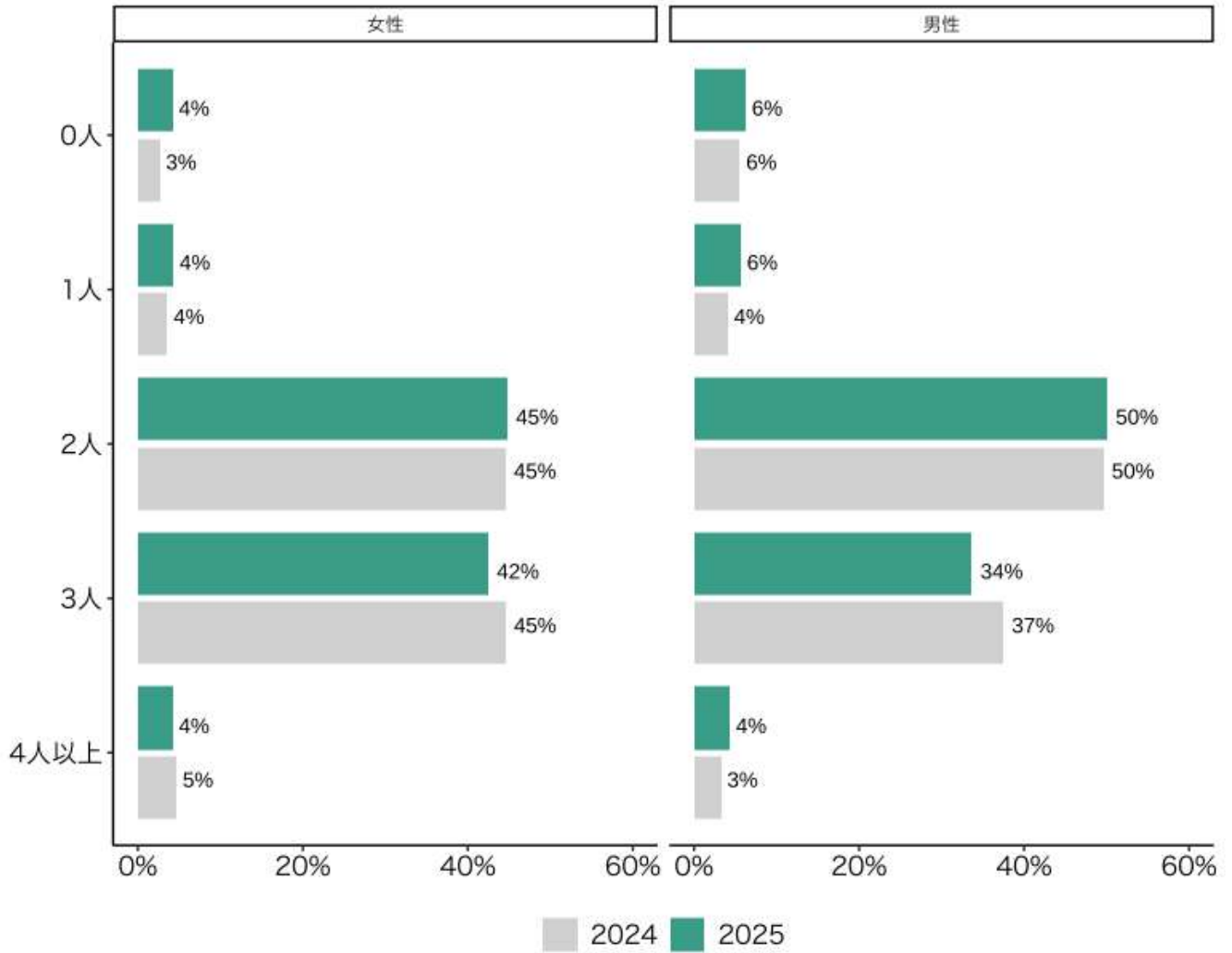
問 52 「ふく育県」という言葉を知っていますか



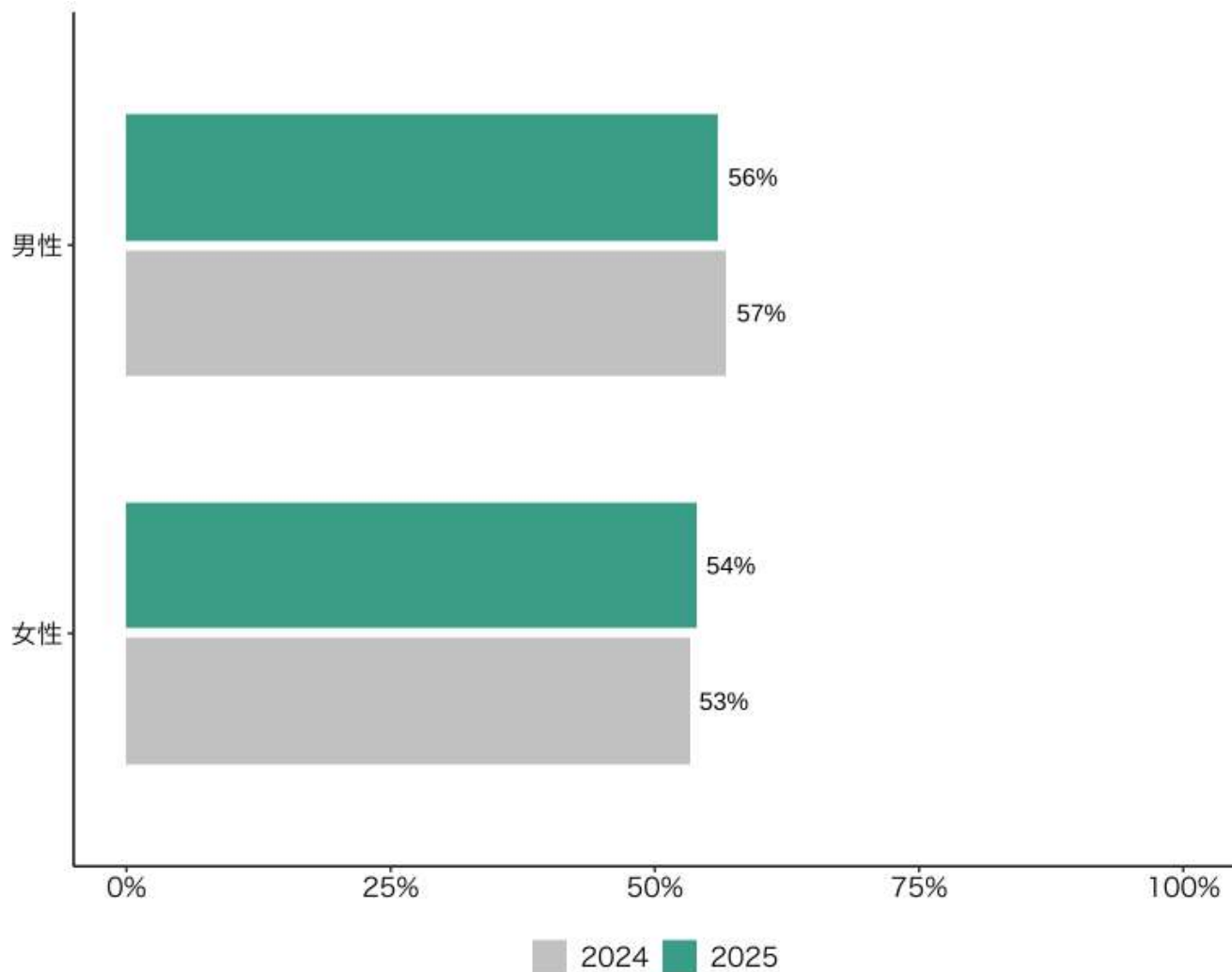
県独自 14 施策のうち「認知率 50%以上」の施策数



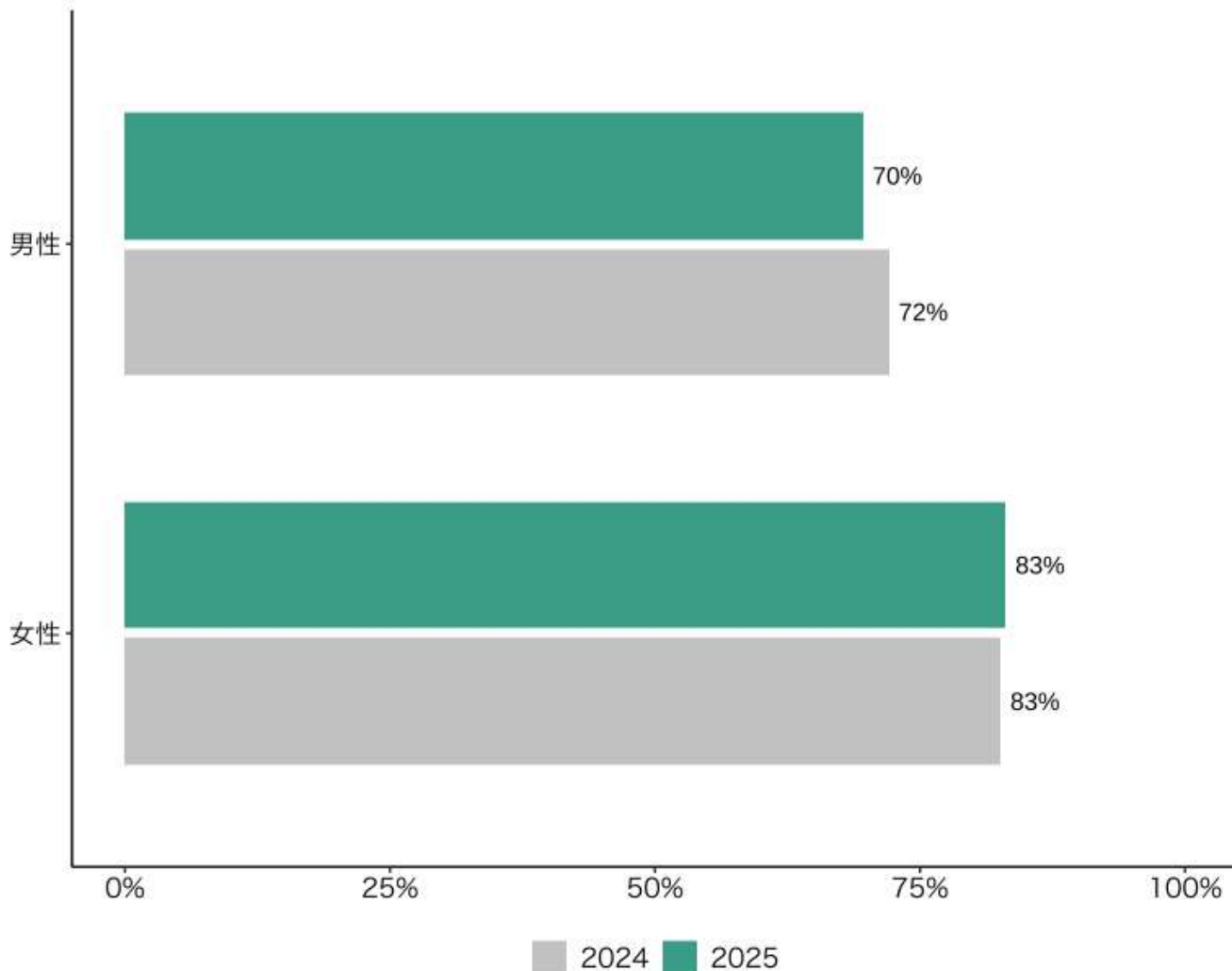
問 40 理想子ども数



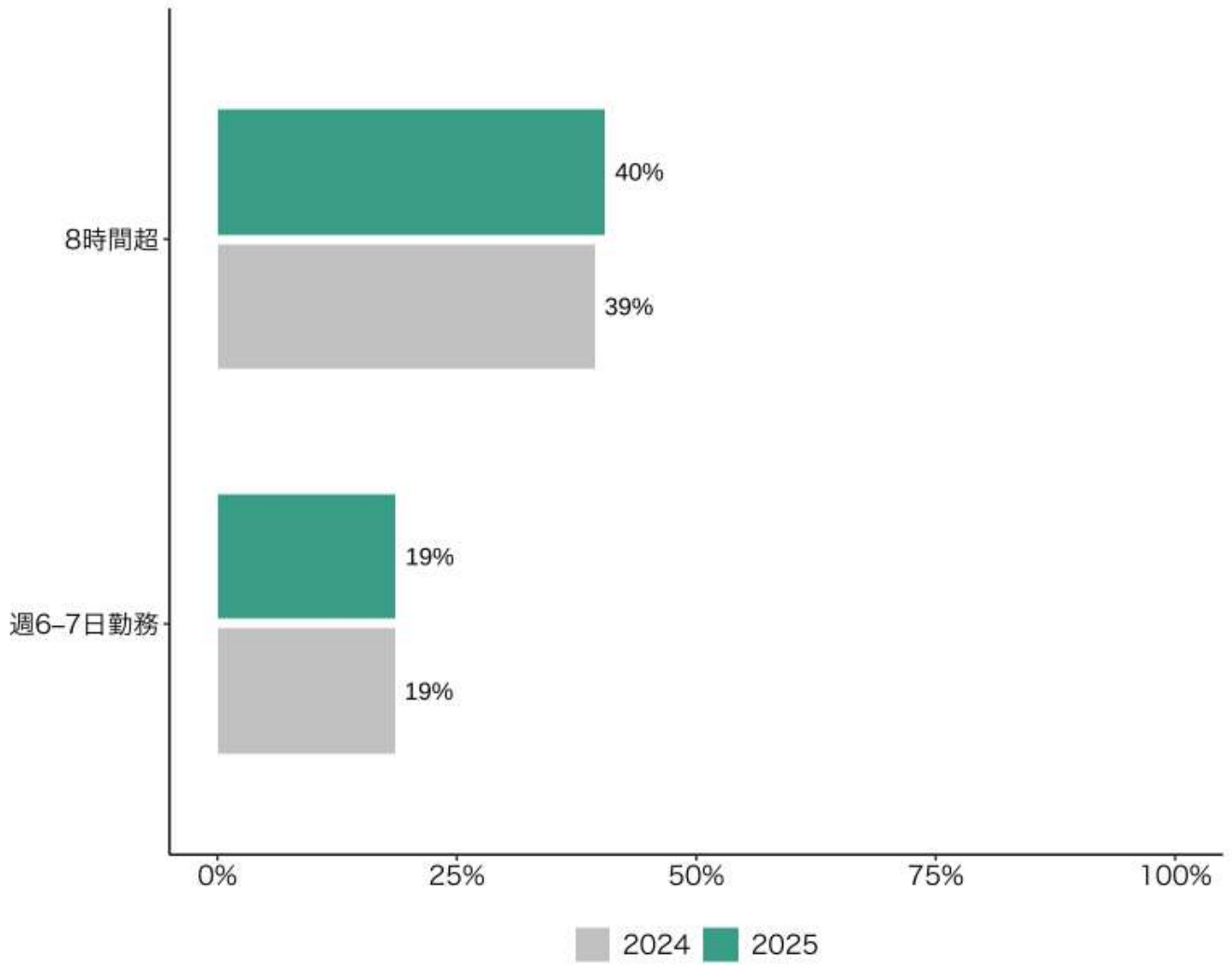
理想の家事・育児分担が「5:5」と回答している人の割合



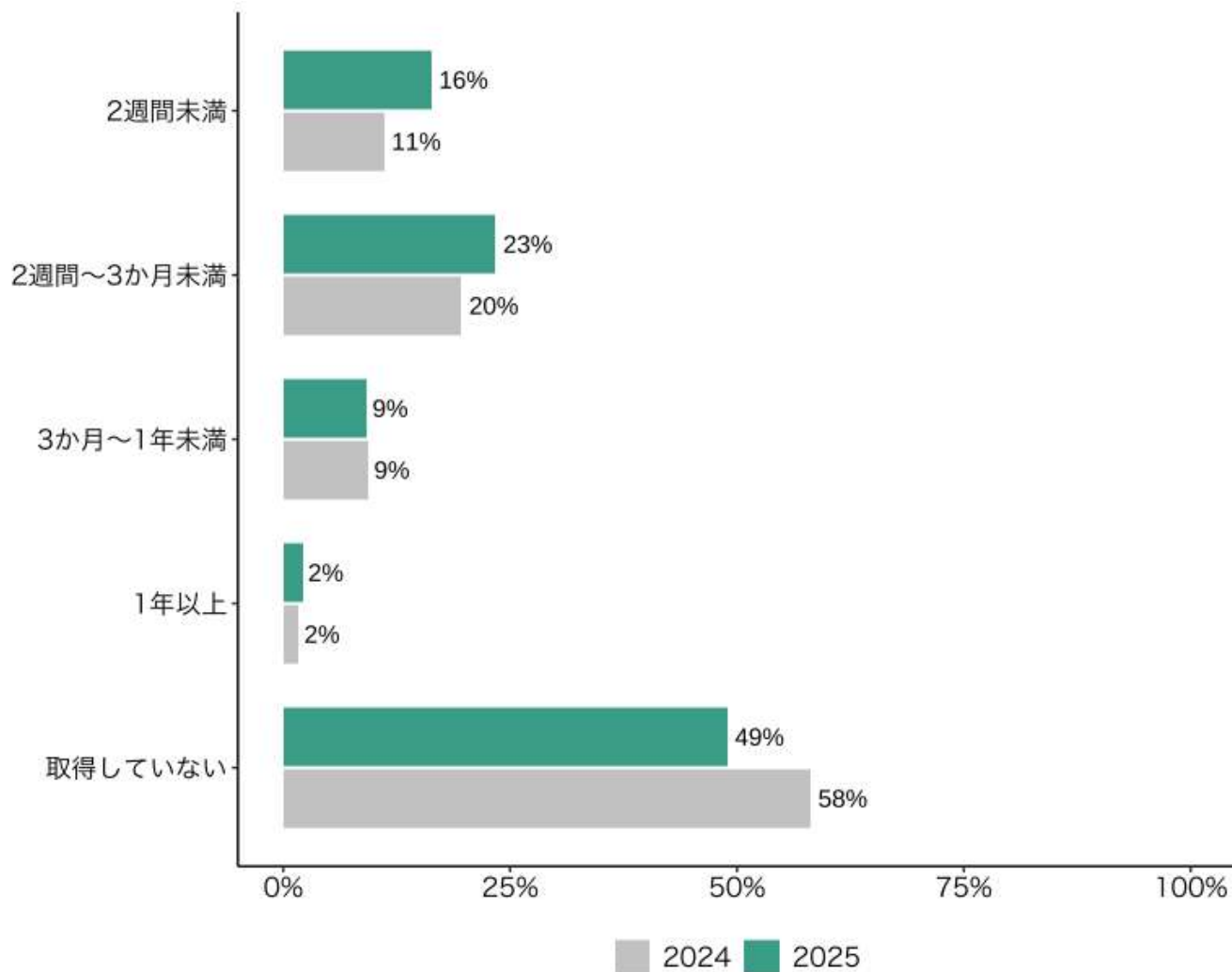
実際の家事・育児分担が女性の配分の方が多いと回答している割合



超過労働の男性の割合



過去4年以内に第1子を持たれた方の育休取得割合と期間



過去4年以内に第1子を持たれた方の育休希望

